

# 令和6年度 介護のしごとと魅力発信等事業



株式会社マガジンハウス

令和7年4月

事業報告書

## 目次

目次	…… p.01
事業目的・内容	…… p.02
本事業における我々の考え方	…… p.03
本事業における重要テーマ	…… p.04
プロジェクト全体像	…… p.05
企画委員会の設置	…… p.06
anan特集「自分を表現できる現場で働く、新しい介護のカタチ。」	…… p.13
POPEYE特集「介護の仕事ってこういうことだったんだ。」	…… p.18
こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」	…… p.23
こここ新連載「ケアするしごと、はじめの一步」	…… p.26
「anan×POPEYE ×こここ」連携冊子制作・全国書店配布	…… p.28
小学生向け冊子制作	…… p.31
展示会「ケアするしごと展」①	…… p.44
展示会「ケアするしごと展」②	…… p.51
「ケアするしごとバー」	…… p.57
「ケアするしごとツアー」	…… p.64
プレスリリース配信	…… p.72
事業実施一覧	…… p.73
事業効果測定	…… p.74
総括	…… p.75

## 事業の目的・内容

### 1. 事業の目的

イベント、テレビ、WEB等を活かした取組を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること。

### 2. 事業区分及び事業の主眼

#### 事業区分：情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業）

多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を深めるとともに、その魅力を感じてもらえるよう、イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を通じて、広く国民に向けた情報発信を行う事業。

### 3. 事業内容

#### ① 企画委員会の設置

- 実施主体の事業内容に対して客観的な立場から技術的・専門的助言等を行う企画委員会を設置する。
- 企画委員は、事業目的に応じて、学識経験者、有識者、職能団体、事業者団体、教育関係団体等からなるものとする。
- 企画委員会による専門的知見を踏まえて、事業内容を決定する。

#### ② 事業間連携会議への参画

- 事業間連携等事業の実施主体が開催する「事業間連携会議」及び介護の仕事のイメージアップに対する機運を高めることを目的に都道府県事業の関係者等を含めた会議・イベントに参画すること。

#### ③ イベント等の実施

- イベント等を実施し、介護のしごとの魅力を発信する。
- イベント等の実施にあたっては、多くの国民から新たに関心を得られるかという観点を踏まえ全国的な波及効果を期待できる事業内容を検討する。
- イベント等の実施に先立ち、情報発信事業の各実施主体及び事業間連携等事業の実施主体とも連携しながら、各種広告媒体を活用した周知を行う。
- 幅広く周知を行うためには、各実施主体のネットワークを相互に利用できるようにすることが効果的であるため、情報発信事業を実施する他の実施主体間、及び事業間連携等事業との間で相互に連携を図りながら事業を実施する。特に、介護職発信事業の実施事業者との連携については留意の上、事業を実施すること。
- 本事業で行う取組または本事業により作成した成果物は、国民の誰もがアクセスできる形態とする。

#### ④ 事業効果の分析等

- 事業実施に当たっては、責課及び事業間連携等事業の実施主体と協議の上、アウトカムの測定指標や測定方法を設定し、これに沿って実施事業の自己評価を行うとともに、事業間連携等事業等で実施する事業全体の効果分析の取組に協力するなど、個々の事業及び全体の事業効果の最大化に向け取り組む。
- 自己評価にあたっては、事業実施における課題を整理するとともに、企画委員などの専門的・技術的助言も参考にし、課題解決に向けた分析・考察も加える。

#### ⑤ 成果の報告

## 介護のしごとへまだ関心を持ってない層へ向けて、 そのやりがい、選択肢化への広報活動を精緻に行います。

私たちは、本事業にあたり、介護のしごとに対して関心を持っていない、職業選択の想定に入れていない20代～30代の若年層をメインの対象にした広報活動を展開します。また、それ以前の年代への啓蒙啓発も重要と考え、小学生向け（併せて、親や教員への理解促進も想定した）広報活動も行う計画です。

福祉・介護の現場には、さまざまな課題や悩みが存在し、高齢者の終末ケア、認知症ケア、障害者の生活・雇用支援等へのリアルな取り組みが行われています。その現場のリアルを捉え、その上で、そこにある科学的、医学的、人間的アプローチのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを伝えようと考えます。

前年度、本事業に取り組み、若い層に人気の雑誌anan、POPEYE誌面やウェブ、トークイベント、冊子の全国配布を通して幅広い層に興味喚起を行いました。また、福祉をテーマにしたメディアここでの連載やイベント等を通して理解促進にも取り組みました。こうした興味喚起から理解促進、そして情報リサーチといった行動変容に応える広報活動を次年度もより精緻化して取り組む所存です。

「ケア」という概念は、個対個を超え、コミュニティ、社会全般の問題になっています。こうした俯瞰的視座を、今はまだ無関心、未関心の若年層に

向けて、具体的に、わかりやすく、そして、クリエイティビティに溢れる姿として、発信していきます。

私たちマガジンハウスはメディア運営のスキル、クリエイターや著名人との関係を通じて、これまでも現在も、多くの読者と出会い、共感を軸につながり、一定の影響を持つチームです。私たちが、福祉・介護の現場で優れた実践を行っている事業者や専門家と連携しながら、福祉・介護にこれまで出会っていなかった層も含めて、多くの方と発信を通して出会い、つながり、福祉・介護のしごとへの理解や従事への第一歩をつくる事業を展開したいと考えます。

コンテンツの質、そして、戦略的な広報展開を通して、単年度のみならず、今後に残る広報活動をデザインしてまいります。





## 若年層への認知と理解の促進

日本の高齢化社会で増大する介護のニーズに応える人材確保のために、20～30代を中心とした若年層への認知拡大と理解促進。



## プレ若年層への早期からの興味喚起と理解促進

進路職業選択を具体的に決める高校生、大学生より早期の段階で、「ケア」や「介護のしごと」への興味や理解を図る活動も必要。  
無料・使用許諾不要で誰もが使える「小学生向け（親や教員への解説つき）ブックレット」を制作、配布



## 福祉・介護職のリアルを伝える

福祉・介護の価値を発見し、発信していくにあたり、決して美辞麗句やイメージ先行ではなく、福祉・介護の現場のリアルを伝える。



## ポジティブに働き方、キャリア等の情報を伝える

意義ややりがいというストーリーとは別に、より具体的な給与、労働条件、職場実態、キャリア形成、ワークライフバランス、多様な働き方の選択肢などの情報面もサポート。

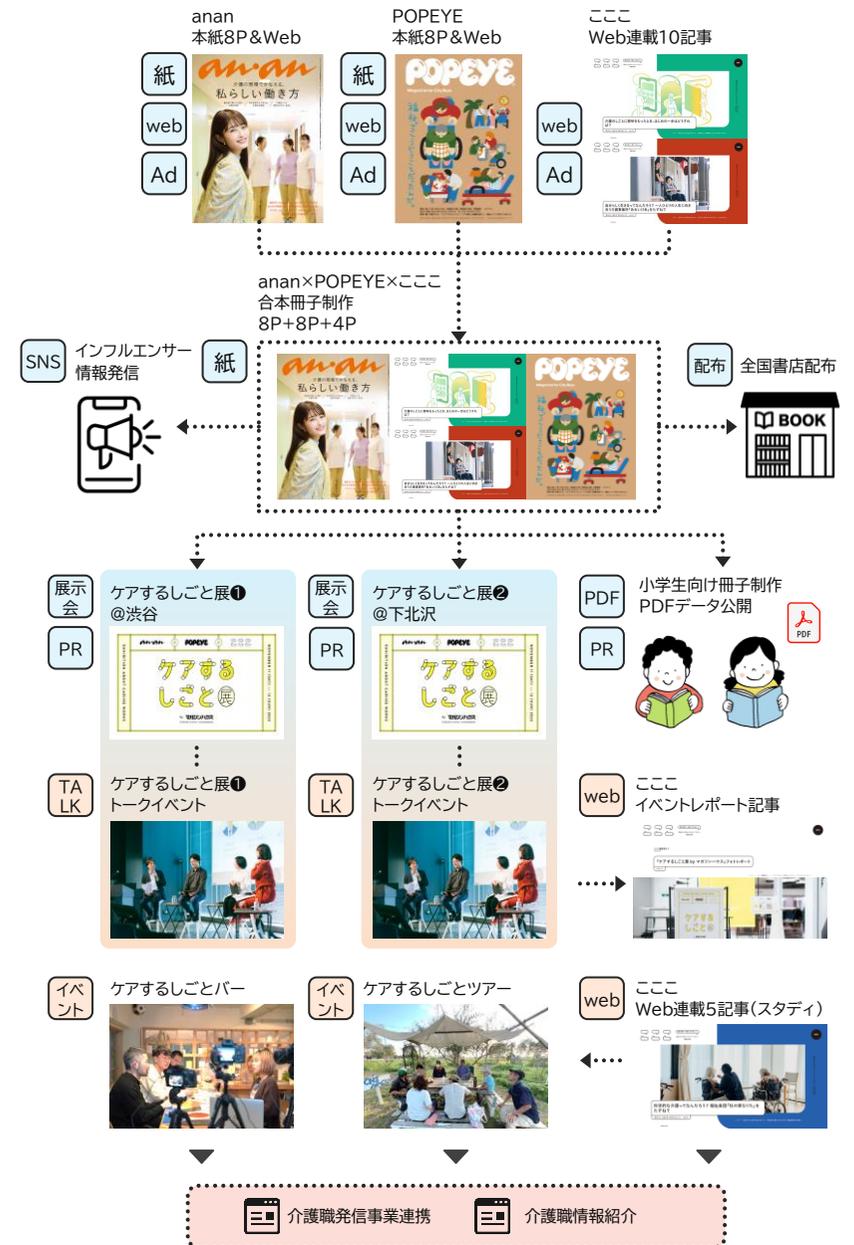


## 広報効果の向上

メディア運営の知見を生かし、興味喚起、理解促進、情報取得といった広報ニーズの流れに従った広報事業の展開と検証を行い、広報効果最大化へのプロトタイプを探る。

# 事業プロジェクト全体像

WHO	WAHT	TOUCH POINT	HOW
無関心層	興味喚起	メディア(紙・Web)	anan
		メディア(紙・Web)	POPEYE
		メディア(Web)	こここ(連載①)
		Web・SNS	Web記事広告配信
		全国書店	連携冊子制作・配布
		PDFデータ公開	小学生向け冊子制作
		イベント	ケアするしごと展①
		イベント	ケアするしごと展②
		SNS	インフルエンサー発信
		Web	プレスリリース
関心層	理解促進	メディア(Web)	こここ(連載②)
		イベント	ケアするしごと展トーク①
		イベント	ケアするしごと展トーク②
		イベント	ケアするしごとバー
		イベント	ケアするしごとツアー
		メディア(Web)	こここイベントレポート記事
検討層	しごと情報	メディア(Web)	こここ連載(介護職発信事業連携)
		メディア(SNS)	こここSNS(介護職情報紹介)



## 企画委員会の設置

多くの国民が、福祉・介護の仕事について理解・関心を深めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにするため、学識経験者、有識者、職能団体、事業者団体、教育関係団体等からなる企画委員会を設置。また、前年度に設置した若手企画委員会も継続し、本年度事業への関わり方を強化。

### 企画委員会 委員



秋本可愛さん

株式会社Blanket代表取締役  
KAIGO LEADERS発起人



大崎雅子さん

社会福祉法人海望福祉会  
理事・総合施設長



川村岳人さん

立教大学コミュニティ福祉学部  
准教授



森下静香さん

Good!Jobセンター香芝  
センター長



矢島進二さん

公益財団法人日本デザイン振興会  
理事

### 企画委員会開催日

第1回：9月24日（火）

第2回：12月4日（水）

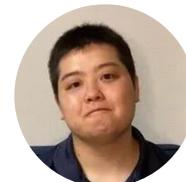
第3回：2月28日（金）

### 若手企画委員会 委員



森近恵梨子さん

KEY STATION  
マネージャー



佐藤悠佑さん

特定非営利活動法人  
Startline.Net代表理事



吉田響さん

社会福祉法人福祉楽団



井原純平さん

ソーシャルワーカー  
(精神保健福祉士) 写真家



はたつんさん

介護福祉士  
インフルエンサー



中谷

中谷萌生さん

介護福祉士  
認知症ケア専門士

### 若手企画委員会開催日

第1回：9月5日（木）

第2回：12月10日（火）

第3回：3月4日（火）

## 企画委員会の開催

### 開催日

第1回:令和6年9月24日(火)16:30-18:00

### ○ 参加者:企画委員

秋本可愛氏、大崎雅子氏、川村岳人氏、森下静香氏、矢島進二氏

### ○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室マンパワー企画係 様  
PwC コンサルティング合同会社 様

### ○ 実施主体

マガジンハウス

### ■ 議題

・今年度事業の概要・進捗状況説明

・今年度事業に対する意見聴取

↳ 介護のしごとに対する既存イメージを変えるために重要な事や  
有効な方法等について議論

### ■ 企画委員からの主なコメント

| 事業全体

・新しいことも盛り込まれていて楽しみである

・介護のメイン職である介護福祉士だけでなく、その周辺で働く看護師や送迎を行う運転士なども含め、福祉の現場を選ぶことにどんな意味があるのか、知ることのできるような機会を提供できたらと思う

・キャリアアップは個々にバリエーションがあるものだが、そこでの生きがいや、法人内のキャリアアップを目指すのか、独立するのか、人それぞれのキャリアアップのかたちがあること示したい

| 展示イベントについて

・開催地は東京だけでよいのか、他地域での開催も検討する必要があるのでは

・パネル展は展示資材が残るため、横展開しやすい。特養の地域交流スペースなど、どこでも使えるようなフォーマットを確立させ、HPに「展示してみませんか?」と呼びかけるかたちなら全国的な展示に発展させられ、今年度より動き出せるのではないかと

| 小学生向け冊子について

・人を支える仕組み、しごとがあることを伝えることは非常に意義深い

・困ったら人に頼ってもいい、それを仕事にしているプロがいるということを伝えられることも重要(例:ヤングケアラー)

・保護者や教員などの周辺にいる大人が読むことを想定していることが大切

・どうしたらより多くの児童へ届けることができるのか検討を重ねることも大切ではないか

・来年度以降、小学生からみたケアのレポート、父母の職場訪問、地域の子どもたちが施設を尋ねるレポートなどの企画を立ち上げることで、現場で実感をもって読んでもらいやすくなるのではないかと

・冊子と関連した授業やワークショップなど、リアルな場面が生まれていくと、子どもたちの受け取った感触を直接知ることができるのでは

・教育の現場でも「ステキ!」「カッコいい!」と目を引く教材がほしい、という意見も上がっている。将来福祉の分野で働く人材の目に多く触れてもらえるものができるのではないかと期待している

| ツアーについて

・ロールモデルだけではない説得力につながる取り組み

・メインターゲットは検討層だが、いずれは関心層に対象を広げていき、インターンのようなかたちで参加してもらえることで、進路のきまっていない学生が福祉を知る機会にもなるのではないかと

## 企画委員会の開催

### 開催日

第2回: 令和6年12月4日(水)13:00-14:30

### ○ 参加者: 企画委員

秋本可愛氏、大崎雅子氏、川村岳人氏、森下静香氏、矢島進二氏

### ○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室マンパワー企画係 様  
PwC コンサルティング合同会社 様

### ○ 実施主体

マガジンハウス

### ■ 議題

- ・今年度事業の進捗状況説明
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

### ■ 企画委員からの主なコメント

| anan・POPEYE特集記事について

- ・コンテンツをつくる取材力、興味を持つみせかた、素晴らしい
- ・昨年ananに出た事業者が今年POPEYEに出ていて、重複が少し気になった
- ・実践事例が全国各地にあるのでより多く自分も紹介したい
- ・かっこよく引き込まれる仕立て方がマガジンハウスの「らしさ」で「強み」だと思った、こういう切り口での発信で介護へのイメージが変わってくるのでは
- ・継続していくことで無関心層～現職者にも広く届けられるのでは
- ・それぞれの領域と強みを活かして、団体同士が共同してさらにリーチを広げていけたらと考えている
- ・受賞した旨を記事化することで、関心層への興味をさらに掘り起こせるようなトピックになるのでは
- ・テクノロジーやローカルなどの視点は具体的で、よく伝わったのではないかと
- ・来年以降は、従来の無関心層などの20～30代個人に働きかける雑誌・イベント・トークを展開する一方で、スタッフを雇う側・組織側への呼びかけや企画があるといいのでは(例:WEBサイトなどの広報発信、地域や大学との交流がリクルートへつながることなど)

- ・記事を見た読者からのコメントや意見の吸い上げをする際には、福祉プロダクトをプレゼントする企画などと並行してやってみては
- ・芸術や音楽、旅など複眼的なテーマでクロスしながら介護のしごとを知ってもらうことで親近感やリアリティが得られる。その多様さを今後も深めてほしい

| 展示イベントについて

- ・様々な人々が通る場で開催することで、通りかかった人が立ち止まってくださるような機会が生まれた
- ・アンケートを拝見するに、通りすぎりの方も立ち寄れて、過半数の方に即時的な効果や好印象を与えられていたのはよかったのでは
- ・会場について、渋谷・下北沢のほかにも違ったカルチャーをもつ都市で開催することを検討してみてもいいのでは

| ツアー企画について

- ・関心層を検討層に引き上げるうえでは現場を知ってリアリティをもたせることは重要、いい企画だと思う
- ・学生は就職を意識するときは「インターン」を考える印象。インターンシップの選択肢のひとつとして企画を差し出せるような工夫も有効なのではないか

| 小学生向け冊子について

- ・言葉の届け方や方向性についても相談し進められてよかった。忖度してしまいかねない部分についても正直に議論しあえたことが印象的だった
- ・この冊子をマガジンハウスから出すことに、意義があるのではないかと感じている
- ・12～15歳へ伝える切り口についても検討してみてもどうか

| 今後の事業展開やターゲット層について

- ・施設側の魅力的な発信をサポートできるような講座や好事例をしめすものがあると、地域で活動する法人の役に立つものになるのでは。その場合も、マガジンハウスの視点や手法、ネットワークを活用しながら伝えられたらよいのではないかと
- ・中学生～高校生へのアプローチについても検討したい。だが、ご本人に興味をもってもらっても保護者や教員などに反対されてしまうことも、そこへの働きかけかたについても併せて検討してみても
- ・いまの仕事に違和感を持っている人々に関心層・検討層へ引き上げていく働きかけも必要なのではないか

## 企画委員会の開催

開催日

第3回: 令和7年2月28日(金)13:00-14:30

○ 参加者: 企画委員

秋本可愛氏、大崎雅子氏、川村岳人氏、森下静香氏、矢島進二氏

○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室マンパワー企画係 様

○ 実施主体

マガジンハウス

### ■ 議題

- ・今年度事業の状況報告
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

### ■ 企画委員からの主なコメント

| ツアーについて

- ・各回10~15名、いろいろな方にご参加いただいた。介護の魅力や側面を多角的に知ってもらえる機会になったのではないかと。参加者の中に介護職の方も一定数いた。業界のなかで離職率が約半数、離職防止の観点からも価値があるのではないかと
- ・これまで介護の無関心層に着目してきたが、新規開拓だけでなく、すでに働いている人へ向けても、二面的な展開ができるのでは

| 小学生向け冊子について

- ・保護者や先生、教育関係者が正しくリアルかつ誠実な情報を求めるニーズがある。子どもたちが将来の職業について考えるときに、福祉職が給与・生活面としての職としてどうなのか、キャリアはどんな風に描けるのか、プライベートと仕事のバランスも含めた「礎力」を知りたいのだと思う。自分の生活圏のなかで福祉職に近づいていけるような情報を差し出すのは大切。マガジンハウスが「幸せに生きること」についてわかりやすく紐解きアプローチしたことに意義がある。市町村では発信できる「コンテンツがない」という声も耳にする。各所に紹介したりツールがあることを声をかけていき、この冊子を契機につながっていけるとよいのではないかと

・「見えないバリア」「生物体」のようなキーワードを知っていくことで、自然と身についていくようなものになっていると思った。読みながら一緒に考えていけるものにもなっている。来年度、冊子を使っている学校や地域、コミュニティでの使われ方などをWEBで共有できる機会があるといいのでは。座学、カードゲーム、紙芝居、クイズ形式など、伝え方に合わせたいくつかのバージョンがあるといいのでは

・いま幸せでないと感じている子どもたちがこの冊子を読んだらどう思うのか。「ケアする・よりそうはある意味上から目線」という意見もある。すべてがそうではないし、される側の視点も大切な部分なのではないか

| しごとバーについて

・こういったイベントの必要性を非常に感じ、ケア専門でない人でも福祉の仕事に従事できる余地があるのではないかと可能性を感じた回だった(第5回)

| anan・POPEYE特集記事、合本について

・大学生は、単に仕事だけでなくライフスタイルを描けるかに注目している。しごとの魅力だけでなく、こんなことができるライフスタイルの提案を継続していけたら

## 若手企画委員会の開催

### 開催日

第1回:令和6年9月5日(木)16:00-17:30

#### ○ 参加者:若手企画委員

井原純平氏、佐藤悠佑氏、はたつん氏  
中谷萌生氏、森近恵梨子氏、吉田響氏(書面回答)

#### ○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室マンパワー企画係 様  
PwC コンサルティング合同会社 様

#### ○ 実施主体

マガジンハウス

### ■ 議題

・今年度事業の概要・進捗状況説明

・今年度事業に対する意見聴取

└ 介護のしごとに対する既存イメージを変えるために重要な事や  
有効な方法等について議論

### ■ 若手企画委員からの主なコメント

└ 事業全体について

・前年度の取り組みにおいて、雑誌anan、POPEYE誌面やWEB、トークイベント、冊子等での発信が、職業としての「介護」の新しいブランディングに寄与していたと考える

・介護の仕事の良い面だけを表面的に取り上げ、無理にポジティブに変換する発信が目立っていたと個人的に感じていたが、介護の仕事そのものの奥深さを洗練された印象で広く介護無関心層に発信していただけたと感じている。このような発信を続けていただくことで、特に若い世代の「介護の仕事」に対するイメージの変容につながっていくと考えますので、是非とも継続していただけることを期待する

・良いケアを発信するから良い介護施設とは限らない、と介護士を8年続けておもっていた。スタッフに対して良い環境だから、良いケアが主体的に行われる。この環境に行き着いてる施設は増えてはきていますがまだまだ足りてないのが現状。介護看護専用の単発バイトのアプリができたり、夜勤の勤務時間の短縮、仮眠時間の確保、オムツなどの排泄物品のグレードアップなど現場のスタッフに新しい情報が発信できれば施設内の革命のいいきっかけになるかもしれない

└ anan・POPEYE記事掲載について

・印象として、取材先はSNSでよくみるところだと思った。その情報発信をすると、他の施設とのギャップが生まれる可能性もあるかもしれない。この1年の中で、知人や友人で介護に関心がない人に色々聞いてみた。資格取得のハードルが高い、仕事としてやることを考えるのが難しいという声。スケッターみたいに、ときおり関わるとかはいいけれど、仕事にするのは難しい。手軽に関われる、ソフトタッチできることがわかるコンテンツもあるとよい

・憧れだった雑誌に、介護の記事が載る、そこに委員として携われるのは嬉しい。事業の継続によって生まれるものもあるのではないかと。POPEYEで福祉とファッションがリンクする形にするとか、POPEYEの読者層により届ける切り口があっても良さそう。おじいちゃんおばあちゃんに自分の服をきてもらったり、祖母の写真をTシャツにして販売する活動をしているが、おしゃれな人が買ってくれたりする。ファッションが好きな人に届けるということを考えてみてもいいかもしれない

・もともとクリエイティブに興味を持っている人が、介護で仕事してみると、また積み重ねて違うイメージになっていく。髪も昔は、禁止事項が多かったけれど、だんだん多様になってきている。敷居は下がっているのではないかと

└ 学生や若年層へのアプローチについて

・介護福祉士の専門学校でも、教室にいる3分の1が学校をやめてしまったりする。そういう人たちはもともと福祉に強い興味があったわけではなくなんとなく入っている。その方達も無関心である場合もある

・福祉科の高校生、3学年合計100人いて、福祉のしごとを続けていく人は、と訊ねてみたところ3人だった。だからこそ、介護×美容、介護×○○のような選択肢で仕事に関わってほしいというのは伝えられるといい気がする

・これは福祉の現場も一緒に考えていかなければいけないことだが、関心を感じてくれた層が実際の福祉介護にかかわる機会の創出が必要だと感じる。私の周りの介護にかかわっている若者、主に20代は介護や福祉への関心プラス何かしらのリアルでの体験が伴っている。例えば、学生時代に家に住む高齢者の生活ボランティアをしたり、高齢者施設でアルバイトをしたり、実際に現場やケアする対象者と関わってその面白さや魅力にはまっている人が多いと感じる。そのため、見学ツアーなどで介護・福祉に興味を持ってくれた層が、よりリアルに深く介護と福祉に関われる機会を福祉事業者側も創出していかなければいけないと感じる

## 若手企画委員会の開催

### 開催日

第2回: 令和6年12月10日(火)14:00-15:30

### ○ 参加者: 若手企画委員

井原純平氏、佐藤悠佑氏、はたつん氏、中谷萌生氏、吉田響氏  
森近恵梨子氏(書面回答)

### ○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室マンパワー企画係 様  
PwC コンサルティング合同会社 様

### ○ 実施主体

マガジンハウス

### ■ 議題

- ・今年度事業の進捗状況説明
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

### ■ 若手企画委員からの主なコメント

| 事業全体について

- ・それぞれの企画に、芯があって、ブラッシュアップされてきた。個性が出てきているのが感じ取れる。特に、ananの後ろ読みの表紙はインパクトがあった。知人からも、介護特集があったよと連絡をもらった。POPEYEは後半でカルチャーやファッションにふれているのもいい。人物に密着している企画で、引き気味で撮影するPOPEYE、ananはポートレートで見せていて、意図が伝わるように配慮されていると感じた。専門用語もあったが、文脈の流れで理解できるものになっていた
- ・展示イベントは、実際に行ってみて印象が変わった。案内だけ見ると敷居が高いと感じたが、オープンなスペースで、通りすがりの人も立ち止まる様子もあったので、オープンな場所でやる意味はあった。地方での開催は難しいかもしれないが、別の地域でやってみたいなども思った
- ・働き方、あたらしいことに挑戦している施設と、従来のケア施設を対比でおいてくださっているところがある。介護の正解不正解を表現せずに、それぞれのよさが引き出されていてうれしかった。アンケート結果をみて、40代~50代にもささっていたので、間接的に下の世代も伝わる。そういうアプローチができていく気がします

| 改善や工夫の余地について

- ・発信内容はすばらしいので、どれだけ周知していけるかが大事ではないか。介護に対して興味を持った人が、実際に働いている人の話を聞く機会が展示の近くにあっていい。興味を持った層がもう一步進むときに、リアルなところで、知る、つながることができたら。ツアーも日数が限られているので、イベント会場に介護職がいて話をきけるとよいのではないか
- ・給料の話はどの層にとっても興味関心がある。もう少し突っ込んで、平均額や、地方と都心の違いに突っ込んでみてもいいかもしれない。
- ・雑誌を知ってもらう機会、SNSはもっと活用してほしい。介護にまつわる情報をみんな出している。文字だと読まない人もいるので、動画や別の形でみてもらえるように活用した方がよい
- ・雑誌の連載になったらいいと思う。特集ではなく、定期的に目にできるのがいいananを読んでいると、毎号介護の話が何かしらある。そういう刷り込みができないか。単発の発信だと読み流されてしまうのではないか
- ・東京以外の地域でもイベントを開催してもらいたい。大阪、群馬、宮城、愛知の転職イベントに訪問したが大勢参加している

| 無関心層へのアプローチについて(アプローチした方がいいと思う層)

- ・「社会貢献活動には興味があるけど、活動領域として“介護”を考えていない20代、30代の層」へアプローチできるとよいのではないか。最近の学生さんと話していると、社会貢献活動等に関心のある方が多いと感じる。一方で、その中でも介護という社会課題にあまり興味がない方もいる。人の役に立ちたいといったマインドが全くない方に届けるよりも、もともと社会貢献活動に興味のあるの方が介護のことに関心を持ってもらいやすいと考えます
- ・いろんな施設で単発のバイトに参加している。利用者さんと一緒に参加していて、介護に関わりのある家族の中にも、無関心層がいる。利用者さん自身が事前に知っておくと施設選びができると思うので、当事者、家族に向けたアプローチをするのもおもしろいのでは
- ・福祉の学校に入ったけど、途中離脱を考えている学生さんターゲットは効果的だと思う。カリキュラムに入れてもらい、リアルな話ができるといいのでは
- ・届けたい層、年代よりも、「なんとなくやることないし、なんとなく転職したい」。自分のライフスタイルに介護のしごとがフィットしていると思う人に届けたい。介護職が、どういうライフスタイルで過ごしているのか、正社員、アルバイト、ひとりひとりのライフスタイルが発信できるといいのではないか

## 若手企画委員会の開催

### 開催日

第3回: 令和7年3月4日(火)13:00-14:30

### ○ 参加者: 若手企画委員

井原純平氏、佐藤悠佑氏、はたつん氏、吉田響氏  
森近恵梨子氏、中谷萌生氏(書面回答)

### ○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室マンパワー企画係 様

### ○ 実施主体

マガジンハウス

### ■ 議題

- ・今年度事業の状況報告
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

### ■ 若手企画委員からの主なコメント

#### | 事業全体について

・マガジンハウスの記事やイベントはいろんな視点から考えられている。マンガ、人、イベントなど知人に紹介しやすいものが多くある。こここの好きなどころは、ステレオタイプな介護のあたたかみではなく、イラストや文章から出てくるあたたかさがある。言葉の柔和な印象を持ってくれる人の響きやすい何かがある気がする

・小学生向け冊子が良かった。難しい内容を噛み砕いて変換して説明してくれている。自分が小学生にわかりやすく説明するのは難しいはずだが、イラストもかわいらしいし、視覚的にもわかりやすい。考えるきっかけのワークが入っているのも良かった。給与面とか離職率までふれられている家族向けのページも良かった。学校で教えていると、親御さんストップ(介護のしごとはやめなよ)があるが、そこにもアプローチできる。最後にヤングケアラーの窓口もあって配慮を感じた

・「ケアするしごとツアー」について、実際の現場の空気感にこそ、介護の魅力が詰まっている。滞在時間も長く、現場の雰囲気をしっかり感じ取れる機会になったのではないかと考えます

#### | 改善や工夫の余地について

・小学生向け冊子は、中学生向けや高校生向けにつくる必要があるのかどうか悩ましい。今ある冊子を学生向けでも使っていけるのでは。言葉の言い回しだけではなく、深い内容を取り扱っている。活用方法が大人次第だと感じる。媒体はそのまま、活用方法の解説、説明書の大人向けがあるといいのではないかと

・小学生向けの冊子の中に、家族の看取りに関することが考えられるなにかがあるといい。冊子を読んで、家族と子どもたちでつながっていると自分ごとになりやすい。親御さん向けのロールプレイがあってもいいかもしれない。読んで終わりになるともったいないので、節目で読み返すコンテンツがあるといいなと思いました。子どもの成長過程に寄り添ったコンテンツがあってほしい

・介護福祉用具の面白いものの紹介が見たい。車椅子、手すりでも最近では驚くものがたくさんあって介護の進化にびっくりする方も多いのではないのでしょうか。私自身ドラックストアなどで介護コーナー見たりしますが、新しいものが出てくると興味がわきます。身近なところですが、介護のイメージが変わりやすいなと感じる

・「ケアするしごとツアー」については、既に介護や福祉に関心が高い方の参加が多かったのではないかと感じています。実現は難しいのかもしれないが、ananの特集のように、タレントさんと一緒にツアーを回り、その様子をananの記事にする等ができると、タレントさんのファン等、介護に全く関心のない方も介護を知る機会になり、効果が高まると考えました。それ以外にも、何かのイベントや企業と介護施設がコラボし、介護に関心のない方も訪れてみたくなるような工夫があると良いと思う

#### | 「若年層への認知拡大」施策としてのSNS情報発信について

・自分らしく生きていくをテーマに盛り込むといい。日本中で働けるとか、好きなことを活かせる、自然を感じられる環境で働けるなど。知らない人が発信するよりは、インフルエンサーが訪問して紹介してもらいつつ、おもしろくみせるなど

・現状若いからSNSという訳ではなくレイヤーは複雑。情報を得るだけならばAIでいい。一方的な発信にフォーカスしてSNS使うことに価値を感じていない。SNSを使うからには、つながりに焦点をあてた方がいい

・ここ連載の『幅広く使われる「ケア」をどうとらえる？向坂くじらさん、吉田真一さんと考える』の対話の切り抜き動画がもしあったら、コメント欄も読んで、みんなはどんな風に考えるんだろう？と興味を持つ。例えば、「セルフケアって矛盾していない？」「ケアされると思ったことが言えなくなる」等 文字が書かれていて、対話が流れている動画をイメージします。それについて、自身の体験談等もコメントに書く方がいる、そうして介護や福祉に関することを皆で考えるきっかけになるように思う

# 雑誌&web記事展開 「anan本誌8ページ特集+web3記事」で情報発信！

an・an

無関心層向け

興味喚起

メディア(紙&Web)

企画

## 自分を表現できる現場で働く、新しい介護のカタチ。

anan

anan本誌(週刊)2024年10月9日発売号で  
特集8ページ記事を制作

anan web

anan本誌で制作した記事内容を  
anan webでも転載して記事化



掲載号 | 2024年10月9日発売号  
掲載ボリューム | 4C8Pタイアップ  
発行部数 | 147,000 (公称部数)

<https://ananweb.jp/anan/571819/> 18,513 PV  
<https://ananweb.jp/anan/571833/> 23,572 PV  
<https://ananweb.jp/anan/571849/> 18,760 PV

## クリエイティビティを生み出す、 やりがいのある介護の現場。

ハードルが高いイメージがある介護の世界。しかし、サービス形態も多様で、施設ごとに理念も異なるため、やりがいを感じられる場所を見つけて、個性を輝かせながら働けるのが介護の魅力でもある。そこで様々なカタチで介護と向き合っている人たちの働き方に注目。



お話を伺った方  
和田真央さん  
本田望結さん

わだ・まお 茨城県出身。介護の専門学校で介護福祉士の資格を取得。卒業後、社会福祉法人「陽光会」に就職し、グループホーム勤務を経て、現在は「サンタフェガーデンヒルズ」でフロアリーダーを担う。スマート介護士を取得。介護歴6年目。

本田望結さん

ほんだ・あゆみ 2004年6月1日生まれ。京都府出身。俳優、3歳から芸能活動を始め、ドラマ「新選組のミタ」で脚光を浴び、その後、数多くの映画、ドラマに出演。11月8日に主演映画「カーリングの神様」が公開予定。フィギュアスケーターとしても活躍。

1  
介護の現場

最新テクノロジーを導入している

サンタフェガーデンヒルズ

に、本田望結さんが潜入!

介護の世界に興味を持つ本田望結さんが、現場を訪れて介護のお仕事を体験。実際に働いている人との対談を通して、介護のリアルについて深堀りします。

### 将来のために誰もが介護の知識を身につけておくべき。

高齢化が進み、今やなくてはならない介護の仕事。家族の介護はもちろん、いずれ自分も介護が必要になる可能性もあり、誰にとっても他人事ではない時代になってきたが、なかなか介護に触れる機会が少なく、身近に感じられない人も多はず。そこで以前から介護の世界に興味があったという俳優の本田望結さんが、羽田空港のそばにある複合福祉施設「サンタフェガーデンヒルズ」を訪ね、ここでは、入居者さんのQOL向上のため、そして介護職員の負担を軽減するために、介護をサポートするロボットなど最先端テクノロジーを積極的に活用し「ケアテック」の導入を進める、業界にも注目を集める施設。ここでフロアリーダー兼ユニットリーダーとして活躍する介護福祉士の和田真央さんと一緒に、現場で介護の仕事に触れた本田さん。その体験を通して感じた思いや、介護の仕事について語ります。

和田 入居者さんと触れ合ったり、移乗サポートロボ

ット「Hug」を体験したり、介護のリアルな現場を本田さんに体験してもらいましたが、いかがでしたか？  
本田 ほんの少しの時間でしたが、人生の大先輩たちと触れ合うことができ、いろいろな学びがありました。みんながみんな支え合って生きている。入居者さんたちが生き生きとした表情で、私にずっと笑いかけてくれたので、すごく元気をもらえました。和田さんのお仕事されている姿を間近で見ると、大変な部分もちろんあるけれど、とてもやりがいのある仕事なんだろうなと感じました。和田 入居者さんに積極的に話しかけてコミュニケーションをとっていた本田さんの姿が印象的でした。入居者さんたちが笑顔だったのは、本田さんの人柄があると思えます。人と関わったり、接するのが好きな人は介護職に向いています。本田さんはこれまで介護に対してどんなイメージを持たれていましたか？  
本田 職業柄、介護施設にお邪魔させていただくことはよくあったのですが、今回のように介護体験する機会はありませんでした。身近にも介護を必要としている人がまだいないので漠然とした考えはありますが、

高齢化が進む日本にはなくてはならないものだと思います。誰もが介護の知識を身につけておくべきなのに、どうして学校などで介護の授業がなかったんだろうとずっと思っていました。介護は人と人を繋ぐものだし、社会にとっても自分にとっても必要不可欠なスキルのはずなのに…。だからずっと介護について学びたいという気持ちがありました。

テクノロジーを活用することで質の高い介護を実現できる。

和田 介護は、専門的な知識を身につけたり、入居者さんを抱きかかえたり、入浴介助や排泄介助などの生活介助を行う上で体力が必要だったりするので、ハードルが高いイメージを持たれている方も多いですが、本田さんがおっしゃるようにより入居者さんと心を通わせることが大切。私たちの施設でも繋がりを重視しているため「ケアテック」を導入しているんです。たとえば移乗時は立位をサポートするロボットは、転倒などのリスクが減り、私たちに抱えられるよりもスムーズかつ安全な

介護の魅力を自分なりに発信していきたい。(本田)



2  
体験の声かけにもロボットを活用!



体験の声かけにもロボットを活用!



人と人との繋がりを大事にした介護ができるよう邁進中。(本田)



1,100歳の入居者さんと楽しくおしゃべりする本田さん。2.「取りSCAN」を使うことでユニットごとに利用者の人の顔の検出が一目瞭然。3.体験用クイズが搭載されたロボット「PALIRO」は、入居者さんの心を和ませて、セラピー効果も高い。4.一人でも立ち上がることが難しい方用の移乗サポートロボット「Hug」を体験中。

で、入居者さんの負担を軽くすることができます。  
本田 たしかに実際に体験してみましたが、移乗ロボットが安定して支えてくれたため、とてもラクでした。あと見守り支援システム「取りSCAN」も画期的だと思います。ベッドのマットレスの下に敷かれたセンサーを通して取りの状態や変化を知らせてくれるので、各部屋を回らなくても入居者さんの状況の変化を早期にキャッチできるのはすごく安心だし便利です！  
和田 このシステムを活用することで、巡回の頻度が1時間から2時間に1回になり、介護職員の負担軽減だけでなく、巡回による入居者さんのストレス軽減にも繋がっているんです。テクノロジーを上手く活用することで、入居者さんと介護職員の負担を減らせるのが双方にメリットがあります。また、時間に余裕を持って仕事ができるようになることで、入居者さんの笑顔に繋がると言えるようなコミュニケーションに時間を費やすことができます。人と人を繋ぐ質の高い介護を実現できます。  
本田 テクノロジーを活用することで、日々の業務や介助の負担も減らせるので、介護に対するハードルが下

がり、本来の心を通わせる介護ができるわけですね。モチベーションを高く持ったまま、自分らしく働けるのが素敵です。ただ入居者さんと親密な関係を築けばいいほど、突然やってくる別れの時にとても悲しい気持ちになると思うんですが、そんな時のメンタルケアってどうされているんですか？  
和田 毎日一緒に過ごしていた入居者さんが突然いなくなるのは本当に辛いことですし、いまだに慣れません。職員たちもみんな慣れるということはないので、亡くなった翌日などはフロア全体が暗い雰囲気になってしまっています。でもそういう時は休憩時間などにスタッフが集まり、その入居者さんとの思い出話をみんなでするんです。あえてその話を避けるのではなく、共有することで、心が落ち着いたりします。仲間との支えがあるからこそやっていけるのが介護の仕事でもあります。  
本田 みんなが気持ちよく仕事していくために、職員同士のコミュニケーションも必要不可欠なんです。和田さんの働きぶりを拝見して本当にコミュニケーション能力が高く、入居者さんとはもちろん、スタッフさんとも

関係性がしっかり築けていて、強みを活かしながら自分らしく働かれています。私も今日体験してみても、学ぶことがたくさんありました。自分のこれからの働き方を考えるきっかけにもなったり、介護をもっと身近なものにするために、自分なりに勉強して、介護の魅力を発信していけるような人になりたいです。  
和田 今は資格がなくても、アルバイトやボランティアなど、いろんなカタチで介護に関わることができます。自分の魅力を発揮しやすいのが介護の世界なので、ぜひ多くの人に介護に興味を持ってもらいたいです。

DATA：サンタフェガーデンヒルズ



社会福祉法人陽光会が運営。地上10階、地下1階の建物に特別介護老人ホーム、介護老人保健施設、療がいの看護老人生活室の3つの施設が入居。●東京都大田区東橋台6-4-17 03-5735-8080 福祉施設 施設名 https://www.zeniko-uka.jp/santafegardenhills/

写真・村上未知(介護の現場1) 吉村雅子(介護の現場2) 中村善奈子(介護の現場3) スタ일리スト・志田 真(本田さん) ヘア&メイク・山田佳苗(本田さん) 取材・文・鈴木恵真

本田さん・カーディガン13,200 パンツ13,200 (共にカプリシヨレージュ03-6881-7280)

# 2

介護の現場

ローカルな暮らし×介護を体現する

くろめさん で、

幅広い交流を楽しみながら働く



「介護×田舎暮らし」をコンセプトにした全国的に注目を集める介護施設。その魅力に惹かれ、京都に移住し介護と向き合う女性にフォーカス。

お話を伺った方  
安部 稚哉さん

あべ・わかほ 介護福祉士、介護の専門学校在学中に、Instagramで「くろめさん」を知り、卒業と同時に生まれ育った千葉県から京都に移住。理想の介護を追求し、働き始めて2年目。利用者さんからいえることを教わる日々で、お世話になっている方々に感謝をするのが夢。



僕たちがお出迎えするメー!



1.安部さんが焼いた餅を、利用者さんが選べる選べるブレンド食事で提供。2.農産物出先の利用者さんからノウハウを教わりながら収穫。3.みんなで梅干しの仕込み中。4.本日のお昼ごはん。季節感溢れる料理のほか、利用者さんの得意料理が盛り込まれる。5.ほかのスタッフと情報共有したり意見を交換し合う時間。自然と利用者さんが寄ってきて、和気あいあいとした雰囲気に包まれます。6.利用者さんとスタッフのほか、近所の子どもたちも交えて記念撮影。まるで家族のよう。



みんなで手作りしていき、  
アットホームな介護がここに。

利用者さんが主体性を持っていきいきと過ごせる環境が整う。

黒豆、丹波栗などの特産物で知られる京都・京丹波町。山や畑といった丹波高原の豊かな土壌に囲まれた田舎町の一角に、古民家風の温かみ溢れる建物がある。ここがデイサービス「くろめさん」。「介護×田舎暮らし」をコンセプトに、利用者さんに「生きてよかった」と思ってもらえるような介護に取り組んでいる。ユニークな取り組みは、SNSや新聞などを通して評判を呼び、開設当初は1日あたり10名だった定員が、今では30名に拡大。また2023年には、過疎の町の活性化や、介護に関わる人々の交流の拠点となるよう、施設の隣にあった納屋を改装し、ピザ屋をオープン。京丹波町の特産品や地元野菜を使ったメニューが連なり、日曜だけの営業だが、全国から人々が訪れ、賑わっている。

「介護は日常の延長」という代表の稲葉精太さんの考えに基づき、内装や設備に介護用品はできるだけ使用せずに設えを工夫。田舎のどこにもある家のように、昔

ながらのかまどや土間がある台所、豊の広間、薪ストーブで暖かいリビングなどが広がる。お風呂は青森ヒバと信楽焼の湯船で、十和田石が敷き詰められ、体が冷えにくく、滑りにくい工夫がされている。入浴介助も機械は一切頼らず熟練の介護技術で、どんな重度の方でも、ゆったりと入浴できるという。庭には利用者さんと共に育てている畑があり、2匹のヤギが草を食べている。どこを見渡しても、一般的な施設とはかけ離れている「くろめさん」。そこで働くために、千葉県から移住してきたのが介護福祉士の安部稚哉さんだ。

「昔から人生の先輩の話を聞くことが好きだったので、高校3年生の時に介護の道を考えるようになりました。ただ、当時はそこまで深く考えておらず、介護はなくてはならない仕事だから、資格を持っておけば職に困らないうららう…と、軽い気持ちで介護の専門学校に進学しました。専門学校では、介護とは「利用者のより良い生活の実現」のために必要なことだと教えていただき、とても魅力的な仕事だと思い始めました。でもいざ実習に行ってみると、実際の介護現場と私の理想とは、かなりの

ギャップがありました。決まり切った業務をこなす毎日と利用者さんと話をする時間もなく、介護の在り方に違和感を覚えました。そんな時に「くろめさん」の存在を知り、思い切って見学会に参加させてもらったんです。そこには、利用者さんがお世話されるだけの存在ではなく、人生で得た生活の知恵や技術を発揮しながら、いきいきと過ごされている姿がありました。これこそが私が求めている介護のカタチだと思いました。

「くろめさん」は、お世話するだけの介護から脱却し、介護者、要介護者の垣根なく知恵を出し合って、昔ながらの田舎暮らしを実践している。また、利用者さんの人生を深く知り、会いたい人に会いに行ったり、思い出す場所を訪ねたりすることも、日常の楽しみにしている。「お世話をする仕事」という一般的な介護のイメージから「人を幸せにする仕事」へと変えていきたいという思いがあるから。そんな理念に惹かれて、安部さんは専門学校在学中に面接を受け、卒業後すぐに京都に移住し働き始めた。安部さんの一日は、仲間たちと一緒に「今日は何をしようか?」と話し合い、利用者さんを迎えに

行くことから始まる。決まったスケジュールがないので、畑を耕したり、梅干しを漬けたり、ドライブに行ったりと、一日一日がみんなの思いで作られている。利用者さんと共にごはんを作り、同じ車で一緒に食べる。もちろん入浴や排泄の介助が必要な時はしっかりサポートしつつ、利用者さんのやりたいことを引き出し、共に取り組んでいく。施設内はいつも笑い声が溢れる。

「私が働き始めて最初に感じたことは、介護＝お世話することだと、無意識のうちに思っていたんだ!という事です。でも『くろめさん』の介護は、当り前の生活があった上で、その人の喜びや楽しみなどを共に分かち合うこと。当り前の生活というのは、私たちが日常の中で普通にしているような、トイレに座って排泄したり、機械を使わずに湯船に浸かって疲れを癒したり、たわいもない会話をしながらごはんを食べたりすること。体が不自由になっても、認知になっても、的確なサポートがあれば、そんな当り前の生活が続けられます。その中で、介護者と要介護者の関係ではなく、「あなたと私」という関係を築いていくことが、介護の

本当の魅力だと私は考えています。当り前の生活の中で、利用者さんと様々なことに取り組んでいるうち、その方が自信を取り戻し、いきいきとされる瞬間があります。それを見ていると、とても嬉しい気持ちになるんです。利用者さんとの関わりは、新たな発見ばかりで、私自身の成長にも繋がっています」

利用者さんのかけがえのない存在になることが今の目標。

しかし利用者スタッフとの関係を越えた関わりが大切だと理解していても、その関係を築くために具体的にどんなことをして、どんな気持ちで接したらよいかわからず、戸惑っていた時期があったと本音を漏らす。

「いま思えば『もっと仲良くならなければ』と焦っていたのかも知れません。しかしある利用者さんとの関わりで、私は変わりました。その方は、デイサービスの延長で、そのまま宿泊ができるサービスを利用されています。夜になると眠れず『来てほしい』と、何度も呼ばれるんです。私は正直、「これは大変だ…」と思っていた

のですが、その方の体調が優れず、ある日を境にお休みされるようになりました。その時、無意識にその方へ会いたいのと思っていた自分がいました。あんなに大変だと思っていた夜の呼び出しの音が、聞こえないことを寂しく思い、「またあの声が聞きたい」とすら思うようになっていたんです。共に過ごした日々の積み重ねで、私にとって自然とかけがえのない大切な人になっていた。その体験を経て、今度は私が、利用者さんのかけがえのない存在になるために、一緒に過ごす日々を、当り前に丁寧に積み重ねていきたいと思っています」

DATA：くろめさん



介護に携わる人向けの研修会「介護の学び屋くろめさん」を月1回ペースで開催。隣の飲食店「田舎PIZZAおとぎはん」は白飯のみ営業。●京都府船橋郡京丹波町富田井上82 ☎0771-82-2205 デイサービス https://kurome-mesara-kaigo.com/

3 介護の現場

自分の強みを活かしながら

介護に関わるキーパーソン

の働き方に密着!

ボランティア、趣味を楽しみながら、様々なカタチで介護と関わる時代。自分らしく介護と向き合い、自己成長している2人のキーパーソンに迫る!



介護施設の夏祭りで行ったお手伝い。利用者さんの前でピアノ演奏をする立川さん。介護の知識がなくても、レクリエーションの企画ならポータルスキルを気軽に発揮することができる。

このサービスを利用! / 「スケッター」

お手伝いを求めている介護施設と、サポートしたい人を繋ぐマッチングサービス。スキマ時間を利用して無料で手軽にお手伝いできる。登録者の約60%が介護未経験者。 <http://www.sketter.jp/>



Keyperson 1 / 立川麗佳さん

介護 & 教育

援助ではなく支援。この意識は介護、教育どちらにも通じる。

普段は教職員として週5勤務。理科の授業を受け持ち、週3回教壇に立つ授業をしたり、その授業に向けてPowerPointなどで資料を作成したりしている。さらに生徒への進路指導や生活指導、保護者への対応など、忙しい日々を送っている。



たちかわ・れいか 大学時代に中学校・高校の理科の教員免許を取得。卒業後、養や家庭教師の介護サービス業を経て、単位の認定教員としての教職員に。卒業後、毎月2回ほどは介護の現場でボランティアを行う。

自分の特技や培った経験を介護の現場でも役立たせたい。

通信制高等学校の教職員として働いている立川麗佳さんは、2019年から介護・福祉に特化したスキルシェアサービス「スケッター」を活用し、ボランティアとして様々な介護施設を訪れ、お手伝いしている。

「昔からボランティアに興味があり、ネットでいろいろ調べていたら『スケッター』を発見したんです。以前から介護業界の人手不足が深刻化していることはニュースなどで知っていたので、私もできることがあれば役に立ちたいと思っていました。『スケッター』は仕事をしながらスキマ時間を利用してスポットで介護に関われるため、すぐに登録しました。介護の経験はありませんでしたが、サイトに掲載されるボランティアの募集は、レクリエーションの提供や食事の準備、傾聴（話し相手）など、私にもできそうな内容のものばかり。だから休日も利用して、場所や内容が自分にマッチするものに応募して、平均月2回ほどお手伝いをしています。介護の仕事という、食事・入浴・排泄の介助なども

イメージする人が多いが、利用者さんの体に直接触れること以外にも多岐にわたる。『スケッター』では無資格・未経験の方でも気軽に参加できるお手伝いだけを集め、布団やシーツ交換、そしてイベントなど介護施設で行うレクリエーションのお手伝いを行ってきた。「先日も施設の夏祭りに参加して、売店でお手伝いをしてきました。また幼少期から習っていたピアノをレクリエーションで披露したり、普段教職員としてPCで資料を作成することが多いので、介護施設のPR広告のチラシを作ったこともあります。介護の専門的な知識がなくても、自分の趣味・特技、これまで培ってきた経験を活かせるのが魅力。『ありがとう』と感謝される機会が多く、自信にも繋がって毎回やりがいを感じています。実際に様々な現場で、介護する側と介護される側の関わり方を見るうちに、教職員として子どもたちに指導してきて、立川さんの中である意識が芽生えたそう。「最近では、自立支援を重視している介護施設もあります。そんな現場を訪れて、何でもかんでもとあげるのでなく、利用者さんが何を望んでいるのかを理解し、自立し

た生活を続けられるようにサポートしていくことも介護なんだと知りました。『援助ではなく支援』これは教育の現場でも同じことかかえると思います。私が働いているのは通信制の高等学校なので、発達障がいや障害を抱えている子、芸術活動をしている子ども、個性豊かな子がたくさん通っています。もちろん単位を取得させて卒業できるように指導していくことも大事ですが、一人ひとりの思いを尊重することの重要性を改めて感じ、将来どんな自分を目指してどんなふうになるか成長していきたいかを一緒に考えながらサポートできるように、日々生徒たちと向き合っています。今後も自分にできる範囲で介護に関わりながら、人間として、教職員として成長していきたいと話す。「先ほど『ありがとう』と言われたことによりやがてを感じていましたが、自分ができることをもっと増やして、感謝されたいといういろんな場面で貢献できるようにしたいです。そしてせっかく介護の現場で経験を積んでいるわけだから、それを生徒たちと共有して、仕事のこと、介護のことなど、将来のことを考えるきっかけになるような機会も作ってきたいです」



スイカ割りのレクリエーションで、利用者さんの笑顔を集めながら笑いを取る鈴木さん。利用者さん一人ひとりと触れ合う喜びも自然と湧いてくる。学生時代に学んだ演劇的に物語を演出していく「インプロ」の技術が活かされているとか。



Keyperson 2 / 鈴木翔太さん

介護 & 演劇

毎日舞台上に立っているような気持ちで介護を楽しんでいます。

8月に上演されたレディクル座の“劇”『真・バトルゾーン編』に出演。夜公演に観客に参加するなど、真に共感を得た。シチュエーションを演出したりディテールという形をとり、仕事に支障をきたさずこなす無事完成できた。



すずき・りゅうた 桜美林大学芸術化学科演劇・ダンス専修で、演劇や音楽を学び、俳優を目指す。介護の総合ブランド「SOMPOケア」グループに所属。介護福祉士の資格を取得し、現在は介護付き有料老人ホーム勤務。

大学時代に高齢者施設で寸劇を披露した経験が今に繋がっている。

介護福祉士として介護付き有料老人ホームで働く。休日を利用して舞台役者をしたり、歌唱指導をしたり、ラジオドラマで声の出演をしたりと、俳優業をこなしている鈴木翔太さん。鈴木さんが介護の現場に興味を持ったのは、演劇と向き合っていた大学時代にあるそう。「大学で舞台芸術を学んでいた時に、様々な施設で芸術の普及活動を行う『アウトリーチ』活動の一環で、高齢者施設を訪れ芝居を披露する機会がありました。テレビドラマ『水戸黄門』を題材にしたオリジナル寸劇を、劇団たり歌ったりしながら上演するんです。僕も水戸黄門役や助さん役を何度かやらせてもらったんですが、その姿を見て訪ねた先の方々がケラケラ笑ってくれたんです。その時の思い出がずっと心に残っていたんです。大学卒業後、鈴木さんは建築現場でアルバイトしながら演劇を続けていたが、28歳の時に結婚を機に就職を決意。その際に選んだのが今の介護職だった。「介護職は安定しているイメージがあったし、建築現場

と一緒に働いていた人から『気遣い上手だから介護とか向いてるんじゃない?』と言われたこともありまして。それが大学時代のアウトリーチ活動で、ほんの束の間でしたが介護の現場に関わり、全く知らない世界ではなかったのが飛び込みやすかったことも大きかったですね。無資格・未経験で入社したので、最初は覚えることが結構あって大変でした。それでも利用者さんと話すのが楽しくて、割と早いうちから介護って面白いし、自分に向いているかもしれないと思うようになりました。介護の仕事に携わって約4年。俳優業で増えたパフォーマンス力は、介護の現場でも活かされている。「施設では利用者さんに楽しんでもらえるようなレクリエーションを定期的に企画しているのですが、大勢の利用者さんの視線を浴びながら様々なプログラムを行うため、まるで舞台上に立っているかのような気分になります。大学時代に声楽を学んでいたこともあり、月に1回僕が歌んだ音楽会を開催してもらっています。毎回季節にちなんで歌を披露したり、利用者さんのリクエストに応えてみんなで歌ったりしています。その時はやはり役者の血が騒いで、みんなを喜ばせたい、盛り上げたい

という思いが強まりますね(笑)」。そんな鈴木さんのことを「先生」と呼ぶ利用者さんがいるほど、今では施設の人気者。普段のコミュニケーションでも演劇で得た知識を活用しているそう。「介護の現場では、利用者さんになかなか受け入れてもらえなかったり、認知症の症状がある方との会話も難しいことが多々あります。でもそんな時に相手のペースやテンポに合わせて、声色を寄せて安心感や親近感を持ってもらうことで、信頼してもらいやすくなりました。また利用者さんと話す時は、どうしてもテンプレートの声かけになりがちなんですけど、相手の立場やシチュエーションに合わせて自分なりにオリジナリティを加えながら一人ひとりに合わせた声かけができていても、役者の経験があったからこそ、毎日刺激を受けながら楽しんで仕事をしています。また介護の現場で増えたコミュニケーション力は、舞台でセリフの掛け合いをする時や、様々な役を演じる上でも役立っているように感じます。両方によってリットがあるから、今後も介護の世界でキャリアアップしながら、休日を上手く利用して舞台上に立ち、自分を表現していきたいです」

## 現場スタッフの声から読み解く 介護の仕事リアル調査

介護に携わる人たちにアンケートを実施し、仕事に対する実感を聞いてみました。より知識を深めるために、介護業界に詳しい秋本可愛さんの解説付きでお届け。アンケート協力：オンラインコミュニティSPINIC (KAIGO LEADERS)、匿名化、スタッフ

お話を伺った方  
秋本可愛さん



あまもと 可愛い 株式会社Eiken社代表取締役、介護の方でより良い社会を目指すために、介護に志を持つ若者コミュニティ「KAIGO LEADERS」を立ち上げ、組織や地域を超えて介護の現場が繋がる場作りを行う。

### Q1 介護の仕事を選んだ理由は？

ヘルン・ケラーの自信を伝える、人の役に立てるような人になりたいと思ったから。それと、小さい頃から一緒に生活していたおばあちゃんとおじいちゃんに、感謝を伝えたかったから。(ゆず/ケアワーカー)

宮道さんが入所した施設で働いていた介護職の方が、いつか実業で利用者と人と接している人をスルーできず、人を責めさせることにせずと覚悟していたので、介護(H・V/訪問介護員)

一般企業で事務職に就いていた時に介護保険制度が始まり、介護福祉士という職業が注目されたことと、周囲の人の話を聞いて、今では介護福祉士に就きたいと決意した。(M/アルバイト)

「今介護コンビニ介護サービス事業所の数が多く、介護人材のニーズが高い無資格・未経験から求職しやすい環境が、業界から介護の世界へ入りやすい。介護福祉士は、資格取得と2年以上の実務経験+研修の実務経験ルートがあり、どこでも適用するので、手に職をつけて働けます。(秋本さん)

### Q2 職場を選ぶ時に重視した点は？

事業所の理念に賛同できるかどうかを軸に、通勤・給与・施設などのバランスを考慮したのもありますが、面接時上司や同僚と人とのコミュニケーションの雰囲気も重視しました。(N1/V/通所介護職員)

介護は肉体的労働なので、その負担を少しでも減らせる最先端の技術を搭載した施設を選びました。比較的重度の利用者さんを受け入れているので、介護のスキルをアップできることも思っていました。(M/施設介護職員)

子育てしながら働きやすい点を重視し、そして1対1のケアで利用者さんの生活を支えることに魅力を感じ、たくさんお話ししながらその方の生活に寄り添える訪問介護を選んだ。(A/N/訪問介護員)

「介護は、特別養護老人ホームなどの施設で、24時間体制でケアする入居系、デイサービスなどの通所系、自宅を訪問して必要なケアを行う訪問系、通いも宿泊も訪問もできる複合型など、様々あります。また施設や事業所によって理念や特徴も多岐にわたる、自分に合った働き方を選びます」

### Q3 介護の魅力ややりがいは？

派遣から正社員にキャリアアップが叶った。私たちがサポートすることで、利用者さんができなかったことが出来るようになったり、感謝の言葉をいただけることへのやりがいを覚える。(A/O/ユニットワーカー)

利用者さんと世代を超えた知見のやりとりができること、それが自分の家族を大切に育てたり、周りの方について考えきっかけにもなり、自身の生活への有意義な気づきができる点に魅力です。(Y/F/訪問介護員)

日本どこでも需要があること。人生の先輩と関わったり、仕事の知識や友人や家族などの身の回りの人を助けることもできます。シフト制なのでライフスタイルの予定を入れやすいのも魅力。(S/M/施設介護員)

「介護する側の行動ひとつで、利用者さんの笑顔やポジティブな変化を生み出せるため、クリエイティブさを発揮しやすい点が魅力のひとつ。資格がなくても働けますが、研修を受けたら資格を取得して知識を身につけていくと、ケアの幅が広がり、圧倒的にやりがいを感じやすくなります」

### Q4 介護の大変なところは？

やはり体力勝負なところですね。特に身体ケアや作業がある利用者さんの介助は、大変です。シフト制なので働き方は選べますが、夜勤勤務の現場もあり、不規則な生活になりやすいです。(A/H/V/介護福祉士)

利用者さんから体が思うように動かない辛さを感じられた。自分から辛くなるけれど、仕事として継続や言葉かけの工夫に励む必要はありますが、夜勤や早朝の作業が辛いことが多いです。(M/F/訪問介護員)

職員同士、利用者さん同士の関係は、上手に築いていくのは難しい。人それぞれ価値観の違い、良い介護に対する正解が1つではないので、意見の相違が起きること。(N/H/集客支援)

「体力を使うイメージがありますが、最近はICT化や、ロボットや機械の導入が進み、スタッフの負担軽減が進んでいます。また、たとえば寝動がない通所介護や訪問介護を巡らしたり、特設施設で働くなどライフスタイルに合わせて柔軟な働き方できるのも介護の仕事の特徴です」

### Q5 今後の目標や夢は？

無資格・未経験から介護職員初任者研修を受けて、業界に入りました。現場でさまざまな気づきを得るから、これからも資格をしながらフリーランス介護福祉士として現場で活躍したい。(A/H/V/介護福祉士)

自分が働いている現場や設備のアップデートを自分と向き合い、さらに働きやすくなるようにしていきたい。そしてそれをほかの施設や事業所の手本となるようなものにしていきたいと思っています。(T/V/フロアワーカー)

今後、自分で小規模多機能型居宅介護事業所を開業したいと思っています。自分が育った社会を会社で支えるのではなく、会社で支えられているように感じたい。(T/V/フロアワーカー)

「介護人材のニーズは高まる一方なので、将来的に高収入な職業です。研修や仕事を進めて、専門性やマネジメント能力をつけることで、期待したい事業を実現したり、自分のライフスタイルやライフステージに合わせて場所や期間を選択しながら柔軟に働くことができます」

### Q6 どのような人が介護の現場に向いている？

どんな人に向いています。介護という非対称な関係の助けを思い浮かべますが、それだけではなく、様々なサービスがある中で、どこかに向いている仕事があります。(S/Y/福祉用具専門相談員)

人とコミュニケーションをとるのが好きな人、人善んでいるのを見るのが好きな人、サービス精神がある人、無資格・未経験でも、仕事しながら資格を取ることができるので職に就きたい。(M/ユニットワーカー)

利用者さんの人生に寄り添う仕事なので、気持ちの切り替えが上手な人。あとはコミュニケーション能力を上げたい人や、習熟度や知識のレベルに役立てたい人、多いと思います。(R/ケアワーカー)

「私が実際に介護の現場を見て感じたことは、どんなサービス形態でも人と関わるのが好きな方は、自分らしさを表現しながら楽しく働けている印象があります。利用者さんだけでなく、介護スタッフと連携しながらコミュニケーションをとれる方は、特に重宝されます」

### Q7 介護に興味を持ったら何から始めるべき？

介護系のアルバイトをしたり、介護職員初任者研修を受けたりして、介護の仕事が向いているかどうかの判断材料としてみては。(H/Y/施設訪問介護員)

最近、スポットで働ける介護系アプリや介護系クラウドサービスの登場もたくさんあるので、気軽にお仕事体験して介護の現場を一度の試みでみてみてください。(T/H/施設運営)

たくさん介護施設や事業所に足を運んで、施設見学をしてみては。同じように、ことごとくお話しして、疑問点を解消してからの介護の世界で働き始めることをおすすめします。(A/K/グループホーム介護職員)

「介護業界を深く知ってもらうために行政や協賛が実施している介護現場の職場体験に参加したり、「スクータータイム」といった、介護の仕事体験ができるスクーターバスを活用していただくのが！ 就職する前に、現場の空気を肌で感じて、自分に向いていることはとても大事です」

### 体験・交流イベント 「ケアするしごとツアー」開催！

- 様々な介護・福祉の世界を見てきた「KAIGO LEADERS」のメンバーがツアーコンダクターとなって、みなさんを介護・福祉の現場にご案内。働く現場を見たり、職員や利用者さんと交流することで、介護の世界を身近に感じることができ、さらに知識が深まるはず。参加無料。詳細や募集要項を確認し方はQRコードをチェック。
- 12月14日 52間の縁側  
千巻帯八千代市の福祉事業所。建物内に約80mの縁側があり、デイサービス・憩居所のほか、公衆浴場・カフェ・テラスといったスペースを設備するなど、多面的な機能を持つ。
  - 2025年1月11日 あおいけあ  
認知症ケアで国内外から注目を集める神奈川県藤沢市の介護事業所。利用者の自分らしさを大切にしたいマニュアルの自由な運営の下、一人ひとりの人生に向き合っている。
  - 2025年1月22日 サンタフェ ガーデンヘルズ  
介護の現場1で最新紹介した東京都大田区の複合型施設。利用者の自立支援、介護者の負担軽減などを目的と、介護ロボットやICTを活用し、未来の介護の在り方を実現。
  - 2025年1月25日 えんがお  
橋本県大田原市の福祉施設。空き家を活用して、多世代交流サロン、障がい者施設など9つの施設を運営。若者が高齢者の自立を支援する地域の仕組み作りを行っている。



都会で？ 里山で？ フルタイム？ スキマ時間？

選択肢もたくさん。  
自分を表現できる現場で働く、  
新しい  
介護のカタチ。

anan 2024年10月7日発行 52頁 写真：マカナンハウス、手前右：エリカ、中：マカナンハウス、手前左：エリカ、中：マカナンハウス、手前右：エリカ、中：マカナンハウス、手前左：エリカ、中：マカナンハウス

# 雑誌&web記事展開 「POPEYE本誌8ページ特集+web3記事」で情報発信！

POPEYE

無関心層向け

興味喚起

メディア(紙&Web)

企画

## 介護の仕事ってこういうことだったんだ。

POPEYE

POPEYE本誌(月間)2024年10月9日発売号で  
特集8ページ記事を制作



掲載号 | 2024年10月9日発売号  
掲載ボリューム | 4C8Pタイアップ  
発行部数 | 75,667部(印刷証明付発行部数)

POPEYE web

POPEYE本誌で制作した記事内容を  
POPEYE webでも転載して記事化



<https://popeyemagazine.jp/post-229192/> 15,760 PV  
<https://popeyemagazine.jp/post-229229/> 15,696 PV  
<https://popeyemagazine.jp/post-229232/> 15,583 PV



POPEYEの各種SNSアカウントを活用し  
本企画の告知を実施して情報拡散！



[https://x.com/POPEYE\\_Magazine/status/1850360768203788527](https://x.com/POPEYE_Magazine/status/1850360768203788527)  
<https://www.facebook.com/photo/?fbid=1083450907123152&set=a.709225441212369>

# POPEYE特集「介護の仕事ってこういうことだったんだ。」



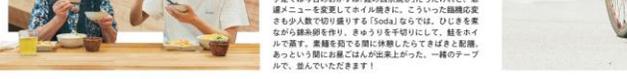
1.メンバーの中山千香さん(左)とは頻りに情報共有。2.立ち上げ時の小武悠さん。現在は京都のデザイン会社に勤務しつつ遠隔でバタックアップ中。3.施工前、作業員は岡山県立大学建築学科の学生と制作。静観の壁は近所の動物の動きに合わせてもろった。



「高く主観に専念してきた利用者さんはお料理が得意な方が多い。僕たちが作った意匠の器を立ててもらったり、メニューのアイデアをいただいたりしながら、一緒に考えてみる」と土井さん。実際に調理してもらったことも多く、安全面に気を付けながらスタッフも一緒にキッチンに立つ。



「おいしそう! 季節がいいですね!」



「うんうん、ようけ食べ!」



「おはようございます!」



「今日も元気やね。」



「学生時代から自転車好き。『利用』のフレームで組んだ愛車です。通れない道には毎日自転車で通っています。明宝4年に通った管轄車を運用した遊学舎文化財の『遊学舎』までかまよなな運送がある町。おま、言葉の保存に力をつけるかながら『Soda』の産乳師さん、おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。

「昨日で理学療法士の資格がとれた。おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。」

「昨日で理学療法士の資格がとれた。おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。」

「昨日で理学療法士の資格がとれた。おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。」

## やりたいことに寄り添う、DIYなケアのかたち。

古くは古くは文化が生まれた歴史ある街、岡山県総社市は、岡山県と倉敷市に隣接するベッドタウン、暮らしやすさで知られる。近年、若年人口が増加しているという。その総社市に今年8月、デイサービス「Soda」がオープンした。立ち上げの頃は、大々的な宣伝活動はなかった。岡山県総社市は、岡山県と倉敷市に隣接するベッドタウン、暮らしやすさで知られる。近年、若年人口が増加しているという。その総社市に今年8月、デイサービス「Soda」がオープンした。立ち上げの頃は、大々的な宣伝活動はなかった。

「昨日で理学療法士の資格がとれた。おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。」

「昨日で理学療法士の資格がとれた。おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。」

「昨日で理学療法士の資格がとれた。おまおま、Sodaの活動を応援してくれているのださう。」

WELFARE AND CARE WORK

## 気になる高齢者介護の仕事。デイサービス、ショートステイ、訪問介護で働く3人に密着!

## 介護の現場を知りたくて。



同級生と岡山で立ち上げた、街に開かれたデイサービスで、利用者の挑戦を後押しする。WORK #01

「今日はお掃除をしよう〜!」

「一日、よろしくお願ひします!」

「こうしたらええか〜!」

「さすがお上手ですね〜!」



1. 産後でも移動できる広いメインホール。奥には入浴介助のための浴室も。2. 半額を喜びが戻った中山さんがお話ししている土井の店。おすずめは総社「このほかにも」。数々の「たやすみなさい」。専科が揃った居心地の良い「居たれ」で過ごしてほしい。3. 善後院は総社市。近所の子供が利用者や交流すること。



中央の大きなテーブルは利用者やスタッフの場所。ここで作業をしたり食事したりしながら、共に時間を過ごす。「利用者さんにはそれぞれ得意なことがあるので、お願ひして作業してもらっています」と土井さん。この日は入り口にちょうどいい色の履物を付けるため、買ったばかりの生地色合い合わせたり練習がかったり。経験豊富な利用者から学ぶことも多い。

WELFARE AND CARE WORK

SHUHEI DOI CARE WORKER







# 福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」による連載記事展開！

こここ

無関心・関心層向け

興味喚起・理解促進

メディア(Web)

2021年4月にスタートしたマガジンハウスのウェブマガジン【福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」】は、福祉・介護の現場、関わる人、当事者の方々を訪ねながら、記事を制作、発信しています。前年度は本事業で新規連載「自分らしく生きる”を支えるしごと”を開始し、全15記事を配信しました。この15記事は次年度も引き続き閲覧可能にアーカイブし、今年度は新たに10記事を新規制作、配信。

企画

## “自分らしく生きる”を支えるしごと

前年度は以下の15記事を新規制作、配信しました。今年度は新たに10記事を新規制作、配信。

この連載をベースに、「ケアするしごと展」「ケアするしごとバー」「ケアするしごとツアー」のコンテンツやゲストアサインで連動。

- #01 【施設訪問】 自分らしく生きるってなんだろう？一人ひとりの人生に向き合う介護事業所「あおいけあ」をたずねて／株式会社あおいけあ（神奈川）
- #02 【施設訪問】 さまざまな命に囲まれて、心を動かして生きる。園芸療法を行う「晴耕雨読会」をたずねて／NPO法人たかつき（大阪）
- #03 【スタディ】 ケアってなんだろう？ナイチンゲール看護研究所・金井一薫さんをたずねて
- #04 【施設訪問】 居心地の良い場所の条件ってなんだろう？浦安にある高齢者向けの住まい「銀木屋」をたずねて／株式会社シルバーク（千葉）
- #05 【施設訪問】 いくつになっても「働く」は楽しい。ばあちゃんたちの生きがいとビジネスの両立を目指す、株式会社うきはの宝をたずねて／うきはの宝株式会社（福岡）
- #06 【施設訪問】 介護施設×学生シェアハウス「みそのっこ」が教えてくれる、「介護×場づくり」の可能性／株式会社ゆず（広島）
- #07 【施設訪問】 自然の循環に身を委ね、大地と共に生きる。「里・つむぎ八幡平」が実践する「半農・半介護」の暮らし／特定非営利法人 里・つむぎ八幡平／一般社団法人すばる（岩手）
- #08 【カルチャー】 マンガに潜む「ケアの視点」。3名の選者が物語から読み解く
- #09 【施設訪問】 居場所ってなんだろう？「新発想の施設建築」をたずねて／有限会社オールフォアワン（千葉）
- #10 【カルチャー】 「老いと共に生きる」を映画から考える。編集者、映画作家、介護福祉士、福祉施設運営者の選ぶ5作品
- #11 【スタディ】 認知症ってなんだろう？認知症未来共創ハブ代表・堀田聡子さんが当事者インタビューを通して気づいたこと
- #12 【カルチャー】 「老い」をまなごす写真家・訪問看護師 尾山直子さんをたずねて
- #13 【施設訪問】 「科学的な介護」ってなんだろう？福祉楽団「杜の家なりた」をたずねて
- #14 【スタディ】 認知症を“体験”するってどういうこと？イシツカユウコさんと「VR認知症」を体験してみた／株式会社シルバーク
- #15 【スタディ】 介護の世界に興味をもったのですが、はじめの一歩相談させてくれませんか？／株式会社Blanket



個と個と一緒にできること。  
福祉をたずねるクリエイティブマガジン  
こここ



- 本連載の特設ランディングページを設置し、アーカイブとしていつでもだれでも閲覧できるようにしています。
- この連載枠には、次年度以降もコンテンツを追加していくことも可能とします。

## ここ連載①

福祉をたずねるクリエイティブマガジン〈こここ〉にて施設の在り方やケアの方法論にしっかりとしたビジョンを持った介護の現場を訪ねたり、介護のしごとの理解促進を図る識者へのインタビューさせていただいたり、10記事を新規に制作、公開。(前年度15記事も引き続きアーカイブ)

### “自分らしく生きる”を支えるしごと -介護の世界をたずねて-

<https://co-coco.jp/series/nursing/>



vol.  
16  
2024.11.08

安心して歳を重ねられる町とは？ 鞆の浦・さくらホームをたずねて

表示回数：約1.4万

<https://co-coco.jp/series/nursing/tomo-sakurahome/>



vol.  
17  
2024.12.12

「ケア」を感じたマンガを教えてください。組織開発コンサルタント、俳優、福祉施設所長、介護福祉士の選ぶ4作品

表示回数：約1.1万

[https://co-coco.jp/series/nursing/care\\_comic2/](https://co-coco.jp/series/nursing/care_comic2/)



vol.  
18  
2024.12.13

私もあなたも、主人公でいられるように。「DAYS BLG! はちおうじ」をたずねて

表示回数：約1.1万

<https://co-coco.jp/series/nursing/blg-hachioji/>



vol.  
19  
2024.12.18

「助けて」と言い合える環境を育むには？「みんなの家 タブノキ」をたずねて

表示回数：約1.1万

<https://co-coco.jp/series/nursing/tabunoki/>



vol.  
20  
2025.01.10

アーティストが滞在する福祉施設とは？「デイサービス楽らく」をたずねて

表示回数：約1.2万

[https://co-coco.jp/series/nursing/day\\_servise\\_rakuraku/](https://co-coco.jp/series/nursing/day_servise_rakuraku/)

## ここ連載①



vol. 21  
2025.01.20 多世代が一緒に過ごすことで生まれる安心とは？「深川えんみち」をたずねて

表示回数：約1.8万

<https://co-coco.jp/series/nursing/fukagawaenmichi/>



vol. 22  
2025.01.23 地域の歴史や文化とともに歩む福祉とは？ ライフの学校「六郷キャンパス」をたずねて

表示回数：約1.7万

<https://co-coco.jp/series/nursing/gakkou-life-3/>



vol. 23  
2025.01.30 本から「介護にあるまじし」に出会う。イラストレーター、哲学者、ジャーナリスト、介護福祉士の選ぶ4冊

表示回数：約1.8万

[https://co-coco.jp/series/nursing/nursing\\_book/](https://co-coco.jp/series/nursing/nursing_book/)



vol. 24  
2025.02.27 幅広く使われる「ケア」をどうとらえる？ 向坂くじらさん、吉田真一さんと考える

表示回数：約1.8万

<https://co-coco.jp/series/nursing/care2/>



vol. 25  
2025.03.06 地域の「居場所」ってなんだろう？ 佛子園「三草二木 西園寺」をたずねて

表示回数：約1.6万

<https://co-coco.jp/series/nursing/saienji/>

# こここWeb新連載「ケアするしごと、はじめの一步」全5記事！

こここ

関心層向け

理解促進

メディア(Web)

「こここ」では、ウェブ上で興味喚起の拡大化と、関心層へのネクストステップを新連載で情報提供します。前段の連載とは別に、**〈こここ〉で新連載「ケアするしごと、はじめの一步」(5記事)を、公開。**

**目的**

1. リアルイベントのレポート記事を配信し、より広範な層に対して、介護のしごとの興味喚起と理解促進を行う。
2. 意義ややりがいというストーリーとは別に、より具体的な給与、労働条件、職場実態、キャリア形成、ワークライフバランス、多様な働き方の選択肢などの情報面もサポート。

**コンテンツ**

- 記事1 | ケアするしごとは、想像以上にひらかれている？ ケアするしごと展2024レポート
- 記事2 | 自分や自分が大切な人にとっての「幸せ」ってなんだろう？  
小学生の登場人物たちと考える冊子紹介
- 記事3 | 動画から知る「介護のしごと」
- 記事4 | お酒を片手に“ケアする仕事”に携わるゲストとおしゃべり。ケアするしごとバー2025開催レポート
- 記事5 | ケアの現場へ小旅行？ ケアするしごとツアーレポート

○ 本連載の特設ランディングページを設置し、アーカイブとしていつでもだれでも閲覧可能としています。



## ケアするしごと、はじめの一步

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/>



vol.  
**01**  
2025.01.15

ケアするしごとは、想像以上にひらかれている? ケアするしごと展2024レポート

表示回数：約6,500

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/careten2024report/>

vol.  
**02**  
2025.02.27

自分や自分が大切な人にとっての「幸せ」ってなんだろう? 小学生の登場人物たちと考える冊子紹介

表示回数：約6,400

[https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/shitteokitai\\_kaigobook/](https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/shitteokitai_kaigobook/)



vol.  
**03**  
2025.03.03

動画から知る「介護のしごと」

表示回数：約6,000

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/movie/>



vol.  
**04**  
2025.03.12

お酒を片手に「ケアする仕事」に携わるゲストとおしゃべり。ケアするしごとバー2025開催レポート

表示回数：約4,400

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/shigotobar2025/>



vol.  
**05**  
2025.03.13

ケアの現場へ小旅行? ケアするしごとツアーレポート

表示回数：約3,900

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/caretour/>

# 「anan × POPEYE × こここ」 連携冊子制作・全国書店配布

## 連携冊子

無関心層向け

興味喚起

冊子配布

「anan本誌記事8ページ」と「POPEYE本誌記事8ページ」と「こここ連載のダイジェスト解説とリンク4ページ」をまとめた20ページのオリジナル冊子を制作いたします。この冊子は展示イベント、トークイベント、交流イベント参加者への配布に加え、全国の書店で若年層にターゲティングしたサンプリングを実施。また、前年度ご要望をいただいた福祉事業者や団体の希望者にも一部提供できるよう、前年度より部数を増やしました。

### イベントでの配布

「ケアするしごと展」@渋谷、下北沢の会場内で配布。若年層の来場が多い商業施設で効率的に配布。その他、「ケアするしごとバー」「ケアするしごとツアー」等イベントでも配布。

配布方法

各イベント時に手渡し配布、ラック設置

配布数量

1,000部

配布時期

2024年11月～

#### 配布イベント

ケアするしごと展①  
@渋谷



ケアするしごと展②  
@下北沢



ケアするしごとバー



ケアするしごとツアー



### 全国書店での配布

首都圏の書店を中心に、雑誌・書籍の購入者を対象として、制作した冊子をレジ袋に同梱する形で配布。

配布方法

会計時に手渡し配布、ラック設置

配布数量

10,000部

配布時期

2024年11月～



#### 配布の様子



配布書店計31店舗

(内訳:BOOK1st/5,000部・LIBROグループ/5,000部)



個と個と一緒にできること。

福祉をたずねるクリエイティブマガジン  
マガジンハウス

## ケアするしごと ニュース&トピックス

SPECIAL ISSUE

### ① 渋谷&下北沢で「ケアするしごと」開催!

「ケアするしごと」は、「自分らしく生きる」を支える仕事。誰しもに関わる創造的な職業としての介護職や認知症ケアの仕事取材した、「anan」「POPEYE」「こここ」合同の記事パネル展。入場料無料です!



詳しくはこちら



◎渋谷会場 日時:2024年11月16日(土)・17日(日)10~21時  
会場:渋谷サクスステージ3F(東京都渋谷区桜丘町1番1号)  
◎下北沢会場 日時:2024年11月11日(月)~29日(金)11~21時  
会場:BONUS TRACK(東京都世田谷区代田2丁目36-15)  
主催:株式会社マガジンハウス

### ② ドリンクを飲みつつ楽しく話す「ケアするしごとバー」

介護の仕事や人を支える事業に注目が集まる今日このごろ、「実際はどんな仕事なの?」「やりがいはある?」など気になるかもしれません。介護の現場で働くゲストを招いてイベントを開催。こここ編集部も出演。オンライン配信あり。



詳しくはこちら



◎こここ×日本仕事百貨 ケアするしごとバー  
時期:2024年11月~2025年2月 全5回開催  
会場:リトルトキョー(東京都江東区三好1-7-14)  
参加費:オンライン配信は無料、リアル会場はワンドリンク制  
主催:株式会社マガジンハウス 企画・運営:日本仕事百貨

### ③ 実際の仕事場に行ってみよう!「ケアするしごとツアー」

介護の仕事場見学をしてみませんか?様々な介護・福祉の世界を見てきた「KAIGO LEADERS」と介護事業所を巡るツアー型イベントを開催!百問は一見にしかず、未経験でも活躍できる「ケアするしごと」に触れるチャンスです。



撮影:木村文平

詳しくはこちら



◎ケアするしごとツアー  
時期:2024年12月~2025年1月 全4回開催  
会場:関東エリアの高齢介護事業所など(詳細は公式ページにて)  
参加費:無料 ※宿泊交通費は参加者負担  
主催:株式会社マガジンハウス 企画・運営:KAIGO LEADERS(株式会社Elblank)

### ④ プレゼンコンテスト「社会福祉HERO'S TOKYO 2024」

「社会福祉の仕事はクリエイティブで面白い!」そんな想いをもつ全国の若手スタッフによるプレゼンコンテスト「社会福祉HERO'S」を開催。リアル会場での観覧に加え、YouTube配信あり。特別ゲスト出演も。



詳しくはこちら



◎第7回 社会福祉HERO'S TOKYO 2024  
開催日:2025年2月19日(水) ※詳細は公式サイトにて順次公開  
会場:渋谷ヒカリエ ホールB(東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ 9F)  
参加費:無料 定員:100名 ※先着順  
主催:全国社会福祉法人経営者協議会

### ⑤ 介護の魅力って?「アンバサダー」が語る動画

一般社団法人KAIGO PRIDEでは、介護職自らが主体となり、自らの声で発信していく「KAIGO PRIDE アンバサダー」を養成中。11月11日には、アンバサダーが介護の魅力や課題を語る動画を公開予定。



詳しくはこちら



◎「KAIGO PRIDEアンバサダー」動画コンテンツ  
公開日:2024年11月11日(月)  
閲覧方法:QRコードよりYouTubeチャンネルをご覧ください  
出演:KAIGO PRIDEアンバサダー 主催:一般社団法人KAIGO PRIDE

### ⑥ 学生視点で福祉の面白さを知ろう!「OPEN FUKUSHI」

福祉に「なんとなく」関心を抱く学生を募り、現場を訪ね、実際の仕事を取材。学生達が緊張しながらも想いを持ったずねる様子をウェブサイト「OPEN FUKUSHI」で公開中です。多様な視点の対話に注目。



詳しくはこちら



◎「OPEN FUKUSHI」ウェブサイト  
2024年11月に大編リニューアル!  
URL:https://openfukushi.com/  
主催:一般社団法人FACE to FUKUSHI

ケアするしごと

SPECIAL ISSUE



個と個と一緒にできること。

福祉をたずねるクリエイティブマガジン  
マガジンハウス

SPECIAL ISSUE

# ケアってなんだろっ?

## ナイチンゲール看護研究所・ 金井一薫さんをたずねて

なにげなく使われている「ケア」という言葉。実はその時代に生きる人の暮らしや制度に、さまざまなかたちで息づいてきた歴史がある。現代において「ケア」とは誰が担うものなのか? フローレンス・ナイチンゲールの実践からケアの本質を研究する金井一薫さんにたずねた。

※日本で国家資格として「介護福祉士」が誕生したのは1987年。そして2000年に介護保険制度が始まると、介護福祉士や介護職の呼称として「ケアワーカー」という語が多く用いられるようになり、「ケア」という語が一般化していった。

誰もがケアの視点を持つ時代へ

「たしかに看護師や介護福祉士など」「専門職業化」されたケアは、本来誰もが簡単にできるわけではありませぬ。体系化された知識と技術を持ち、行為を裏付ける論理にしたがったアプローチが求められるからです。でもそれは、専門家以外がケアに関わってはいけない、という意味ではありません。むしろ制度的にも専門分化が進んでいる現代においては、さまざまな方がケアの視点を増やしていく必要があると思っております。

専門は尊重しつつ、領域を超える視点を持とうとどういふことなのか。そのヒントとして、金井さん

はナイチンゲールに始まったと考えられる、福祉事業の歴史を共有してくれました。

「19世紀半ば、イギリス社会では貧困階層を対象とした慈善事業が発達していました。この時点では、病気があろうが無かろうが、もうごちゃごちゃ、そこでナイチンゲールは、「病人」と「高齢者」「障害者」「子ども」を「看護的ケアが必要な人たち」としてひっきり「健康な身体をもつ貧困者」と分けてケアを提供しようと考えたんです。なぜなら、提供すべきケアの目的が違うから。これが看護の世界と福祉の世界のスタンダードにつながっています。しかし時を経て、20世紀後半には「貧困者へのケア」と「病人へのケア」に加えて、双方に重なる

「高齢者・子ども・障害のある人」へのケアの重要性が高まり、福祉的ケアと看護ケアは双方が連携して、協働するシステムを取るようになっていきました。この時、日本では介護福祉士が誕生しました。複雑な生きづらさをどうケアする? 「ただしケアという領域は広く、必要としている人の状況もさまざまです。そもそも人の暮らしについて、特定の制度やカテゴリーに分けられない領域も多いじゃないですか。どうしてもはみ出してしまっている部分があるので、専門分化するところはしつつも、もう一度統合して考えていく必要があると思います」

多くの人々へ効率的に最適なケアを提供するために、専門分化は重要だ。しかし実際の困りごとは、さまざまな要因が混ざりあっており、個々の制度だけでは見過ごされてしまっていることが多い。

「今多くの人が生きづらさを感じているのは、「この場合はどう」といった単純な縦割りで、一つの制度や環境に当てはめられている、とかがやはり要因にあると思うんです。それでよく生活できる人もいます。どうも、健康やかに生活しづらくなっている人もいます。だからこそ、さまざまな状況の人たちが「ケア」という視野が広い領域に関わって、みんな一緒に助け合っていく必要があると思うんです」

編集・佐々木智史(写真:堀尾悠)



つづきはウェブで



金井一薫さん(ナイチンゲール看護研究所 所長)

東京大学医学部附属看護学校卒業。慶應義塾大学文学部卒業。フローレンス・ナイチンゲールの思想研究に励みながら、1987年にナイチンゲール看護研究所を設立。所長を務める。専攻文京大学大学院看護学研究科教授。東京有明医療大学名誉教授。著書に『KCOM理論「ケアの原形論」』『新版 ナイチンゲール看護論「入門」』など多数。

SPECIAL ISSUE

ケアするしごと

「ひとりでお茶が淹れられないおばあちゃんがいたら、どうやって自分で淹れられるようになるんだろ?」と考えたのが介護の仕事。決められた時間、代わりにお茶を淹れてあげることじゃないんです。そう語るのは、代表の加藤忠相さん。神奈川県藤沢市で介護事業所を運営する株式会社あおいかい。一命ある限り自分らしく生き、一人の価値のある人間として存在する。という思いのもと、その環境をつくる仕事とは。



つづきはウェブで

インタビュー：株式会社あおいかい 代表 加藤忠相さん 取材先：おたがいさん、おとなりさん、いどばた（神奈川県藤沢市/小規模多機能型居宅介護） 結（神奈川県藤沢市/グループホーム） 撮影：川島彩水/執筆：あかしゆか/編集：垣花つや子

不便であるほど  
人とのコミュニケーションが  
生まれる



つづきはウェブで

のどかな里山にある子どもの秘密基地のような建物。「52間の緑側」は千葉県八千代市のデイサービスでありながら、カフェスペースなどを備え、地域の人々の「サードプレイス」となることも目指している。2023年にグッドデザイン大賞を受賞したこの建物には、誰かとの関わりしるを生むデザインが施されている。その人らしい居場所を実現するためのヒントが、ひと続きの長い緑側のそこそこに散りばめられていた。

インタビュー：社会福祉法人福祉集団 代表 藤田大輔さん、奥住比沙子さん 取材先：社の家なりた（千葉県成田市/特別養護老人ホーム等） 撮影：田野英知/執筆：橋本湧也/編集：あかしゆか



CASE STUDY

相手の持っている畑を耕して、  
相手の生活がうまくいくように  
気にかけていくこと

でも我々は「自分で持って  
くださいね。がんばって歩けるところ  
まで歩きましょう」と一緒に歩く

大阪府高槻市の「デイサービスセンター 晴耕雨読舎」では、およそ300坪の敷地に50種類以上の野菜や果物、花々を植えて育てる園芸療法を取り入れている。みんなで一緒になにかをするのではなく、1日の始めにスタッフと相談して自分で過ごし方を決める。庭には「自分の畑」があって、巡る四季のなかで植物に触れ、次の季節を楽しみにする。そんな「心が動いて体が動く」を支えているのは、どんなまなざしのだろうか。



つづきはウェブで

インタビュー：NPO法人たかつき 代表理事 石神洋一さん 取材先：晴耕雨読舎（大阪府高槻市/デイサービス） 撮影：阪本勇/執筆：佐藤憲夫/編集：川村麻子

CASE STUDY

ケアするしごと

# 自分らしく入居する さまざまな仕事とは?



人が元気になる理由「居心地のいい場所」の条件とするなら、千葉県浦安市のサービス付き高齢者向け住宅「緑木庵」は実にたくさん条件を備えている。地域の子どものふれあい、おいしい食事やおしゃれな空間、他の人とコミュニケーションシヨやガジテイブなムード、自心が尊重される環境……。そこは入居した人の「これがやりたい」「こうありたい」を全力でサポートする、優しさがある「居場所」だった。

つづきはウェブで

インタビュー：株式会社シルバード 緑木庵＜浦安＞<市川＞ 所長 藤 慎一郎さん、緑木庵＜西新井大前＞ 所長 藤 玲子さん 取材先：緑木庵＜浦安＞（千葉県浦安市/サービス付き高齢者向け住宅） 撮影：木村文平/執筆：吉田千希/編集：大島佳子

これまで過ごしてきた  
日常の延長のような生活を

「この辺りに住む高齢者の8~9割は、ずっと農業をやってきた方々です。若手山のふもと、八幡平市で介護事業や障害福祉サービスを展開する、里・つむぎ八幡平。施設の近隣には4.7haもの広大な所有農地があり、農業を生業にした人が多い地域だからこそ、施設入所後もずっとそばに感じられるよう「農業と共に暮らす」を大切にしている。そんな「半農・半介護」の日常から、「その人らしい暮らし」の支え方が見えてきた。

つづきはウェブで



インタビュー：特定非営利活動法人 里・つむぎ八幡平 理事 高橋和久さん 取材先：里・つむぎ八幡平（岩手県八幡平市/小規模多機能型居宅介護ほか） 撮影：田野英知/執筆：あかしゆか/ちひろ/編集：あかしゆか

つづきはウェブで

インタビュー：株式会社ゆず 代表 川原英二さん、作田隆樹さん 取材先：みそのっこ（広島県東広島市/看護小規模多機能型居宅介護、認知症対応型グループホーム、学生シェアハウス） 撮影：川島彩水/執筆：山中敬歩/編集：あかしゆか



ケアするしごと

CASE STUDY

だって、入居者にとって、  
ここは「うち」ですから

「高齢者の方と関わる仕事」にどんなイメージを抱いていますか? 大変そう? いえいえ、実際には、一人ひとりの状況や経験に耳を傾け、心身の変化に寄り添い、「自分らしく生きたい」と願う人を支える、創造的な仕事です。マガジンハウスによる福祉をたずねるクリエイティブマガジン(こここ)では、全国各地のさまざまな現場をたずね、高齢の人と関わる仕事の魅力について伺いました。各記事の続きはウェブでご覧ください!

構成：遠藤ジョバンニ+中田一会(こここ編集部)

こういう議論を90歳と  
するのがおもしろい

「うきはの宝」は75歳から93歳の約年寄り18名が多様ななかわりかたで働く、平均年齢75歳の会社だ。「売るんだと思ったら、いつも通りにちょっと工夫を足そうと思うじゃない。それがとってもし楽しいよね」とはりきるトキエさん(76)。代表の大熊充さんも「ばあちゃんたちは、どうしてもボリュームはたっぷり、値段は安くしたいって言いがちですね。だからそこは若者の腕の見せどころです」と二人三脚の面白さを語る。



つづきはウェブで

インタビュー：うきはの宝株式会社 代表 大熊充さん 取材先：うきはの宝株式会社（福岡県うきは市） 撮影：新田紗也佳(ALBUS)/執筆：小野良/編集：川村麻子

気持ちがあるべく、  
外の世界に向く  
ようにしてるんです

介護事業所と学生シェアハウスの複合拠点「みそのっこ」。そこ暮らしのお年寄りの隣には、ときに若者がいたり、地域の人がついたり、スタッフがついたり、「あたりまえの、こちやませが絡り広げられている。『僕らは、介護が人々から遠いのが課題だ』と思ってるんです」と語る、代表の川原英二さん。こちやませの空間で、人ひとりの「感情が動く瞬間」の連続が、それぞれの生活にどんなシシシを創り出しているのだろうか。

CASE STUDY

## 無料配布ブックレット 小学生向け冊子制作

小学生向けBOOK

無関心層向け

興味喚起

PDFデータ公開

「介護(職)」の社会的必要性を訴求する小学生向け読本を無料・使用許諾不要で発行。24pの冊子を新規制作(大人向け4pを含む)。

PDFを厚生労働省サイト、ここ、その他事業間連携先サイトで紹介 +リアル本も1000部印刷

### 展開イメージ

版型 : B5(予定)  
総ページ数 : 24ページ  
納品形式 : PDFデータ  
イベント配布用 : 1,000部



目的: 進路職業選択を具体的に決める高校生、大学生より早期の段階で、「ケア」や「介護のしごと」への興味や理解を図る活動も必要。教員、福祉事業者、地方自治体が子ども向け、親向けの授業やイベントを行うときに、使用できる「介護のしごと」への興味と理解を図るため、無料・使用許諾なしで誰もが使える「小学生向け(親や教員向けの解説つき)ブックレット」を制作、配布

活用方法: 厚生労働省のホームページや、事業間連携会議に参加する福祉・介護系団体のホームページ、こここのウェブサイトダウンロード可能なボタンを設置し、活用を促す。また、ブックレットに関するリリース記事等情報拡散施策を行った。

### 幸せに生きるって、どういうこと? 知っておきたい「介護」のしくみと仕事



(一部抜粋)

<https://kaigonoshigoto.jp/portal/wp-content/uploads/2025/02/%E5%86%8A%E5%AD%90-%E7%9F%A5%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%8A%E3%81%8D%E3%81%9F%E3%81%84%E3%80%8C%E4%BB%8B%E8%AD%B7%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%81%97%E3%81%8F%E3%81%BF%E3%81%A8%E4%BB%95%E4%BA%8B.pdf>



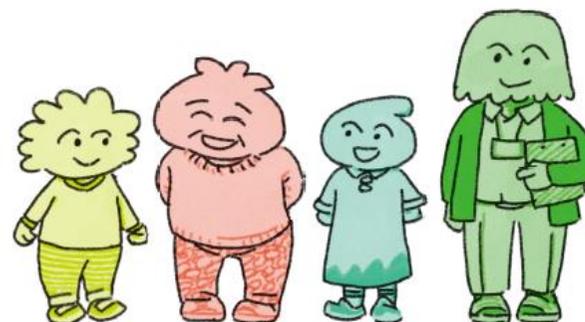
## 幸せに生きるって、どういうこと？

- テーマ① 人の安心を支えるしくみ「社会保障」…… 4
- テーマ② 幸せを守るための考え方「基本的人権」…… 6
- テーマ③ 周りにある見えないバリア「社会的障壁」…… 8
- テーマ④ 同じところと、ちがうところがある？「高齢者のからだ」…… 10
- テーマ⑤ 高齢者の生活を守る「介護保険制度」…… 12
- テーマ⑥ だれが支えてくれるの？「介護の専門家」…… 14
- テーマ⑦ 本当の願いをあきらめないために「あたり前をかなえるケア」…… 16
- テーマ⑧ 自分らしさってなんだろう？「人の幸せ」…… 18

## 大人の方へ——「介護の誤解」をひも解くコラム

- 異なる世界に寄り添う力を、身につけられる仕事 寛裕介…… 20
- データで見る「令和の介護職」の働き方 大崎雅子…… 21
- テクノロジーが介護職の「身体」と「専門性」を広げる 宇井吉美…… 22

かんまつしりょう  
巻末資料…… 23



幸せに生きる、と聞いて、みなさんはどんなことをイメージしますか？  
わかるようでピンとこない、そんな人もいるでしょう。

この冊子では、高齢者を支える「介護」について学びながら、  
幸せって何かをみんなで考えてみたいと思います。

「介護って、身のまわりのお世話をすることじゃないの？」  
もちろん、まちがってはいません。

でも、それだけで考えてしまうと、おじいちゃんやおばあちゃんと  
いっしょに暮らしていない人などには、  
ちょっと遠いことに思えてしまうかも。

本当はみなさんともすごく関係がある介護を、今回は  
わたしたちのあたり前の生活を支えながら、一人ひとりの幸せを守る  
「社会のしくみ」として学んでいきます。

あなたも小学生のヒカリさんやウミさんといっしょに、  
自分や自分の大切な人にとっての「幸せ」ってなんだろう？  
どうすれば見つけたり、かなえたりできるだろう？  
と考えてみてください。



ヒカリ

小学校6年生。遠くでひとり暮らしをしているユキノのことが気になる



ウミ

ヒカリのクラスメイト。母が介護の仕事をしているが、くわしくは知らなかった



ナギ先生

2人が通う学校のスクールソーシャルワーカー。福祉のことに詳しい



ユキノ

ヒカリのおばあちゃん。外出に苦労するようになって、最近ちょっと元気がない

テーマ①

人の安心を支えるしくみ

しゃかいほしょう  
「社会保障」



ヒカリ

ぼくのおばあちゃん、ひとり暮らしなんだけど、最近足が弱ってきて不安そうなんだ。ぼくたちが引っこして、いっしょに住むことになるのかなあ。



ウミ

ええ、そうなの？じゃあ転校しちゃうの？



ヒカリ

友だちとはなれたくないけど……。近くに親せきがいなくて、ぼくやお父さんしかお世話する人がいないんだ。

ちょっと待って！その気持ちはよくわかる。でも、家族だけで解決しようとしなくていいんだよ。社会には、自分の力で生活していくことが難しくても安心して暮らせるしくみがあるんだ。「社会保障」っていうんだけど。



ナギ先生



ウミ

ヒカリのおばあちゃんと関係あるの？

高齢になってからだが不自由になったときに、身のまわりのお世話をしてもらったり、リハビリを受けたりできるよ。他にも、子どもが受ける予防接種や児童手当などたくさんの制度がある。おばあちゃんだけじゃなくて、きみたちも社会保障で守られているんだよ。



ナギ先生

幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ① 人の安心を支えるしくみ「社会保障」

## 暮らしの中で、こんなことがあったら？



社会全体で生活を支え合う **社会保障**

しゃかいほけん  
**社会保険**



みんなでお金を出し合い  
いざという時に備えるしくみ

しゃかいふくし など  
**さまざまな社会福祉**



特にサポートが必要となる人のために  
国や市町村などが支援するしくみ



急な病気や事故で家から出られなくなったら？

- ・どんなことに困る？
- ・だれに、どんなことをしてほしい？

5

テーマ②

## 幸せを守るための考え方

きほんてきじんけん  
**「基本的人権」**

なぜ社会保障というしくみがあるかというと、わたしたちにはみんな、「幸せになる権利」があるからなんだ。



幸せになる権利？

憲法の「基本的人権」って習ったかな？  
すべての人間が生まれながら持っている権利として、幸せを追求できる権利(13条)や、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利(25条)を、国が保障しているんだ。



それって、わたしたちの生活にどうつながってるの？

どちらも、自分らしく生きるには大切なものなんだよ。  
この権利が守られないと、自分の好きなことをしたり、やりたいことを選んだりできなくなってしまうんだ。



前におばあちゃんが「もう遠くまで買い物に行けないってさびしそうだったから、「配送してもらおう」って言ったんだ。でもそういうことじゃなくて、お店で商品を見ながら、何を買うか考えたり、迷ったりしたかったみたい。その楽しみがなくなった……って感じているのかも。

6

幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ② 幸せを守るための考え方「基本的人権」

### 生まれながらに持つ権利って？

毎日を自分らしく生きるために欠かせないもの



### 人権を守るしくみ



こくさいてき  
国際的な約束  
「国際人権規約」  
「子どもの権利条約」  
「障害者権利条約」など

基本的人権の尊重  
おろそかに  
侵すことのできない  
永久の権利として保障する

憲法や国際条約を守りながら、人権侵害が起きないように法律・制度を整えていく

### テーマ③

## 周りにある見えないバリア

しゃかいてきしょうへき  
「社会的障壁」



年をとって、自分が好きだったことや、  
できていたことが、できなくなるってつらいよね。

でも、実はその原因って、本人じゃなく  
社会の側にあることも多いんだ。



だんま  
段差が多い道だと歩きにくい、とか？

そう。「社会的障壁」っていうんだけど、  
物理的なバリア以外に、情報がなかったり差別を受けたり、  
見えないところにもいろいろなバリアがある。  
そのせいで、何かしたいことがあっても  
できないケースがあるんだ。



毎年、おばあちゃんといっしょに旅行に行ってるんだ。  
でも、たしかにバリアも多いしもう難しいかな……。

方法はあると思うよ。ただ、ここでもうひとつ考えたいのは、  
おばあちゃんにとっては「何が」バリアなのかということ。  
本当の困りごとは一人ひとりちがうから、本人と話し合って、  
いっしょに解決方法を考えていくことがとても大切なんだ。



幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ③ 周りにある見えないバリア「社会的障壁」

## 社会のどこにバリアがある？

社会的に弱い立場の人ほど、<sup>こなん</sup>困難があることに気づかれにくい



ただし、<sup>じっさい</sup>実際のバリアの現れ方は一人ひとりちがう

### 身のまわりのバリア



- ・毎日の暮らしの中で、本当はやってみたいけど「自分は子どもだから無理だ」と思っていたことはない？
- ・それをあきらめさせるバリアはなんだろう？ どうすればなくなっていくと思う？

## テーマ④

## 同じところと、ちがうところがある？ 「高齢者のからだ」<sup>こうれいしゃ</sup>



「一人ひとりちがう」って、わかる気がする。わたしも「女の子なんだから、これが好きでしょう」って決めつけられるとモヤモヤする。それと同じなのかな？

ウミ

気づかぬうちに、<sup>ねんれい</sup>年齢や性別などのグループ（属性）のイメージで、その人を決めつけてしまうことってあるよね。良かれと思っての行動や言葉が、<sup>おん</sup>本人を傷つけてしまう場合もあるんだ。



ナギ先生



おばあちゃんも、家で「ほくがやるから、動かないでいいよ」って言うと、少し困った顔をするのがあったかも。できることは自分でしたいと思っていたのかな。

ヒカリ

そうだね。一言で「<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者」といっても、大切にしたいものはみんなちがうから、困りごとでも決めつけてはいけない。でも、人のからだのしくみには共通しているところがあって、それを理解しておくことも、サポートするうえでは大事なんだ。足が弱くなりやすい、というのはそのひとつだね。



ナギ先生



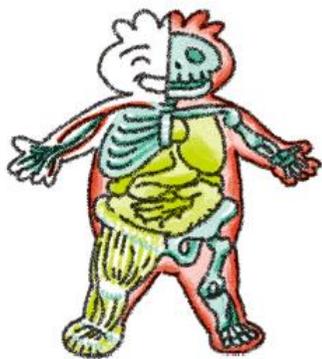
人と同じところと、自分らしいところがあるのが……。

ウミ

幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ④ 同じところ、ちがうところがある？ 「高齢者のからだ」

せいぶつたい せいかつたい  
生物体と生活体で考えよう

生物体としての人間は限りなく共通している



70歳のユキノさん

息をすって  
はくしくみ



物を食べて  
出すしくみ



かいい 加齢によって、多くの機能が低下する



見えづらくなる



歩行機能の低下

生活体としての人間はみんなちがう



おしやねが好きなユキノさん

お肉が  
食べたい



ねこが好き



年に関係なく、自分らしさを追求できる

山登りが  
好き



ステージに  
立ちたい



テーマ⑤

こうれいしゃ  
高齢者の生活を守る

かいはけんせいど  
「介護保険制度」



ヒカリ

おばあちゃんが、自分のことは自分でしたいと思ってるんだったら、家の中をもっと歩きやすくしてあげたいな。



ウミ

手すりをつけてる家もあるよね！  
何か使える制度ってあるのかな。

本人や家族だけでなく社会全体で、特に  
高齢者を支えるためにつくられたものがあるよ。  
「介護保険制度」といって、本人の希望と状態に応じて、  
自分らしい生活を自分で続けていくための  
サポートが受けられるんだ。その中に、  
きっとおばあちゃんに合うサービスがあると思うよ。



ナギ先生



ヒカリ

それって、どうすれば使えるの？

どんなサポートを受けられるかは役所で相談できるし、  
市区町村の地域包括支援センターでも対応してくれるよ。  
手続きだけじゃなくて、何をすればいいかわからない  
っていうところから相談できるんだ。



ナギ先生



ヒカリ

難しいと思ったけど、なんとかなりそう！

幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ⑥ 高齢者の生活を守る「介護保険制度」

## 介護保険で何ができるの？

住み慣れた場所を  
より暮らしやすくする



家に来てもらって  
生活のサポートを受ける



自宅以外の場所に通う



新しい場所で暮らす



自分がおじいさん・おばあさんになった  
未来には……

- ・どんな家で暮らせたらい？ 自由にアイデアを出してみよう！
- ・外に出るとき、どうやって移動できたらいい？
- ・ほしい乗り物をイメージしてみよう！

テーマ⑥

## だれが支えてくれるの？

かいご せんもんか  
「介護の専門家」



「介護」って言葉で思い出したけど、  
そういえばウミのお母さんってそういう仕事してなかった？



うん、たしか「介護福祉士」って言った。  
でも、具体的にどんな仕事をしているか、  
あんまり聞いたことなかったな……。

介護を必要とする人のそばで、身のまわりのサポートをしながら  
その人の生活を整えていく専門家だね。介護に関わる  
仕事をしている人を「ケアワーカー」と呼ぶこともあるよ。  
介護福祉士以外にも、医学や生理学、栄養学など、いろんな  
分野のプロが暮らしを支えることに関わっているんだ。



人のケアに関わる仕事ってそんなにたくさんあるんだ！

生活体としての人は、本当にみんな全くながう(p.11)。  
でも、望む生き方をかなえていくには、生物体としての  
からだの状態にもしっかり目を配れる人がいるからね。  
それぞれの技術や知識を持ちよってからだを心  
を整えながら、一人ひとりの幸せがどこにあるかを  
いっしょに考えたり、提案したりしていくんだ。



幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ⑥ だれが支えてくれるの？「介護の専門家」

## “その人らしい生き方”を考えるケアワーカーの仕事



15

テーマ⑦

## 本当の願いをあきらめないために 「あたり前を かなえるケア」



ウミ

いくつになっても、自分が何を望んでいるのかっていうのは大事なんだね。最初に聞いた「幸せを追求できる権利」(p.6)の意味が、ちょっとわかってきたかも。



ヒカリ

でも、その人が大切にしたいことを知るので、簡単じゃないよね。おばあちゃんも、「何かしたいことある？」って聞いてもあんまり言ってくれないし……。



ヒカリ

……そっか、えんりよして言えないかも。



ヒカリ

あとは、あまりに自然にやってきて「大切に自分で気づいていないこと」もあるんじゃないかな。言葉にならないものを、そうやって知らず知らずあきらめてきた人は多いと思う。でも、それをもう一度いっしょに見つけて、かなえる方法もあるはずなんだ。人が持っている**本当の願い**に、みんなで目を向けられるようになればいいよね。



ナギ先生



ナギ先生



ナギ先生

16

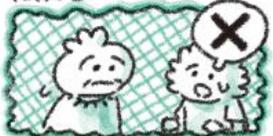
幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ⑦ 本当の願いをおきめのために「あたり前をかなえるケア」

## 「問題に見えること」から 「大事にしたいこと」へ目を向けよう

ポイント ①本人の声をきく ②気持ちを受けとめる ③いっしょにやってみる

### 「問題に見えること」に目を向ける行動

1人で外出しないでと伝える



車の免許をとりあげる



道をよくおぼれるようになった



車の運転が大変になった

ヘルパーカードをつくる



楽しい方法を提案する



### 「大事にしたいこと」に目を向けるケア

本人が「それでいい」「やってみよう」と自分で思えるように応える



17

テーマ⑧

## 自分らしさってなんだろう？

「人の幸せ」



ヒカリ

みんなと話ができて、なんだか安心したよ。  
おばあちゃんやお父さんとも話してみるね。  
あと、自分がどうしたいかも。



ウミ

ヒカリのおばあちゃんだけのことじゃなくて、  
わたしや、わたしの家族や友だち、  
みんなつながっていることなんだね。  
社会保障とか、福祉とか、基本的人権とかって  
最初難しいと思ったけど、一人ひとりが幸せになるため  
なんだなって、ちょっとわかってきた。

もともと「福祉」は「人の幸せ」っていう意味なんだ。  
そこに年齢は関係ない。他の人から見ればささやかな  
願いが、本人には重要なことだってたくさんあるんだよ。



ナギ先生



ヒカリ

いつもはその大切さに気づいてないくらい身近なもののほど、  
なくなってみると、すごくつらいのかもしれないね。

そうだね。「自分らしく」ってよく言うけれど、  
その自分らしさってきっと、そういうあたり前の  
生活の中にあるんじゃないかなと思うんだ。



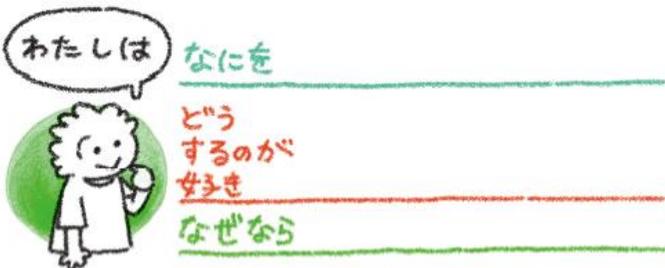
ナギ先生

18

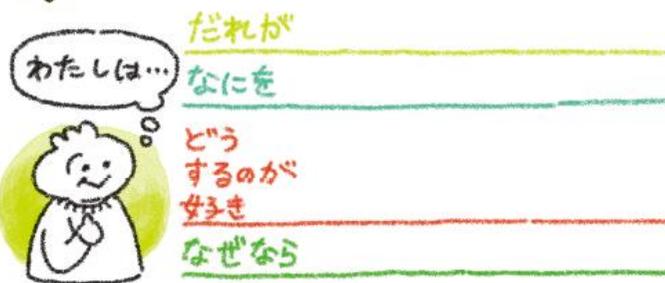
幸せに生きるって、どういうこと？ テーマ⑧ 自分らしさってなんだろう？「人の幸せ」

### 7-71 自分らしい「幸せ」の瞬間を考えよう

- ・あたり前にしている習慣・毎日の小さな楽しみ
- ・自分だけのこだわり など



### 7-72 大切な人のことも想像してみよう



#### おうちの方や学校の先生へ

- ・ぜひ子どもたちと一緒にやってみてください  
(大人が書いた内容を子どもにも想像してもらえると盛り上がります)
- ・見せ合う必要はありません。もし見せたり発表したりしてもいい、という子どもがいた場合、「その内容を否定しないこと」を場の大切なルールにしましょう

## 大人の方へ——「介護の誤解」をひも解くコラム①

### 異なる世界に寄り添う力を、身につけられる仕事

『認知症世界の歩き方』著者／issue+design代表 寛 裕介

歳をとって老いると、何もできなくなる。認知症にもなれば意味不明な行動をとる。介護は「つらくて大変」でしかない……。そんな誤ったイメージ、偏見・誤解がまだまだ多くの方の頭の中に残っています。でも、決してそんなことはありません。

たしかに認知症のある方は、脳のトラブルにより、そうでない方とは見える景色、生きている世界が少し異なります。周囲にいる家族や医療・介護の専門職からは理解が難しいこともありますが、逆にその世界の内側を周囲が少しでも知ることができれば、問題が問題でなくなるケースも多くあるのです。

認知症のある方やその家族が集まる場に来られた、あるご夫婦のお話です。女性は「うちの夫は、今被っているニット帽を絶対に脱いでくれない。汚れているから洗濯をしたいだけなのに、脱がそうとすると暴力的になる」と嘆いていました。その方の配偶者は認知症の当事者でした。

しかし、そのご本人は、認知症当事者の集まるテーブルで周りの仲間から理由を聞かれて、次のように話し始めたのです。「頭の上にたくさんの木が垂れ下がっているのが見えるので、頭をケガしないように、帽子を被っているんだ」と。レビー小体型認知症でよく見られる「幻視」の症状です。彼が生きている世界には、頭を傷つける可能性がある森林が存在していました。

私は「認知症世界の歩き方」というプロジェクトを通じて、認知症のケアに関わる家族や専門職の皆さんに、一見すると理解が難しい言動に直面したときには、ご本人の認知機能のトラブルを名探偵のように「推理」することを推奨しています。本人の声を聴き、トラブルの現場を観察し、認知機能の障害を学ぶことで、認知症のある方が生きる世界、直面している出来事が推理可能になります。推理方法を学ぶワークショップも開催しています。

参加した方々からは、ご本人の立場に立つ重要性がわかり、接し方が変わったとの声をいただきます。認知症のある方の生きる世界がづらい出来事ばかりではなく、幸せに生きている当事者がいることにも気づいたといいます。そうやって、自分とは異なる世界で生きる人々に寄り添えることは、誰もが認知症とともに生きる可能性があるこれからの時代に、欠かせない力となることでしょう。

大人の方へ——「介護の誤解」をひも解くコラム②

### データで見る「令和の介護職」の働き方

全国社会福祉法人経営者協議会 PR戦略特別委員長 大崎雅子

介護の仕事は、労働環境や給与体系などが整っておらず、「離職率が高い」と思われる方も多いかもしれません。しかし、それはすでに過去の話です。2012年度以降、介護分野の離職率は減少を続け、2023年度の離職率は13.1%と、全産業の平均離職率15.4%を下回っています。

そもそも介護分野に限らず、一般に離職の理由で最も多いのは、「職場の人間関係」です。離職率が改善した介護事業所の6割以上が、その理由を「職場の人間関係がよくなったため」と回答しています。この10年間で働きやすい職場づくりの取り組みが浸透し、結果に表れたといえます。

また、懸念されることの多い給与についても、各法人の経営努力や政府が講じた累次の処遇改善施策により、この10年間で平均給与は月額4万円以上も上昇しています。社会に必要なエッセンシャルワーカーを確保すべく、政府は引き続きさらなる賃上げの実施を検討しています。一般企業と同様、しっかりと知識やスキル、マネジメント能力を身につければ、性別に関係なく管理職へのキャリアアップも望めます。管理者クラスで年収700万円以上の給与体系を設けている法人もありますし、相応の給与を安定して得ることができます。

一方で、日々の仕事では時間外労働が発生することがないようシフトを組み、雇用管理が徹底されるようになってきました。介護の現場で働く人の57.7%は「残業なし」と回答しています。また有給休暇の取得率は53.7%でここ数年増加し、付与される日数に対し100%以上取得している割合も16.9%に上ります。過剰なノルマや長時間労働を課せられることはなく、各自のライフスタイルに合わせて、柔軟に、仕事とプライベートの両立が可能です。

いま、介護分野はめまぐるしくICT化が進んでおり、記録やケアプランなどの利用者に関する情報については、検討中も含め約8割の福祉施設・事業所がICTを活用しています。効率化が進む反面、従来の制度の枠組みを超え、まちづくり、災害支援など、より大きな社会課題の解決に向けた取り組みも展開しています。ご利用者への直接支援を含め、今後も高い専門性が求められる分野であり、AIにも代替できない、将来なくならない仕事の一つと言えるでしょう。

(データ出典：令和5年度介護労働実態調査)

大人の方へ——「介護の誤解」をひも解くコラム③

### テクノロジーが介護職の「身体」と「専門性」を広げる

排泄検知センサー開発者/aba代表取締役 宇井吉美

介護テクノロジーというどのようなイメージがあるでしょうか。介護ロボットやセンサー付きベッドなどがありますが、もしかしたら「介護の手間を省いたり、効率的にお世話したりするためのもの」と思う方もいるかもしれません。

わたしたちは、排泄を「におい」で検知するシステムを提供しています。その中で思うのは、国としても導入を推し進めているこうした介護テクノロジーが、実は便利さや効率性だけではなく、よりよいケアへの進化と、そこに携わる介護職のイメージ向上をもたらすものだということです。

目や耳や鼻などをセンサーが代替することは、介護職の「身体性の拡張」ともいえます。これによって高齢の方々の状態の把握がしやすくなり、今その瞬間に一番いいケアを選んだり発案したりできるようになっていきます。

この介護職とテクノロジーの関係って、美容師とコテの関係に少し似ていると思うんです。美容師は江戸時代には髪結いと呼ばれ、結髪をしたり、頭髪を剃ったりする職業でしたが、明治以降にパーマの技術が入ってきたことで、髪の毛を素敵にしていって専門性が高まっていきました。その後、道具やカラー技術なども進化して、多くの人がより憧れる職業となっています。

一方、人の状態を把握しながら仮説を立て、適切なアプローチを考えていく介護職も、極めて高度な専門性を求められる仕事です。ある意味、科学者や起業家にも通じる職業だと私は捉えています。現状まだ「大変な仕事」というイメージはあるかもしれませんが、ヤングケアラーなどの言葉が広まり、介護がより身近になった分、厳しさや怖さが見えてきた面もあるでしょう。

ただそこにテクノロジーが入りはじめた今、介護職のあり方・見られ方は変わりつつあります。センサーがなかった時代にも顔の表情や動きで「今、排泄したな」とわかる職員さんもいましたが、それは経験値のなせるワザでした。そんな“超すごい専門家”のやることが、経験の少ない介護職さんでも可能になるようにしています。もちろんそれをケアに生かすには、さらなる専門性が必要です。

美容師さんがコテを使いながら「もっと美しくなるように」と願うように、介護職の方々には「もっといいケアになるように」という願いがあります。私たちの開発するテクノロジーは、そこに寄り添う一助になれると思っています。

## 幸せに生きるって、どういうこと？知っておきたい「介護」のしくみと仕事

かんまつりょう

### 巻末資料 — もっと知りたい人へ

この冊子であつかったテーマに関する本やリンク集です。

#### 本

『さみの人生はさみのもの』谷口真由美／荻上チキ 著 (NHK出版)

子どもの持つ権利やその生かし方について考えながら、具体的ななやみにこたえていく本です

『13歳から考える住まいの権利』葛西リサ 著 (かもがわ出版)

安心して暮らすための「住まい」について、高齢者や障害のある人など、さまざまな立場から考えています

『15歳からの社会保障』横山北斗 著 (日本評論社)

人生のピンチにそなえて知っておきたい「社会保障制度」について、10人のストーリーから学べる一冊です

『家でのこと』高橋恵子 著 (医学書院)

介護福祉士の著者が、訪問看護で出会った高齢者や家族についてマンガでつづる、13の物語集です

#### Webサイト

「子どもの権利を考えよう」子ども向け学習サイト (ユニセフ)

<https://www.unicef.or.jp/crc/kodomo/>

子どもの権利条約を中心に、わたしの権利、みんなの権利をみんなで学ぶためのサイトです



「認知症世界の歩き方」(issue+design)

<https://issueplusdesign.jp/dementia.world/>

認知症のある方が生きる世界や見ている景色を表現した、14のストーリーが楽しめます



「KAIGO in JAPAN」(FUKUSHI FOR CONVIVIALITY)

<https://kaigo-in-japan.jp/>

日本で介護の仕事をしようと考えている人のためのWebサイト。

「やさしい日本語(Easy Japanese)」|「日本語」|「英語」から言語を選べます



「子ども情報ステーション:小学生のみなさんへ」(ぶるすあるは)

<https://kidsinfost.net/kids/schoolchildren/>

いろいろな工夫をしながら生活している人が、少しでも気持ちをラクにしたり、心配ごとをへらしたり、安全にすごせたりするための情報がまとまっています



「ヤングケアラー相談窓口」(こども家庭庁)

<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/consultation/>

家族の介護などをしている子どものための、

それぞれの都道府県にある相談窓口を調べるができます



発行・制作／株式会社マガジンハウス こここ編集部

監修／堀田穂子 編集／佐々木将史 ライティング／眞惜七緒 イラスト／宮田 篤

デザイン／阿村佳織、金森 彩 印刷／誠晃印刷

※本冊子は厚生労働省補助事業「令和6年度介護のしごと魅力発信等事業(情報発信事業)」の一環で作成されました



# anan × POPEYE × こここ 「ケアするしごと展」@渋谷・トークイベント

## しごと展 ①

無関心層向け

興味喚起

イベント

2024年11月に開催するananFESに合わせて、anan×POPEYE×こここ共催の「ケアするしごと展」を開催。介護、福祉のしごと無(未)関心層や、サブターゲットである小学生及びその親世代に対して、anan、POPEYE、こここのマガジンハウスブランドの知名度やクリエイターネットワークを生かし、興味喚起と理解促進への誘導を行いました。会場では、anan×POPEYE×こここのオリジナル冊子も配布。

### ケアするしごと展

名称	ケアするしごと展@Shibuya Sakura Stage
開催日時	2024年11月16日(土)~11月17日(日) 10:00-21:00
開催場所	Shibuya Sakura Stage 3Fイベントスペース
主催	株式会社マガジンハウス anan×POPEYE×こここ
来場者数	約2,020名

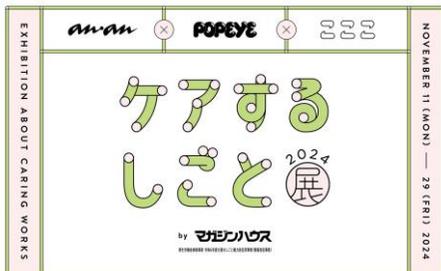
展示

冊子配布

トークイベント

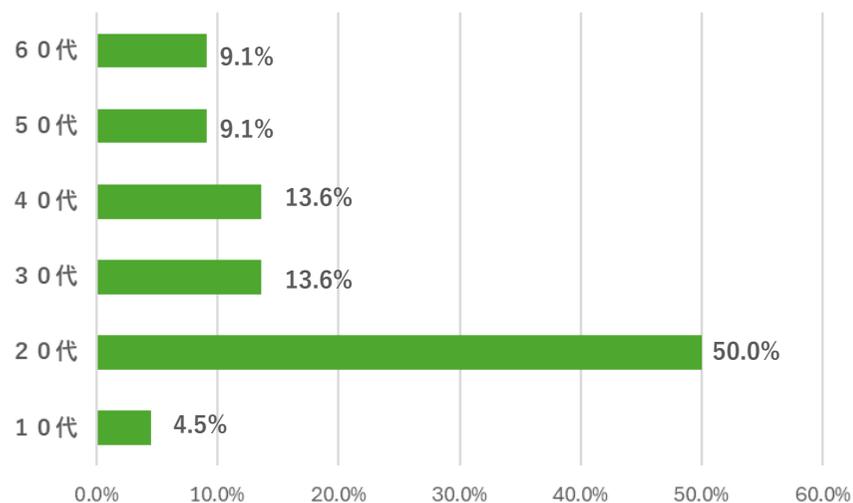
### トークイベント

テーマ	“自分らしく生きる”を支える仕事って？ 介護の職場訪問イベント「ケアするしごとツアー」を企画した「KAIGO LEADERS」に聞いてみる
開催日時	2024年11月16日(土)14:00-15:00
定員	20名 / 参加費:無料
Guest	秋本 可愛さん(株式会社Blanket 代表取締役)
聞き手	マガジンハウス<こここ>統括プロデューサー 及川卓也



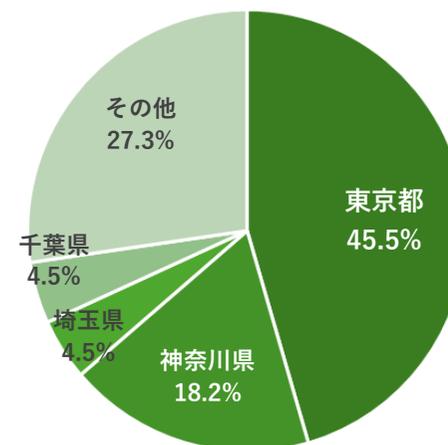
## ケアするしごと展 | 来場者アンケート (渋谷会場)

### ■ 年代



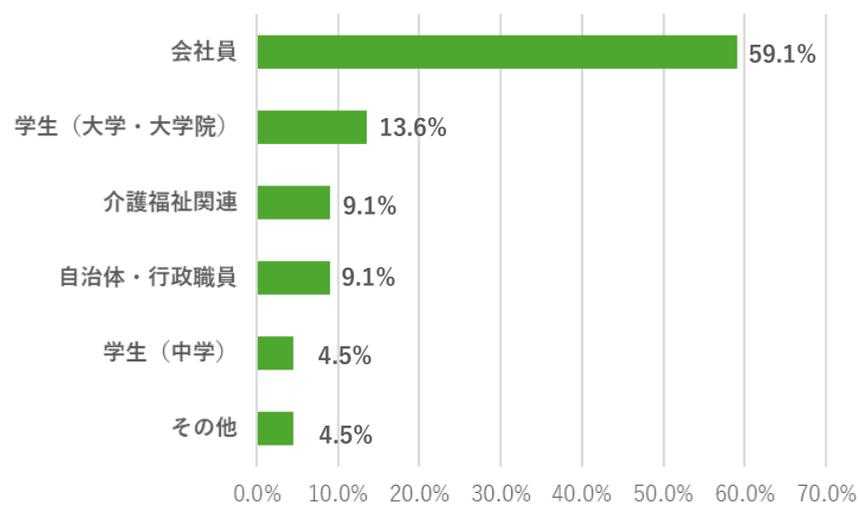
n=22

### ■ 居住



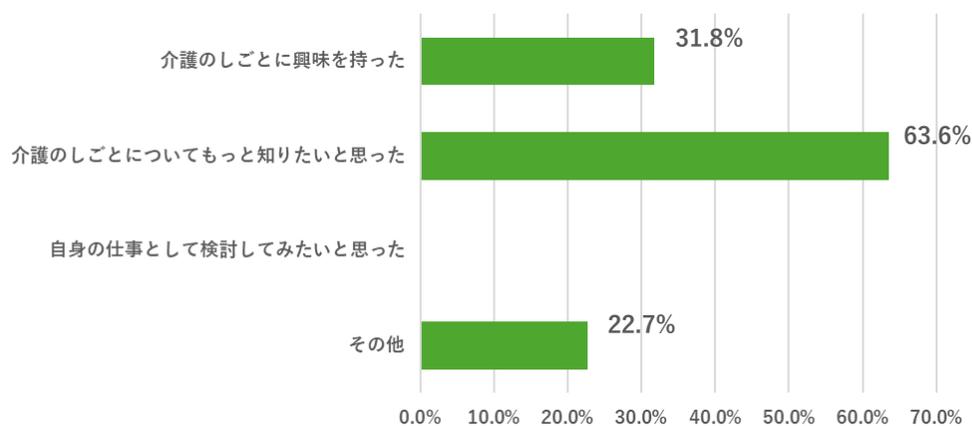
n=22

### ■ 職業



n=22

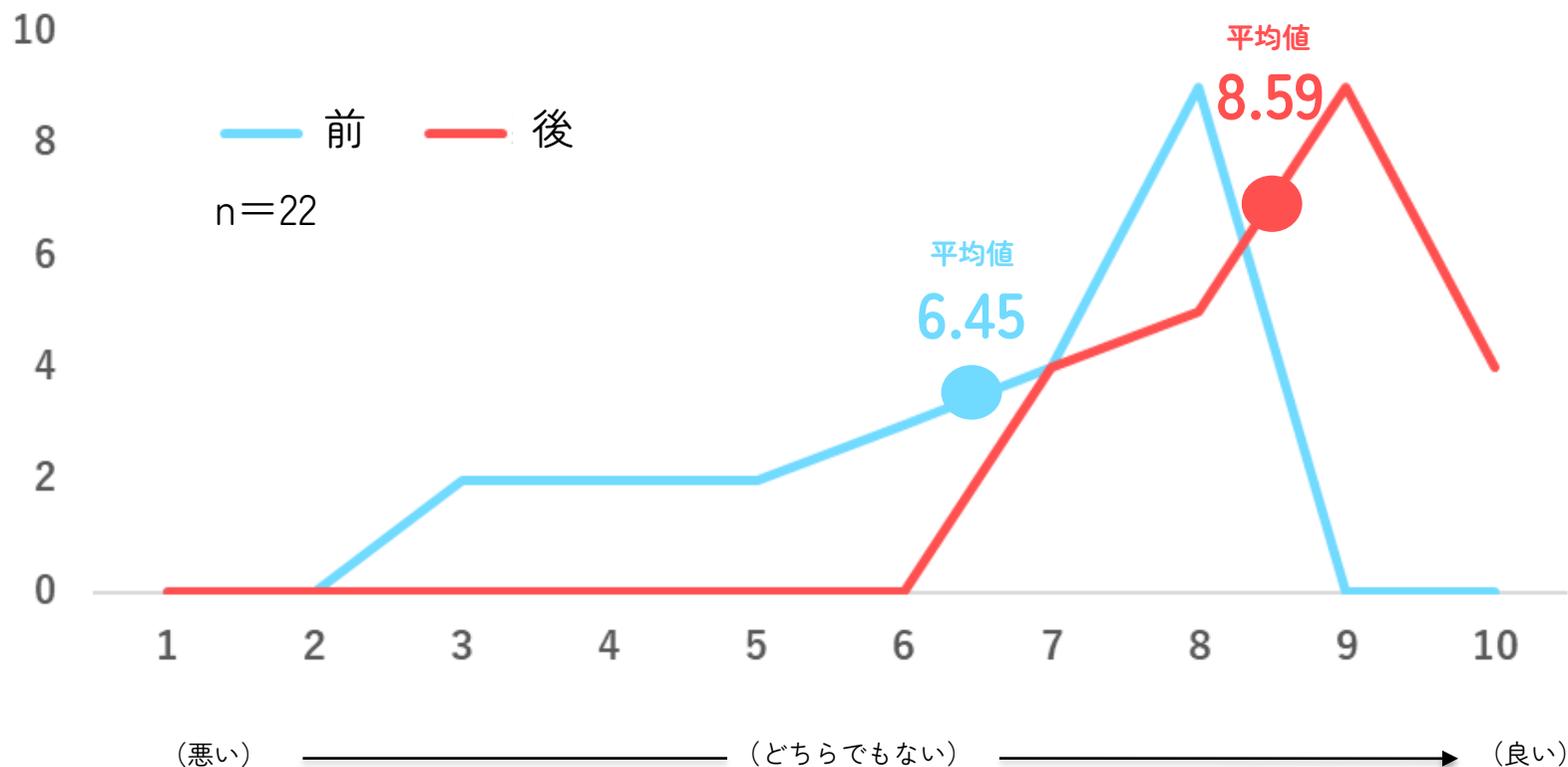
### ■ 「ケアするしごと展」をご覧になってどのように感じましたか。



n=22

## ケアするしごと展 | 来場者アンケート (渋谷会場)

「ケアするしごと展」に参加いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象 (渋谷)



ケアするしごと展に参加いただくことで、**2.14p**のイメージUP (態度変容) につながった。

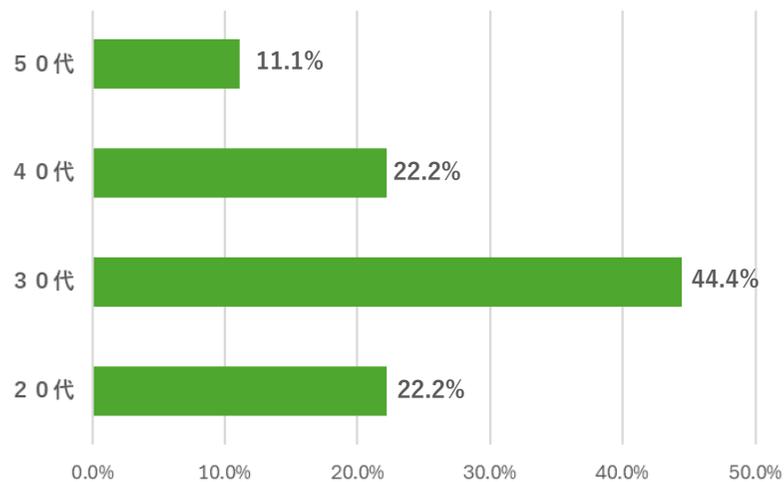
## ケアするしごと展 | 来場者アンケート (渋谷会場)

### ■ ご意見・ご感想

- 普段の生活をしていると介護という機会に触れることがないため、貴重な機会であった。
- それぞれの展示が読みやすかった。
- 良い取り組みだと思いました。
- 具体的な事例が多く勉強になりました。
- 介護のしごとの印象が変わって、知ることもできてよかった！
- 展示が見やすくわかりやすく、実際に働いている方のお話を見ることができ、介護のしごとへの理解が深まりました。
- 大切な仕事だなと思いました。
- 介護のしごとと聞くと精神的にも体力的にもネガティブな印象を持っていたが、それだけではない良い一面を展示で知ることができた。
- もっと若い世代が興味をもつ仕事になって欲しいです。
- 色々な場所で介護をしてもらえる可能性があるなあと思った。必ずしも介護施設(一般的な)だけでないと思った。
- 自分のおじいちゃんやおばあちゃんと重ねて、介護の大切さが分かった。自分もケアの仕事について興味を持った。
- “介護”の幅を知ることができる良いきっかけになりました。兼業している方が何名もいることに驚きました。
- 頭がかたいので、介護とはこういうものと決めつけている自分を恥ずかしくなりました。もっと柔軟に介護について考えるように努力しようと思いました。ありがとうございました。
- 若い人だけでなく、子供さんから手が離れた方、40、50、60歳始めどきはいつでもいいと思うので増えるといいなと思います。
- 個性を輝かせる場となっていることがとても素敵だと感じました。施設を“寂しい場所”“悲しい場所”としてではなく、高齢者も職員も地域の人も皆が。
- 働く人や雇用者側のメッセージをもっと発信してくれることが良い効果や循環を作りそう。

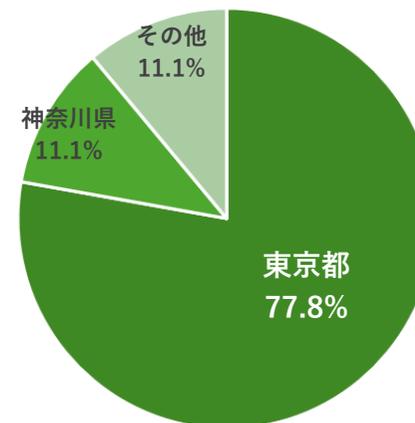
## ケアするしごと展 | トークイベント参加者アンケート (渋谷)

### ■ 年代



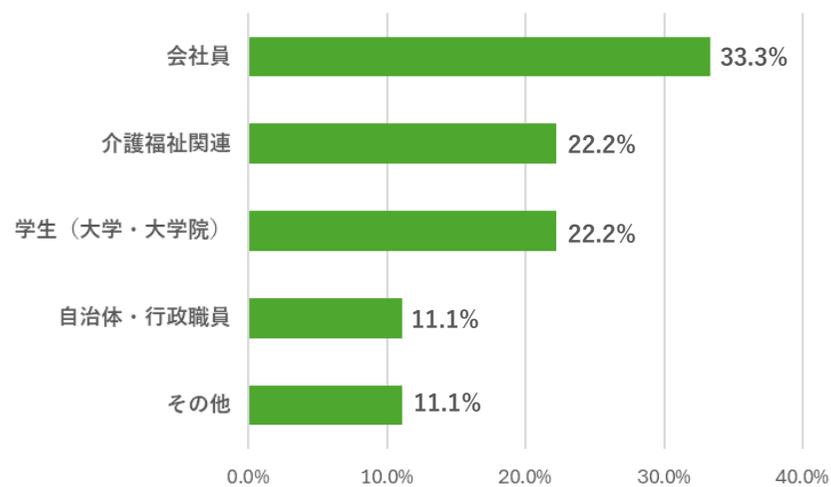
n=9

### ■ 居住



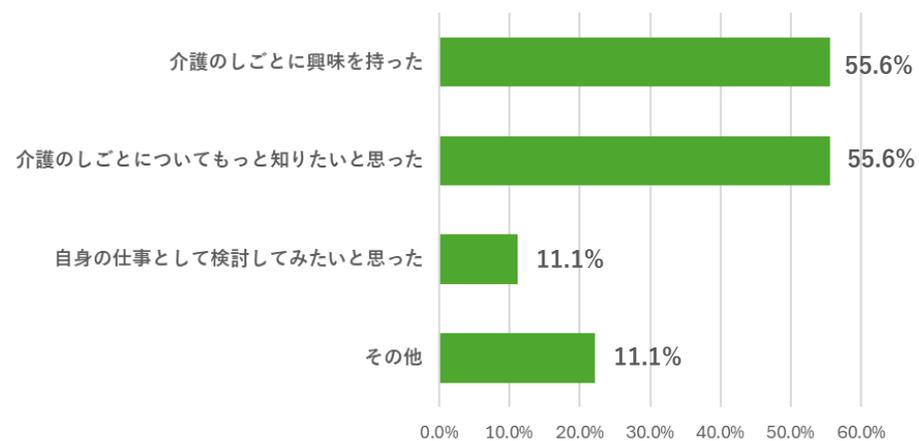
n=9

### ■ 職業



n=9

### ■ トークイベントに参加してどのように感じましたか。(MA)



n=9

## ケアするしごと展 | トークイベント参加者アンケート (渋谷)

### ■ トークイベントに参加してどのように感じましたか。(MA)

#### その他

- 過去、祖母の介護が10年ほど必要な時期があり、母が大変な経験をしていたことからかなり過酷な仕事という印象が強かったのですが、実際にお話を聞いて印象が変わりました。
- 若い人が、介護の仕事をやってみたい、続けていきたい、と思える環境や賃金体系、職業としての価値を高めていけるよう、メディアの力は必要だと思います。

### ■ ご意見・ご感想

- 福祉の世界をしれてとても興味深かった。
- 楽しく聞かせていただきました！ 介護の先進的な事例を聞いてよかったです！
- 私自身まだ関わりは少ないですが、近い将来必ず家族の介護に関わることになります。
- イベントに参加する前は少し暗い気持ちになるテーマでしたが、そればかりではないことが分かり良かったです。
- もっと色々な人に聞いてもらいたいと思う内容でした。

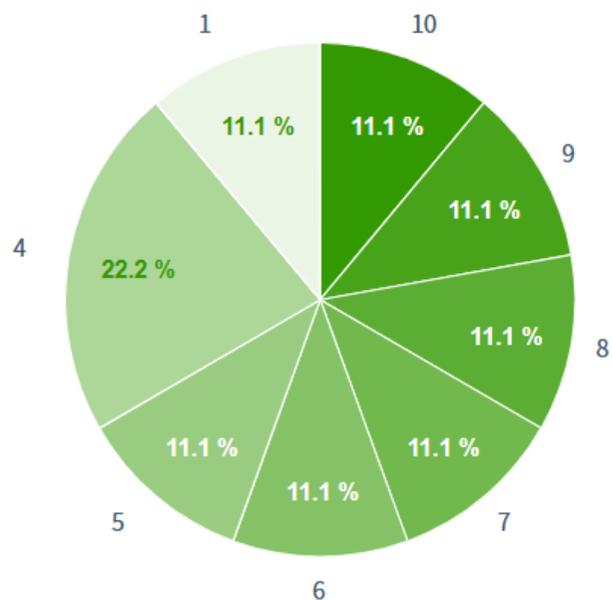
### ■ 印象に残った点

- 給与水準の話。
- 利用者との接し方。
- 介護の仕事は地域をデザインする。介護の仕事こそクリエイティブティが求められると思う。
- 秋本さんはほぼ同世代ですが、学生時代から介護福祉というテーマに興味を持ってこれまで取り組まれてきたことが素晴らしいと思いました。
- 介護はお世話ではなく、社会のデザインという言葉が大変印象に残りました。

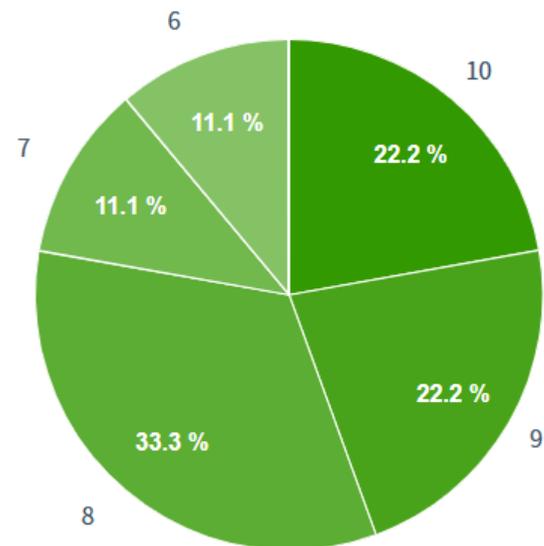
## ケアするしごと展 | トークイベント参加者アンケート (渋谷)

■介護のしごとに対する印象 10 (良い) - 5 (どちらでもない) - 1 (悪い)

トークイベントに参加する前



トークイベントに参加した後



n=9

# anan × POPEYE × こここ 「ケアするしごと展」 @下北沢・トークイベント

## しごと展 ②

無関心層向け

興味喚起

イベント

2024年11月に開催した下北沢BONUS TRACK「ケアリングノーベンバー」に合わせて、anan×POPEYE×こここ共催の「ケアするしごと展」を開催。介護、福祉のしごと無(未)関心層や、サブターゲットである小学生及びその親世代に対して、anan、POPEYE、こここのマガジンハウスブランドの知名度やクリエイターネットワークを生かし、興味喚起と理解促進への誘導を行いました。

### しごと展

名称	ケアするしごと展@下北沢BONUS TRACK
開催日時	2024年11月11日(火)~11月29日(金)
開催場所	下北沢BONUS TRACK
主催	株式会社マガジンハウス anan×POPEYE×こここ
来場者	約7,000人

展示

冊子配布

トークイベント



### トークイベント

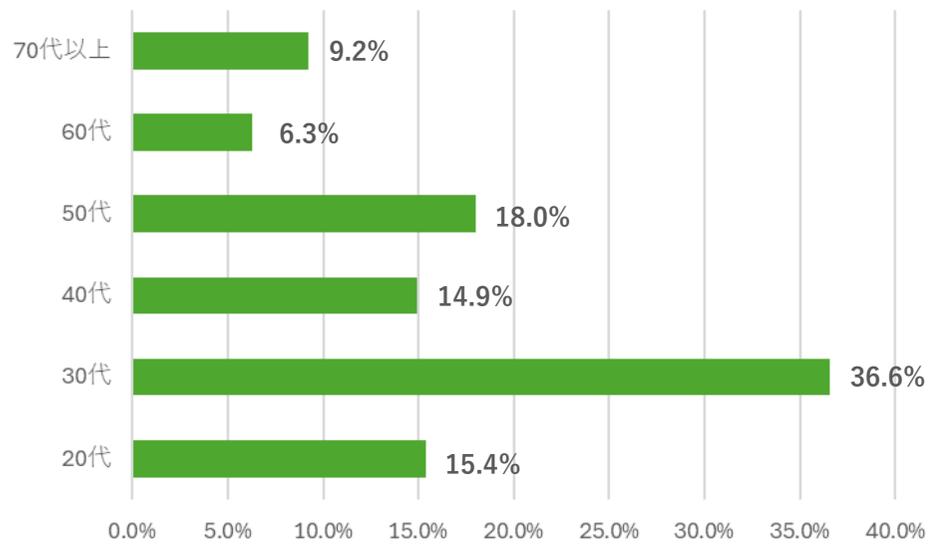
テーマ	「自分らしく生きる”を支える仕事って？ 「世界いち気持ちいい介護」を目指す「でいぐにてい」に聞いてみる
会場	世田谷代田 仁慈保幼園Piazza(ピアッツァ)
開催日時	2024年11月23日(土)14:00-15:00
定員	30名 / 参加費:無料
Guest	株式会社でいぐにてい 代表取締役 吉田真一さん・有吉凜さん
聞き手	マガジンハウス(こここ)編集長・中田一会 編集部・垣花つや子



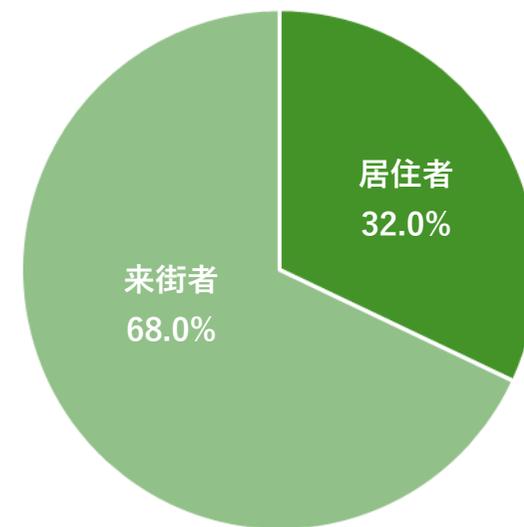
## ケアするしごと展 | 来場者属性 (下北沢)

BONUS TRACK ケアリングノーベンバー (屋外+ギャラリー)

■ 年代



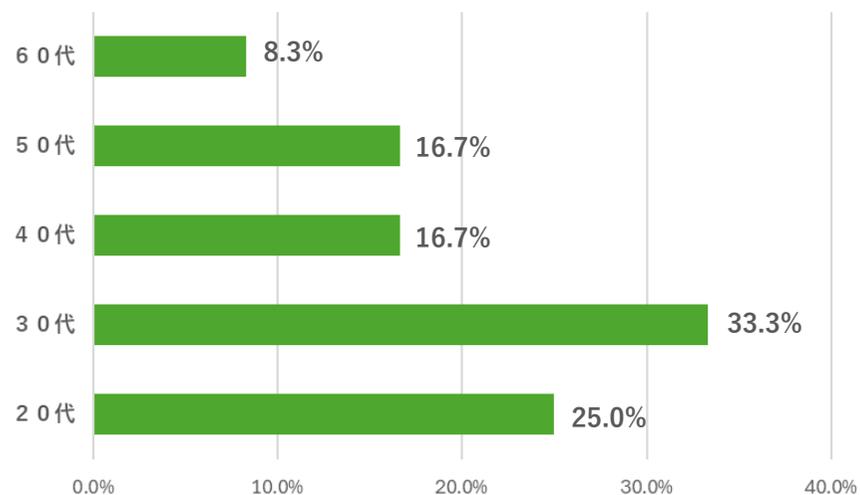
■ 居住者/来街者割合



n=7,180

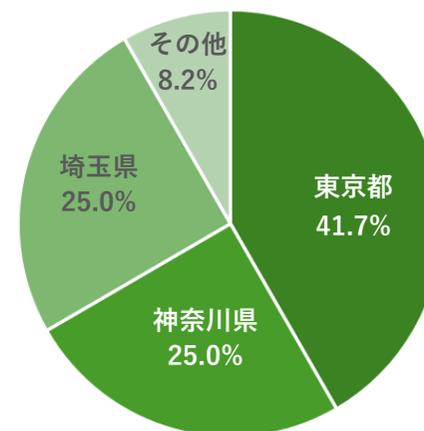
## ケアするしごと展 | トークイベント参加者アンケート (下北沢)

### ■ 年代



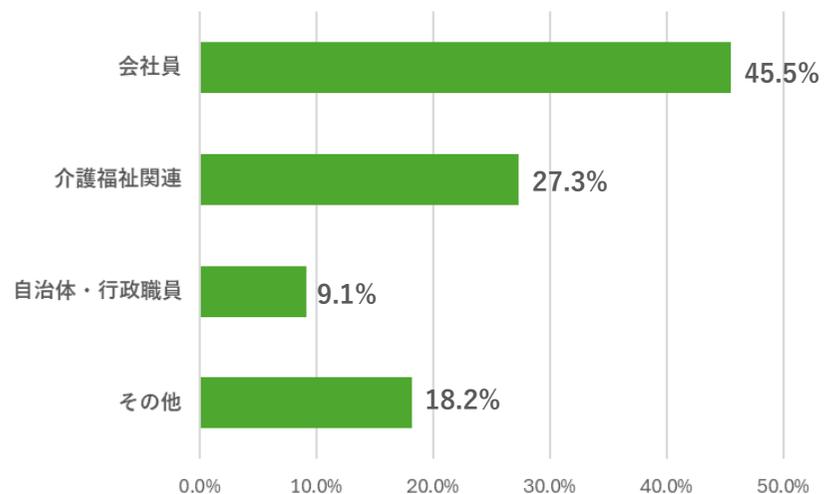
n=12

### ■ 居住



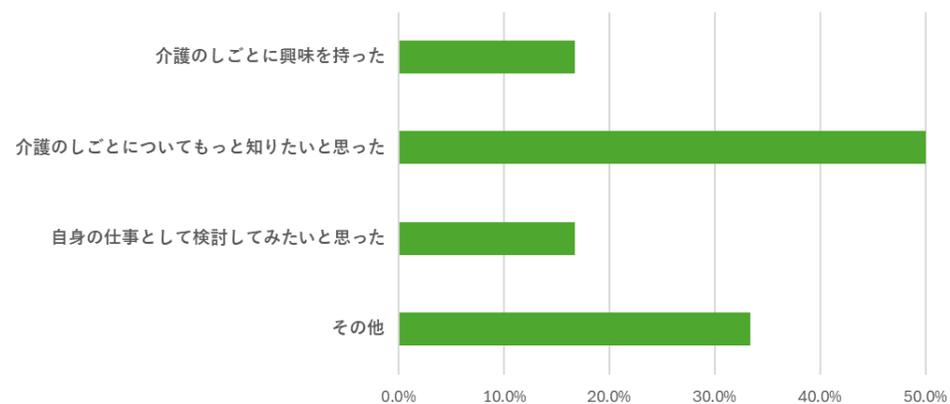
n=12

### ■ 職業



n=12

### ■ トークイベントに参加してどのように感じましたか。(MA)

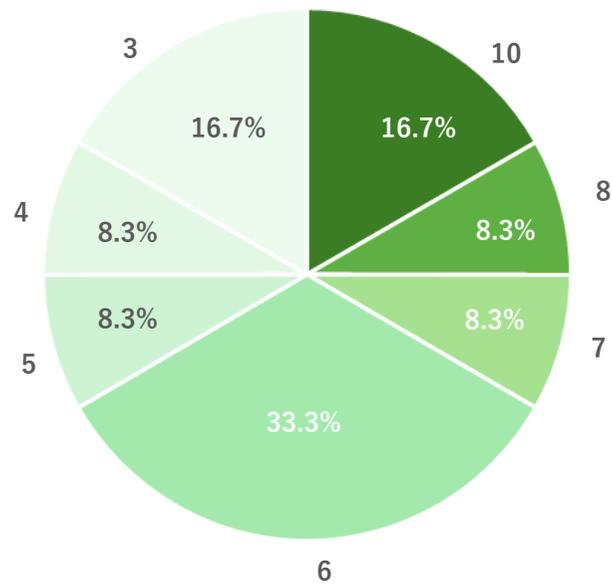


n=12

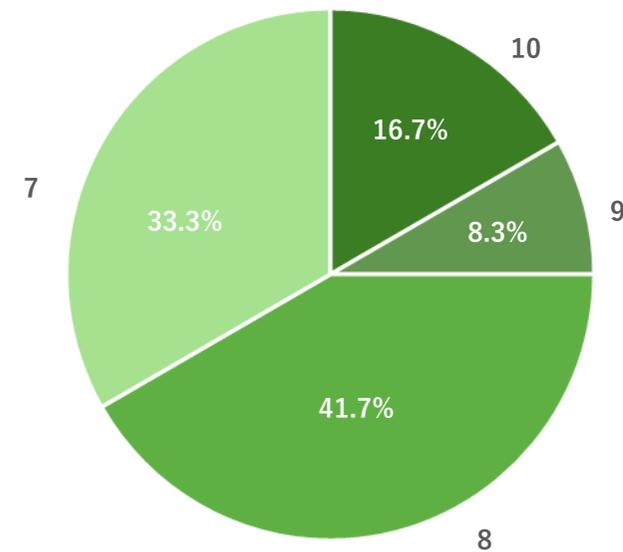
## ケアするしごと展 | トークイベント参加者アンケート (下北沢)

■介護のしごとに対する印象 10 (良い) - 5 (どちらでもない) - 1 (悪い)

トークイベントに参加する前



トークイベントに参加した後



n=12

## ケアするしごと展 | トークイベント参加者アンケート (下北沢)

### ■ 印象に残った点

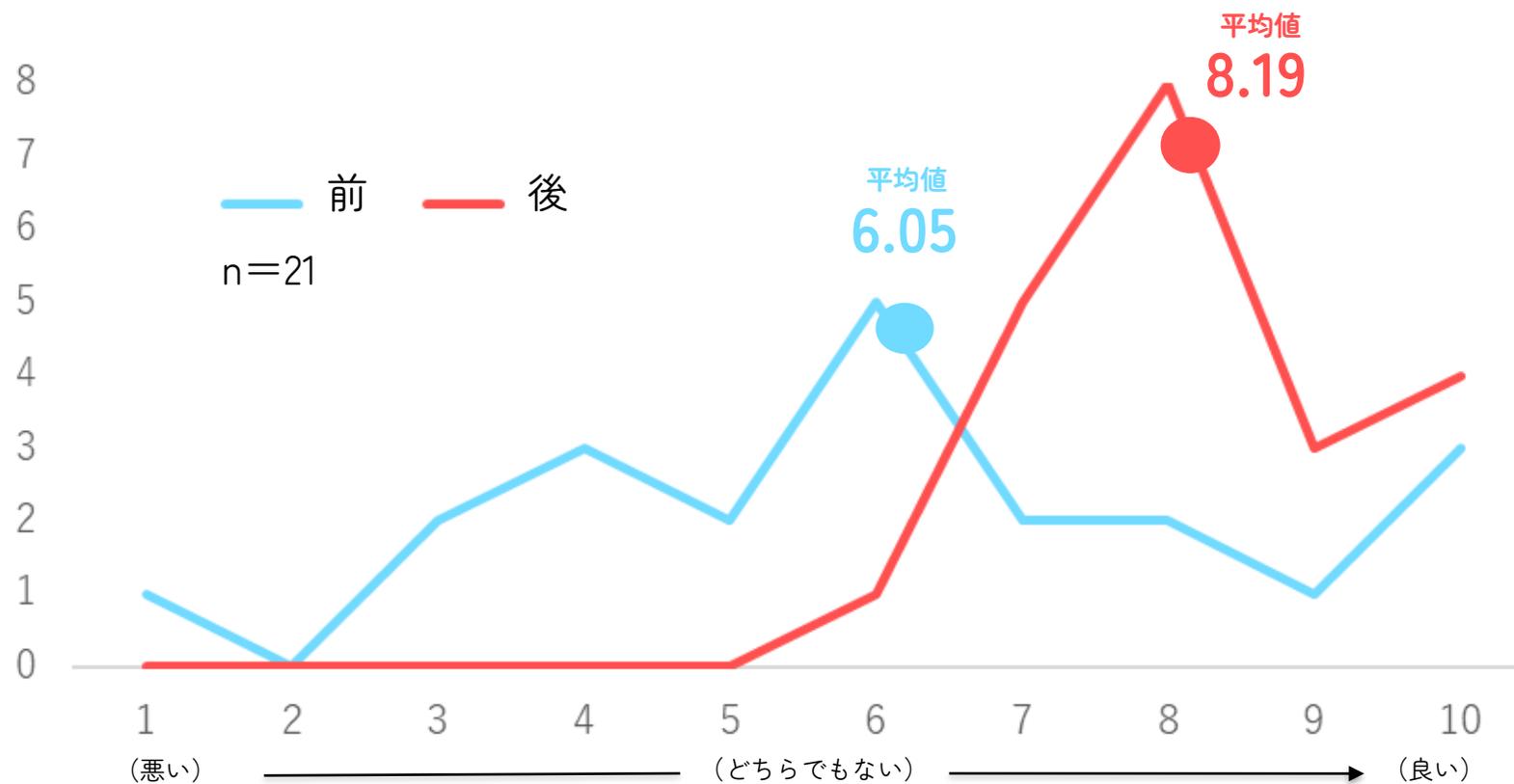
- 尊厳についての話がとても心に刺さった。全ての人間に対してとても大事な話だと思った
- 吉田さんの話し方です。 なんとというか自然な感じで素晴らしかったです。
- コミュニケーションが積極的ではない人でも働けること。
- 介護業界は高齢化し、ケアされるべき人がケアする側に回らなければならなくなっているイメージがありました。そのため、でいぐにてい職員の平均年齢を聞いておどろきました。生き生きと語るおふたりの話を聞いていると、これまでもっていた介護の仕事に対するイメージが払拭されていくようでした。
- 2040年の人手不足を支えるの今の若者世代ということ、でいぐにていの方々がとても楽しそうだったこと。
- ケアする人にもケアをされる権利はあるということをイベント全てを通して印象にあります。
- 介護離職率が200パーセントの時があったこと。同行期間が3ヶ月あること。
- でいぐにていの社名の由来がカッコよかった。 起業のきっかけもカッコよかった。
- 「でいぐにてい」の名前の由来
- 「障害あっても自分の人生って悪くない」と堂々と言える社会を理想としているので、生きがいを重視しているところなど、本来あるべき形だなと改めて思った次第です。

### ■ ご意見・ご感想

- 介護業界について学ぶことができました。 ありがとうございます！
- あっという間の1時間でした。おふたりの思いや経験を聞いていると、介護の仕事がとても魅力的に思えました。ただ日常生活の介助をするだけではなく、利用者さんの暮らしを豊かにする。そのためには働き手が豊かである必要がある。介護人材の不足が増加していく未来に向けて、とても重要な考え方だと思いました。
- 訪問介護の現場は年齢層が高い中で、若い人が多く働く職場が楽しそうに働いている人がいきいきしているなど知ることができました。話がとてもおもしろかったです。 あっという間だったので90分でもいいと思いました
- お話をされているみなさまの雰囲気のよさを感じました。中々大変なところも多いお仕事だと思いますが、その中でこういう思いで活動されている方がいることは希望ですね。
- 1時間だとディスカッションや現場の状態を伝えるのには短いと思いました。若い人が辞めなく、希望が持てる訪問介護の知恵マダマダあると皆で考えられたら素晴らしい
- 吉田さんの話は1時間では収まらないですね^^
- 介護について気になってはいるものの、重く考えがちなテーマであり、これまでなかなか関連する本なども読めずにいた。これを機会に、より楽しく取り組める身近な人のサポートの方法を探っていきたい。
- 介護職はしんどい、選ばなければ誰でも出来る、最後の道。みたいなイメージが昭和からつきまわっていましたが、若さあふれる下北沢で開催されることで身近で前向きな印象もありますし、素敵な発信だと思いました。

## ケアするしごと展（トークイベント）

「トークイベント」に参加いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象（渋谷・下北沢）



トークイベントに参加いただくことで、**2.14p**のイメージUP（態度変容）につながった。

## ケアするしごとバー × 日本仕事百貨（リアル&オンラインイベント全5回）

しごとバー

関心層向け

理解促進

イベント

さまざまな分野で活躍している方をゲストとしてお招きし、お酒を飲みながらゲストと一緒に会話する日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と「こここ」がコラボレーションし、介護のしごとをテーマにリアル参加とオンライン視聴のハイブリッド形式のイベントを5回開催。介護・福祉に関心のある生活者が、気軽に参加できる内容に編集し、介護のしごとのリアルとクリエイティビティを発信します。



### GUEST

- 第1回 11月15日(金) | 守谷卓也さん (DAYS BLG! はちおうじ 代表)
- 第2回 12月13日(金) | 奥住比沙子さん (福祉楽団、ケアサービスワーカー、ソーシャルワーカー)
- 第3回 1月15日(水) | 鹿角実花さん (でいぐにてい、サービス提供責任者、社会福祉士、介護福祉士)
- 第4回 1月24日(金) | 石神洋一さん (デイサービスセンター晴耕雨読舎施設長、特定非営利活動法人たかつき代表理事、園芸療法士、NPO法人日本園芸福祉普及協会 理事)
- 第5回 2月13日(木) | 武田奈都子さん (デイサービス楽らく施設長、保順会常務理事、社会福祉士)

日本仕事百貨主宰  
ナカムラケンタ氏



こここ編集長  
中田一会氏



## ケアするしごとバー（全5回）

### 第1回 | 守谷卓也さん（DAYS BLG! はちおうじ 代表）

2024.11.15 (fri)

自分らしく活動できる場とは  
ケアの現場から考える

会場参加数:13名 オンライン参加数:15名  
アーカイブ再生数:253(3/31時点)

<https://www.youtube.com/watch?v=frLdyc7VPeM>



### 第2回 | 奥住比沙子さん（福祉楽団 ケアサービスワーカー、ソーシャルワーカー）

2024.12.13 (fri)

介護の世界の広さとは？  
あるケアワーカーの視点

会場参加数:11名 オンライン参加数:20名  
アーカイブ再生数:263(3/31時点)

<https://www.youtube.com/watch?v=682IRYmGLkQ>



### 第3回 | 鹿角実花さん

（でいぐにてい、サービス提供責任者、社会福祉士、介護福祉士）

2025.1.15 (Wed)

お互いに気持ちいい  
生活を支える訪問介護の魅力

会場参加数:8名 オンライン参加数:18名  
アーカイブ再生数:372(3/31時点)

<https://www.youtube.com/watch?v=1hrHFA63mgQ>



### 第4回 | 石神洋一さん

（デイサービスセンター晴耕雨読舎施設長、特定非営利活動法人たかつき代表理事、  
園芸療法士、NPO法人日本園芸福祉普及協会 理事）

2025.1.24 (fri)

心が動いて体も動く  
植物と一緒にあるケアの現場

会場参加数:14名 オンライン参加数:10名  
アーカイブ再生数:218(3/31時点)

<https://www.youtube.com/watch?v=YRnQH6Srkk>



### 第5回 | 武田奈津子さん（デイサービス楽らく施設長、保順会常務理事、社会福祉士）

2025.2.13 (Thu)

アートと福祉が出会う  
から生まれる風景

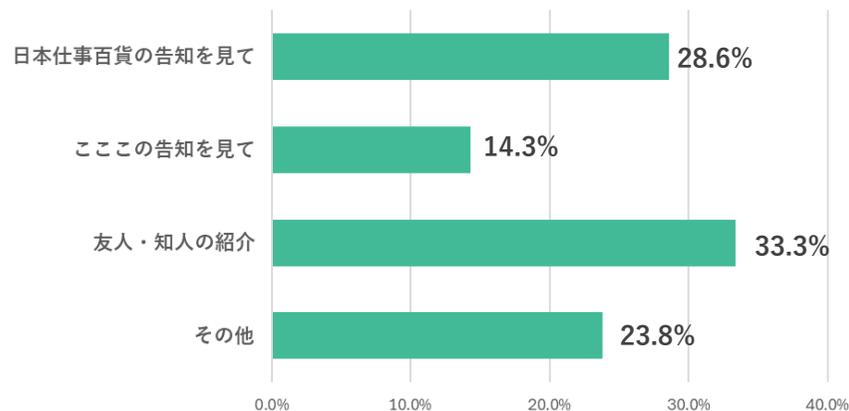
会場参加数:9名 オンライン参加数:12名  
アーカイブ再生数:217(3/31時点)

<https://www.youtube.com/watch?v=vHUQSwZiG3s>



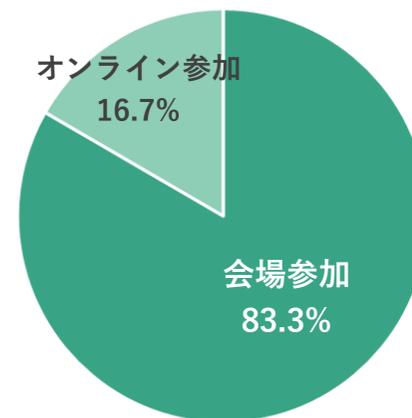
## ケアするしごとバー | 参加者アンケート

**Q1** ケアするしごとバーにご参加いただいたきっかけを教えてください。



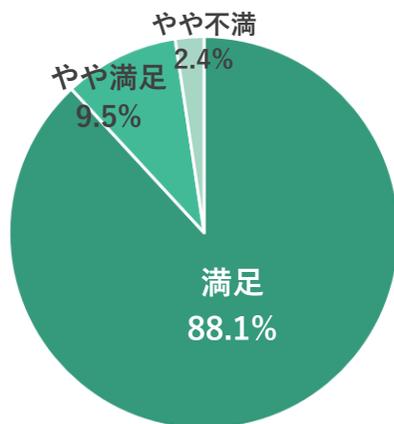
n=42

**Q2** ご参加方法を教えてください。



n=42

**Q3** ケアするしごとバーに参加してみたいかがでしたか。

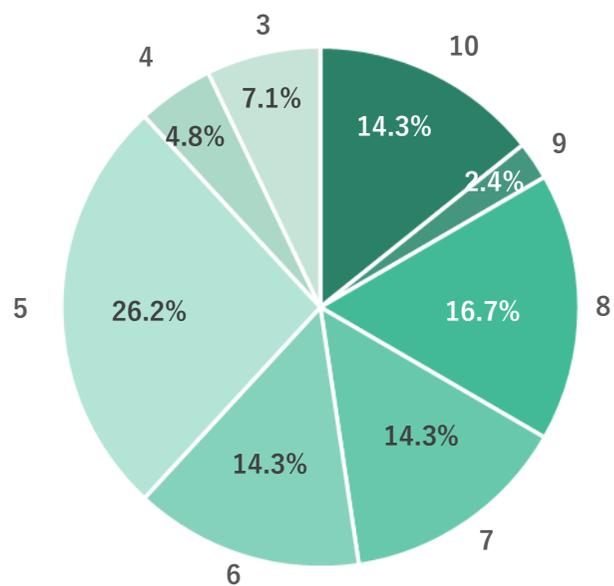


n=42

## ケアするしごとバー | 参加者アンケート

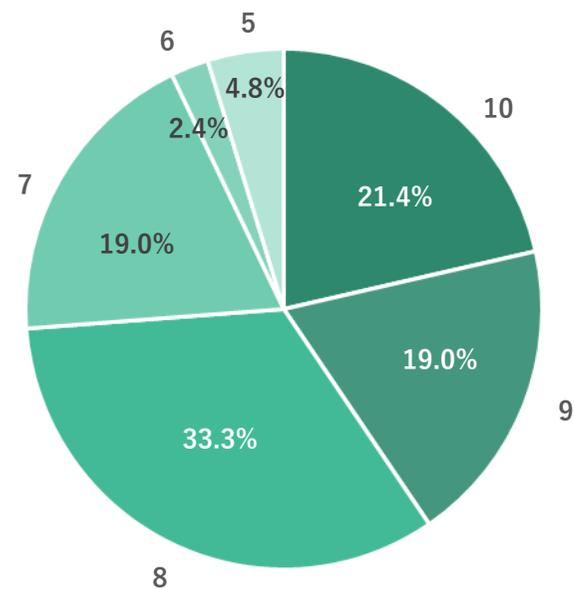
**Q4**

ご参加いただく【以前】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。  
※10（良い） - 5（どちらでもない） - 1（悪い）



**Q5**

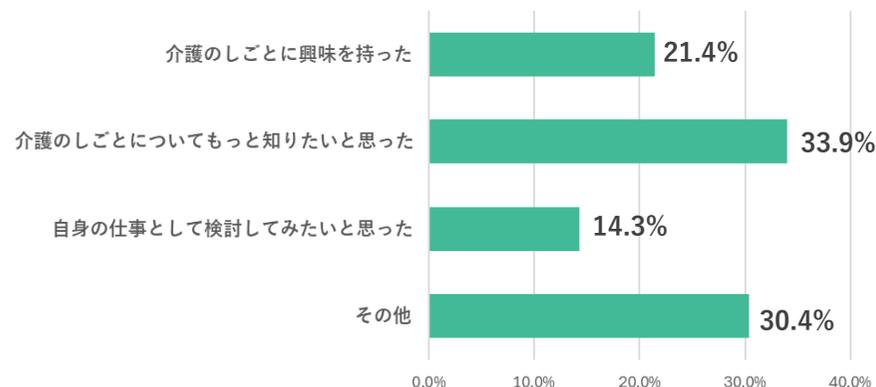
ご参加いただいた【後】の介護のしごとに対する印象をお聞かせください。※10（良い） - 5（どちらでもない） - 1（悪い）



n=42

## ケアするしごとバー | 参加者アンケート

### Q6 ゲストの話を聞いてどのように感じましたか。



n=42

### Q7 ケアするしごとバーについて、ご意見・ご感想をお聞かせください。（一部抜粋）

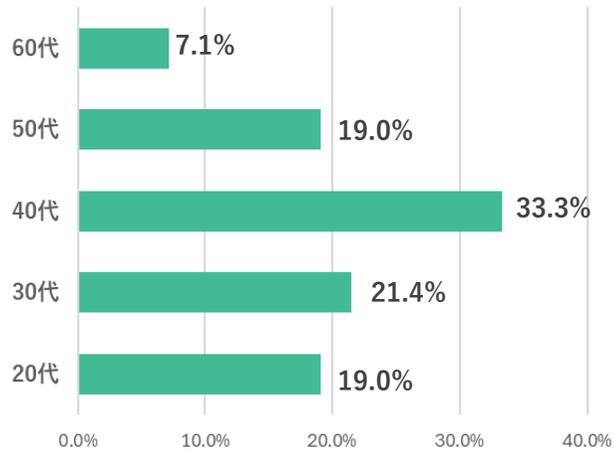
- ゆったりしてリラックスしながら輪を広げられる素晴らしい場だと思いました。
- こんな場所とこんな企画があることを知り、嬉しくなりました！
- 「利用者」ではなく、「メンバー」と呼んでいるところに、BLGの姿勢が表れているなと思いました。
- 素晴らしい企画だと思います。介護は今後伸びていく業界なのでもっと底上げするようなこんな企画を待っていました
- 介護を知ることあまりしてこなかったので今回とてもいいきっかけになりました。ありがとうございました。
- 介護を仕事にしている方って聖人君子なんじゃないかと勝手に思っていたのですが、お話を聞いて、自分と同じように悩み、楽しむ一人の人なんだと、当たり前のように思えることにハッとさせられました。善か悪かではなく、最終的には快になるようになってるんだな、と感じました。素敵なお時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。
- 参加してみて、こんな人もいるのか！とゲスト選定の納得感がありました。福祉を知らない人向けの聞き手のサポートもすごく親切で、グランドルールもあるので、とても心地よかったです。
- とても良い企画を、ありがとうございました。聴いていて幸せになるようなお話でした。“晴耕雨読舎”という名前も素敵ですし、石神さんのお人柄も伝わってきて、あたたかい気持ちになりました。お話の端々に、プロとしての細心の注意・配慮も感じられて、決して楽ではない道のりだったことも感じました。
- 「ケア」の現場だけでなく、どんな仕事にも通じる、希望の持てるお話だったと思います。わたしの父は庭づくりが好きでしたが、最後は、とても立派な病院のような建物で、典型的な介護を受けて、病院で亡くなりました。スタッフさんたちも一生懸命な人とそうでない人とがいて、すこし荒れた雰囲気もあり、心の痛い最期でした。若い働き手が夢を持てる“現場”が増えるといいなと思っています。ケアするお仕事のイメージが更新されましたし、このような居場所に自分も関わりたいなと思いました。ありがとうございました。
- 「ケア」は、高齢者や障害のある方の「お世話をする」のがメインのように捉えがちでしたが、アートの視点を取り入れることでケアする人も、される人も、豊かな時間を過ごし、思いがけないものが生まれてくる可能性があることに気づかせていただいています。ありがとうございます。

### Q6,その他

- 介護と、街の関わりについて考えてみたい。
- 義務教育では人や事と向き合う事が大切と学んできたので、同じ方向を見るということに感心した。
- ケアはクリエイティブという言葉がとても印象に残りました！
- 若い人がクリエイティブな仕事と考えているのが、良いなと思った。
- 自分の生活や仕事でケアの視点を持って取り組もうと思いました。
- 介護職です。共感出来ることが多くて自分も頑張ろうと思いました。
- 自分の事業の参考にさせていただきたいと非常に参考になりました。
- 作業療法士の仕事をしていて、共通する事が多くあるなと感じました。
- 介護も、夢のあるしごとになり得るんだと思いました。
- 自分の祖母がこういう場所でのびのびと過ごせたらとてもいいなと思った。
- アートという点で年齢やハンディキャップを乗り越える姿が印象的
- 介護とアートの繋ぎ方に興味を持ちました。
- ケアとアートの接点についてもっと知りたいと思った。

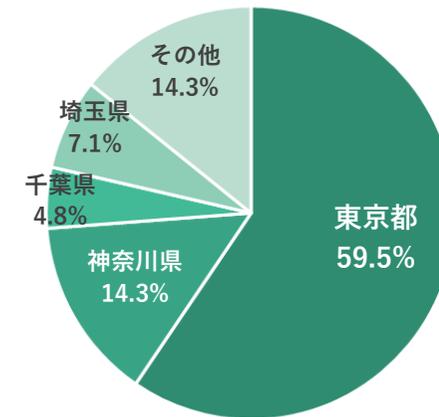
## ケアするしごとバー | 参加者アンケート

**Q8** 年代をお聞かせください。



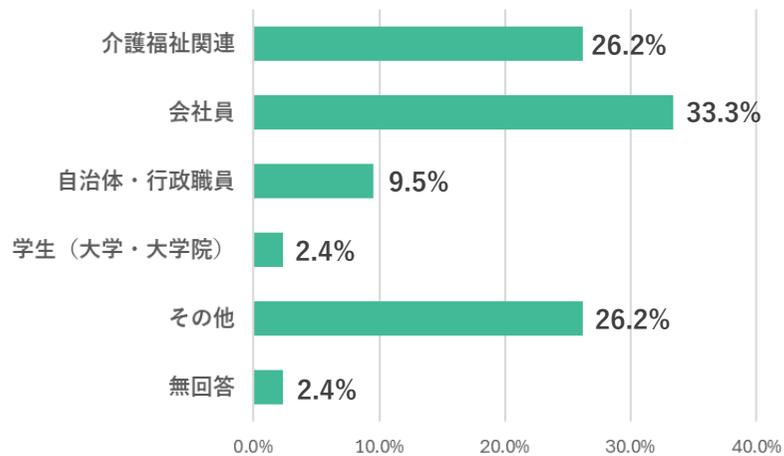
n=42

**Q9** お住まいの都道府県をお聞かせください。



n=42

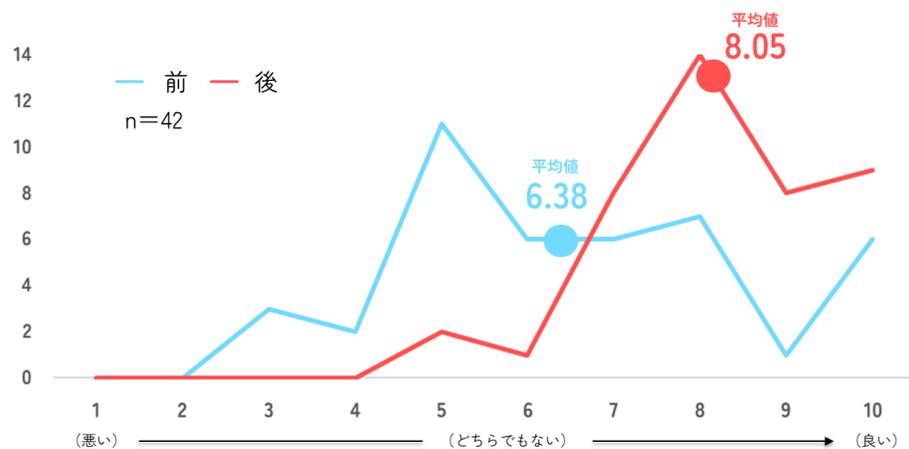
**Q10** ご職業をお聞かせください。



n=42

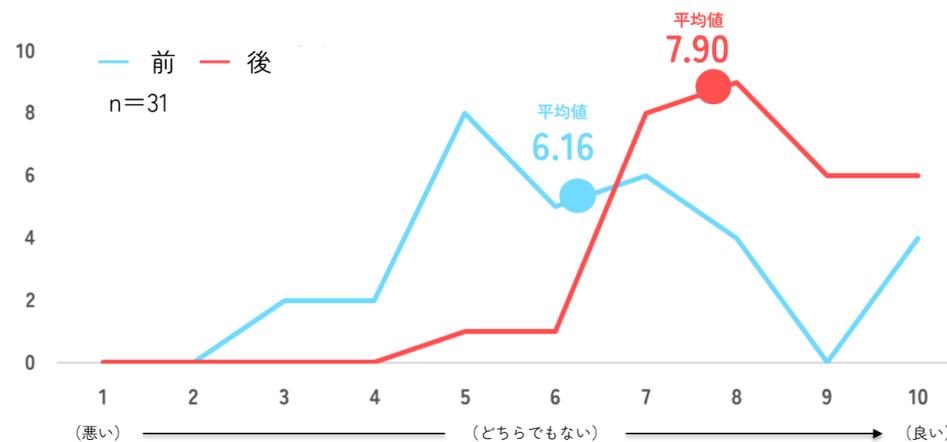
## ケアするしごとバー | 参加者アンケート

「ケアするしごとバー」に参加いただく  
「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



ケアするしごとバーに参加いただくことで、**1.67p**のイメージUP (態度変容) につながった。

「ケアするしごとバー」に参加いただく  
「前」と「後」の介護のしごとに対する印象 (福祉関係者除く)



ケアするしごとバーに参加いただくことで、**1.74p**のイメージUP (態度変容) につながった。

## 体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」の開催

### しごとツアー

### 関心層向け

### 理解促進

### イベント

メディアやイベント等で介護のしごとに興味を持った方、まだ職業選択が未定の若年層、大学生等に向けて、体験・交流イベントとして「ケアするしごとツアー」を実施します。全国の地域を盛り上げる介護事業所を見学し、介護職についている方々と交流。コーディネーターとして、全国のさまざまな介護事業所の実践に触れてきたKAIGOLEADERSの発起人とコミュニティマネージャーが担当。介護の仕事の魅力発信に熱心な若手介護職がツアーコンダクターとして同行。見学先ごとにタイムテーブルを作成し、(見学先の方のお話→施設や取り組みの見学→座談会)体験、交流を図りました。

### ツアー概要

参加人数 | 1回あたり15名程度(全4回)  
 ターゲット | 学生、20～30代の社会人(基本的に福祉職以外)  
 開催時期 | 2024年12月～2025年1月

### コーディネーター



<https://heisei-kaigo-leaders.com/event/caretour2024/>



秋本可愛さん

株式会社Blanket代表取締役  
KAIGO LEADERS発起人



佐々木将人さん

株式会社Blanket  
コミュニティマネージャー

### 見学先

12月14日(土) 千葉県 | 有限会社オールフォアワン 52間の縁側  
 1月11日(土) 神奈川県 | あおいけあ  
 1月22日(水) 東京都 | サンタフェガーデンヒルズ(社会福祉法人 善光会)  
 1月25日(土) 栃木県 | 一般社団法人えんがお

52間の縁側



善光会



あおいけあ



一般社団法人えんがお



## ケアするしごとツアー

【第1回 開催概要】 参加者:22名

日時 | 2024年12月14日(土)

会場 | 千葉県「52間の縁側」

(千葉県八千代市米本1318-1)

### 【当日のスケジュール】

13:00 現地集合

13:10 趣旨説明・参加者一言チェックイン

13:25 52間の縁側マネージャー鈴木さんよりお話

14:10 建物の案内・ご利用者さんとの交流等

14:40 石井さんからご挨拶・質疑応答

15:00 参加者気づきのシェア

15:15 集合写真・アンケート

15:30 終了



### ○ ツアー参加者からのコメント

「子どもから大人まで、さまざまな人がいることで、多様な関わりが生まれる、それがいい」という話が興味深かったです。高齢者だけとか似たような属性の人だけがいるのではなく、子どもとかヤギとか見学者とかがいることで、自然に会話がはじまったり、人との関わりが生まれたり、直接関わらなくても眺めていたり、それがすごいと思いました。どうすれば「52間の縁側」のような場をつくれるのか、そのまま同じことはできないと思うので、もっと勉強してみたくなりました。

### ○ ツアーに参加して介護のしごとに対する印象が変わったか。(一部抜粋)

- ・ 介護する、されるではなく、利用者もスタッフも同じ目線に立って施設に携わっており、介護に対するプラスの印象が高まった。
- ・ 実際にお話を聞いて、その雰囲気を感じてみることで、今まで介護に抱いていた印象が、一新されました。
- ・ 有料老人ホームでの画一的なサービスにもどかしさを感じた経験もあり、やりたかったのはこういう関係性づくりだったかもと思って、その輪に一瞬でも入れたことが嬉しかった。

## ケアするしごとツアー

【第2回 開催概要】 参加者:13名

日時 | 2025年 1月11日(土)

会場 | 神奈川県「あおいけあ」

(神奈川県藤沢市亀井野4丁目12-93)

### 【当日のスケジュール】

13:00 スタート・ツアーのご説明

13:20 株式会社あおいけあ代表取締役 加藤忠相さんと  
「さまざまな拠点見学・案内」

15:00 参加者同士の気づきのシェア・質疑応答

15:30 終了



### ○ ツアー参加者からのコメント

建物内にあった駄菓子屋の話が印象に残っています。昔駄菓子屋をやっていたおばあちゃんがいたから、駄菓子屋をやりはじめて、その方が亡くなったら、やめたという。システムとか既にあるものにご利用者さんを当てはめるんじゃなくて、一人ひとりのやりたいことを見つけていく姿勢がすごく響きました。

### ○ ツアーに参加して介護のしごとに対する印象が変わったか。(一部抜粋)

- ただ利用者の生活保護をするだけで精一杯だったのがこれまででしたが、利用者が主で介護の仕事をするのが可能だということを実感できました。
- 私自身の求める介護の在り方が間違っていなかったと感じることができました。一方で多くの職員に理解を求めることが難しいと感じました。
- 認知症の方がなぜそうになってしまうのか、理由を理解できると怖いイメージだったが認識が変わった。

## ケアするしごとツアー

【第3回 開催概要】 参加者:8名

日時 | 2025年 1月22日(水)

会場 | 東京都「サンタフェガーデンヒルズ」  
(東京都大田区東糀谷6丁目4-17)

### 【当日のスケジュール】

13:00 現地集合

13:10 趣旨説明・参加者一言チェックイン

13:25 善光会からのプレゼンテーション

13:45 施設見学

14:45 質疑応答

15:00 参加者振返り

15:15 アンケート記入

15:20 集合写真

15:30 終了



### ○ ツアー参加者からのコメント

正直、テクノロジーの導入って本当に大丈夫なのか、介護のしごとをテクノロジーに任せていいのかと疑っている部分もあって。でもテクノロジーを導入する理由が、利用者との関わりの部分に職員が時間を割けるようにすることで、ただ効率化するのではない目的意識がすばらしいと思いました。

ツアーが終わった後、働いてみたいと思って、派遣スタッフを募集していないか問い合わせもしました。

### ○ ツアーに参加して介護のしごとに対する印象が変わったか。(一部抜粋)

- 導入までに時間がかかると思いますが必要だと感じました。メリットとデメリットが聞けて良かったです。
- その人の選択を大事にする、という原則が伺えて良かったです。
- 介護に対する負担軽減をすることで利用者への対応が精神的に良い方向へ向かっていると感じました。
- ICTを用いて「楽になる」だけでなく、直接介護を増やす為のツールとして用いられることを知った。

## ケアするしごとツアー

【第4回 開催概要】 参加者:10名

日時 | 2025年 1月25日(土)

会場 | 栃木県「えんがお」

(栃木県大田原市山の手2丁目14-3)

【当日のスケジュール】

11:00 スタート・ツアーのご説明

11:15 一般社団法人えんがお 代表理事 濱野将行さんのお話

12:15 さまざまな拠点の見学

13:15 「おばあちゃん食堂」にてみんなでお昼ごはん

14:15 濱野さん・参加者同士での対話の時間

15:30 終了



### ○ ツアー参加者からのコメント

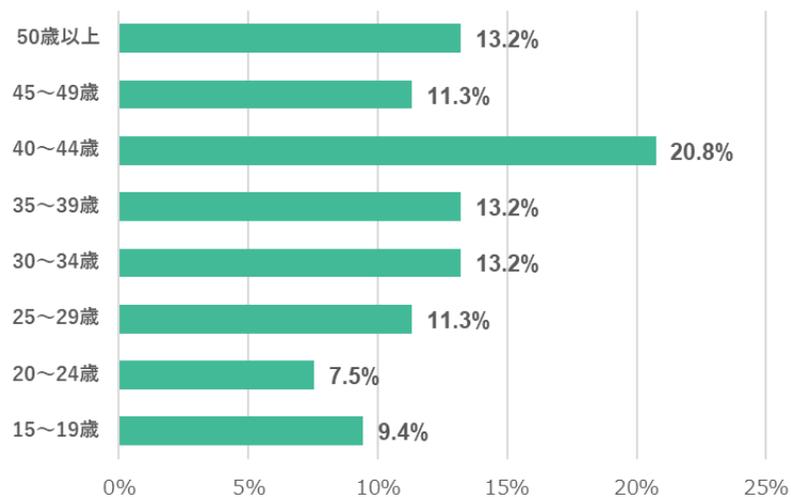
誰がスタッフで誰が利用者か本当にわからなくて衝撃を受けました。わたし集合時間よりすし前に着いて、拠点のなかで待ってたら、ドッチボールに向かう方々が何人かいて。「一緒に行く」って誘ってもらって気づいたら一緒にドッチボールしていました。その間、誰が利用者で、スタッフなのか、わからず一緒にたのしんでいて、それがおもしろかったです。

### ○ ツアーに参加して介護のしごとに対する印象が変わったか。(一部抜粋)

- ・ うまくいっていないことの方が多く現実を知れた。
- ・ 強みと弱みを補い合う、多世代交流などはとても良いなと思っていたので、実際にやっている場面が見られて面白かったです。
- ・ えんがおの事業は介護というより福祉。やりがいがあるけれど、覚悟がいる仕事だなと思った。
- ・ 要介護になる前の支援の重要度性を感じました。
- ・ “失敗の経験”が必ずあることを学んだ

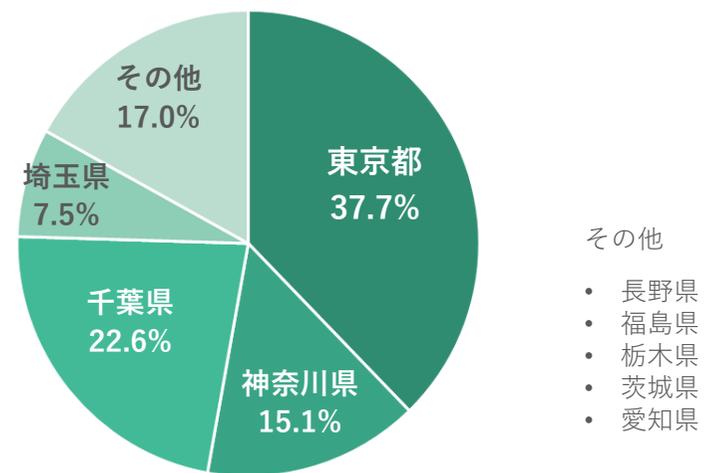
## ケアするしごとツアー|参加者アンケート（全4回）

### ■ 年代



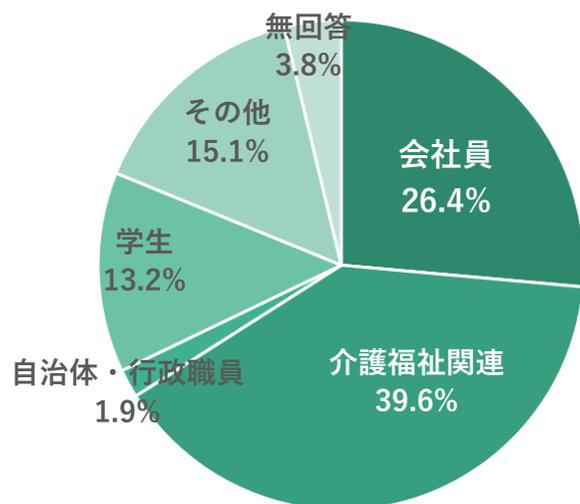
n=53

### ■ 居住



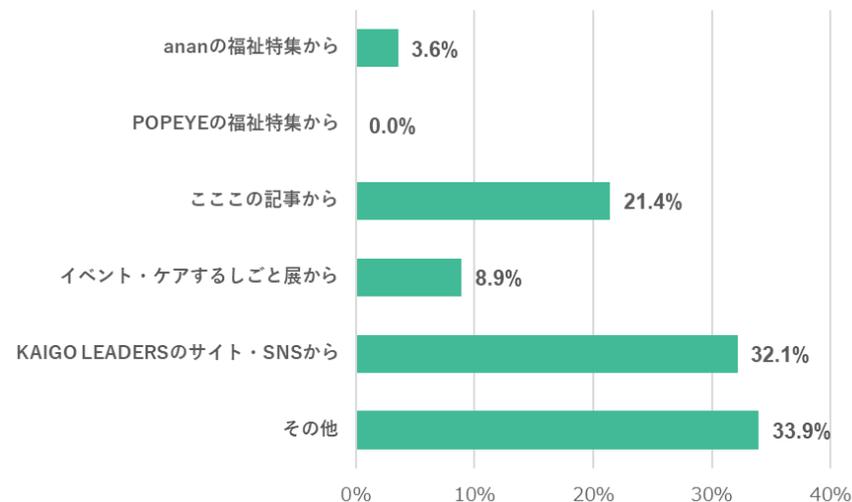
n=53

### ■ 職業



n=53

### ■ ツアーを知ったきっかけ

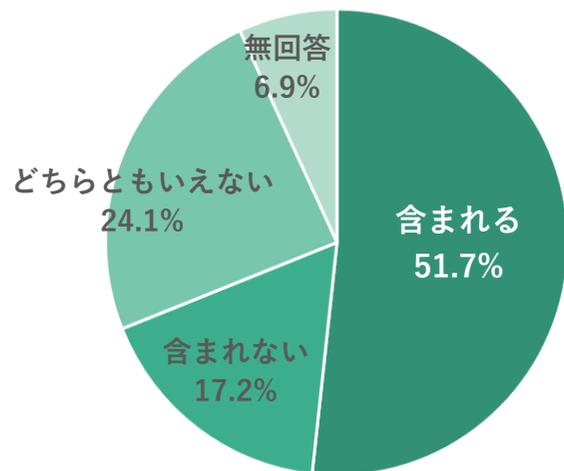


n=53

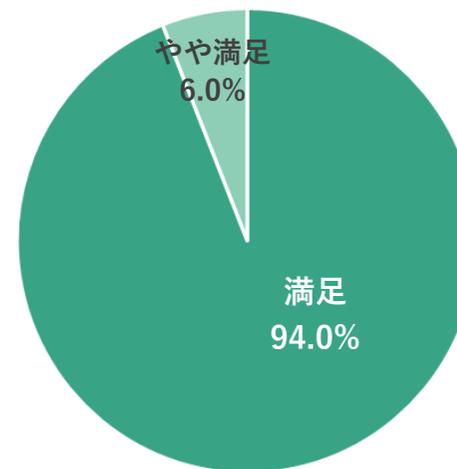
## ケアするしごとツアー|参加者アンケート（全4回）

### ■ 介護・福祉の仕事は選択肢に含まれるか

※ 介護職以外の方n=29

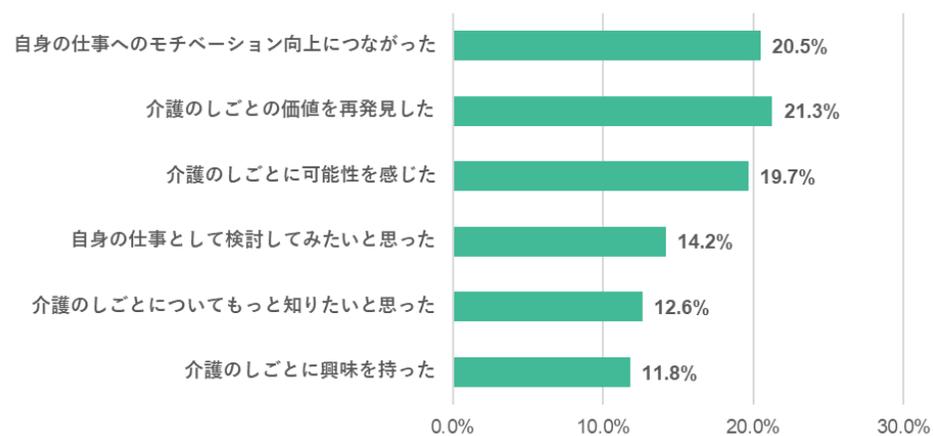


### ■ 満足度



n=53

### ■ ツアーに参加してどのように感じましたか



n=53

### その他

- 一人では行きづらいところに足を運べる
- 人の居場所、コミュニティに関心をもった
- 自分の親や自分が高齢者になったときにも、自分の地域にこういう場所があたらなと思いました
- 若い力がたのもしく感じ嬉しかった。介護の未来を心配していたので



1回目：2024年11月11日  
転載数：51

PR TIMES

株式会社マジンハウス

### マガジンハウス『anan』×『POPEYE』×『こここ』3メディア合同企画展「ケアするしごと展byマガジンハウス」開催

マガジンハウス『anan』『POPEYE』『こここ』編集部が、全国の介護・高齢者ケアに関わる仕事場（施設・事業所）と働く人を紹介する「ケアするしごと展 by マガジンハウス」を開催します。

株式会社マジンハウス 2024年11月11日 12時00分



株式会社マジンハウス（以下マガジンハウス、本社：東京都中央区、代表取締役社長：萩尾剛一）は、『anan』、『POPEYE』、『働きあそぶなるとクリエイティブマガジン（こここ）』が連携し、介護のしごとの魅力を発信を行うプロジェクトを昨年に取り続き、実施しています。

『anan』『POPEYE』本誌、ウェブでの特集、「こここ」での連載、「ケアするしごと展」、『ケアするしごとバー』、『ケアするしごとツアー』など多彩なプログラムに取り組み、また、3誌自らのスペシャルブックも出版しています。

11月11日の「介護の日」に合わせてスタートするが、「ケアするしごと展」です。『anan』『POPEYE』『こここ』編集部が、全国さまざまな介護・高齢者ケアに関わる仕事場（施設・事業所）と働く人を題材にした記事を紹介し、

この企画展は2会場で開催。東京都世田谷区T北沢にある商業施設「BONUS TRACK（ボーナスストラック）」11月11日（月）～11月29日（金）と東京都渋谷区の高谷サカサテラス（11月16日（土）～11月17日（日））で開催いたします。（詳細）

記事を紹介する（写真提供の他、『anan』『POPEYE』『こここ』による編集・介護をテーマにしたスペシャルブックの無料配布、トークイベントも予定しています。

- 「ケアするしごと展」トークイベント概要
  - 開催日時：11月16日（土） 15:00～16:00
  - テーマ：介護の現場のリアルイベント「ケアするしごとツアー」を企画した『KAGO LEADERS』に聞いてみる、「自分らしく生きる」を支える仕事って？
  - ゲスト：KAGO LEADERS発起人/株式会社Barade 会長：渋谷サカサテラス SHIBUYAサイドP イベントスペース（東京都渋谷区桜丘町1番1号）
  - 料金：無料
  - 定員：20名
  - 詳細：チケット申し込み：<a href="#">こちら</a>
- 下記企画展：11月27日（土） 15:00～16:00
  - テーマ：「世界いちばん輝かしい介護」を目指す「いいにいてい」に聞いてみる、「自分らしく生きる」を支える仕事って？
  - ゲスト：高田真一さん（株式会社いいにいてい代表）、梅島洋さん（株式会社いいにいてい）
  - 会場：世田谷区代田 仁徳斎病舎Nazz（ヒラツカ）（東京都世田谷区代田二丁目33番16号）
  - 料金：無料
  - 定員：30名
  - 詳細：チケット申し込み：<a href="#">こちら</a>

「何歳になっても、どこで暮らしていても、誰と一緒に暮らしても、どんな状況にあっても、自分らしく生きたい！」

そう思う人の生活を支えるクリエイティブな職業。それが「ケアするしごと」。

「自分らしく生きる」を支える。誰しもに関わる創造的なこの職業の魅力を発信していただけたら幸いです。ぜひお越しください！

<a href="#">「ケアするしごと展」の注目ポイント</a>

この後もさまざまな企画を掲載。マガジンハウスでは昨年引き続き開催、「介護のしごと」に関わる、さまざまな取り組みを行っており

2回目：2024年12月9日  
転載数：32

PR TIMES

株式会社マジンハウス

### マガジンハウス「こここ」と日本仕事百貨「しごとバー」合同企画展、「ケアするしごとバー」開催

2025年2月まで、マガジンハウスの雑誌をたずねるクリエイティブマガジン（こここ）×日本仕事百貨「しごとバー」合同企画展を開催。テーマは「ケアするしごと」。第2回は12月13日（金）20:00から。

株式会社マジンハウス 2024年12月9日 12時00分



株式会社マジンハウス（以下マガジンハウス、本社：東京都中央区、代表取締役社長：萩尾剛一）は、『anan』『POPEYE』、『働きあそぶなるとクリエイティブマガジン（こここ）』が連携し、介護のしごとの魅力を発信を行うプロジェクトを昨年に取り続き、実施しています。

「ケアするしごとバー」、『ケアするしごとツアー』、『ケアするしごと展』など多彩なプログラムに取り組み、また、3誌自らのスペシャルブックも出版しています。

『ケアするしごとバー』は、さまざまな分野で活躍する方をゲストとして迎え、お話を聴きながらゲストと会話をする日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と連携したイベント。2025年2月まで、オンライン/オフラインのライブ配信で2年間開催予定。第2回は12月13日に開催されます。

「何歳になっても、どこで暮らしていても、誰と一緒に暮らしても、どんな状況にあっても、自分らしく生きたい！」

そう思う人の生活を支えるクリエイティブな職業。それが「ケアするしごと」。

「自分らしく生きる」を支える。誰しもに関わる創造的なこの職業の魅力を、「介護」や「ケア」にまつわる多彩なゲストをお話し、トークしていきます。

「ケアするしごとバー」は、さまざまな分野で活躍する方をゲストとして迎え、お話を聴きながらゲストと会話をする日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と連携したイベント。2025年2月まで、オンライン/オフラインのライブ配信で2年間開催予定。第2回は12月13日に開催されます。

「何歳になっても、どこで暮らしていても、誰と一緒に暮らしても、どんな状況にあっても、自分らしく生きたい！」

そう思う人の生活を支えるクリエイティブな職業。それが「ケアするしごと」。

「自分らしく生きる」を支える。誰しもに関わる創造的なこの職業の魅力を、「介護」や「ケア」にまつわる多彩なゲストをお話し、トークしていきます。

2024.12.13

介護の世界の広さとは？  
おんこアークの現場

イベント概要  
日程：2024/12/13  
開催時間：20:00-21:00  
オンライン/オフライン (YouTube)  
オフライン会場：リトルトーキョー3F（東京都江東区三好1-7-14）  
参加費：無料（オンライン会場はフンドリンク制）  
チケット：<a href="#">Egami.comで申し込み</a>

『ケアするしごとバー』は、この後も2025年2月まで、全5回開催されます。

第3回：2025/1/15（水）20:00-21:00

3回目：2025年3月5日  
転載数：24

PR TIMES

株式会社マジンハウス

### マガジンハウス、「介護」から「幸せに生きる」を考える小学生向け冊子をオンラインで無償公開！教育・福祉関係者向けのモニター企画も実施

『幸せに生きて、どういうこと？』知ってほしい「介護」のしくみと仕事！

株式会社マジンハウス 2025年3月5日 09時00分



株式会社マジンハウス（以下「マガジンハウス」、本社：東京都中央区、代表取締役社長：萩尾剛一）は、冊子『幸せに生きて、どういうこと？ 知ってほしい「介護」のしくみと仕事』（以下「本冊子」）を企画制作し、PDFデータの無償公開を開始しました。

「介護」を通して社会を学ぶ、小学生向けの冊子

本冊子は、マガジンハウスが運営するウェブメディア「福祉をたずねるクリエイティブマガジン（こここ）」の編集部が、福祉現場における「介護」の実際や疑問を元に「幸せ・福祉」について考える機会を提供しようとして企画しました。

超高齢社会の日本において「高齢介護」はもっとも身近な福祉分野といえます。本冊子では「介護」をめぐる根源的な考え方や制度をストーリー仕立てで伝えることで、誰しもが持つ「生涯かけて幸福を追求できる権利」を子どもたちに知ってもらうことを目指しています。また、介護職が「一人ひとりの自分らしく生きること」を支える仕事であること発信し、職業イメージを刷新にすることも目的の一つです。

厚生労働省ウェブサイトで無償公開、モニター企画も実施

本冊子は、授業の教材や、社会見学の手帳資料、ご家庭での学習を想定して制作しました。自由に準っていたり、[厚生労働省のウェブサイト及びマガジンハウスの「こここ」ウェブサイト](#)上でPDFデータを無償公開し、どなたでもダウンロードができるようになっています。また、教育関係者の方に向けたモニター企画では、印刷版もお届けします（※先着順/印刷数上限あり）。

福祉を知ることは、社会の仕組みを知ること、また自分が持つ権利を知ることにつながります。本冊子を通して、一人ひとりが自分らしく生きることを実現できる社会づくりに向けて寄与できれば幸いです。

※本冊子の制作及びデジタルデータ公開は厚生労働省補助事業「令和6年度介護のしごと魅力発信啓発事業（情報発信事業）」として実施しています。実施主体：株式会社マジンハウス/モニター企画については、マガジンハウスの独自企画として展開いたします。

冊子PDFをダウンロードする（無料）

冊子のポイントと概要

ポイント①：「認知症未来共創プロジェクト」福田晴子さんに監修

子どもたちに向けて「社会保険」「介護保険」「人の幸せ」などテーマで解説するメインページ。『認知症未来共創プロジェクト』代表/慶応義塾大学大学院看護マネジメント研究科教授・福田晴子さんに監修いただきました。今の社会で生活の安心がどのように支えられているか、具体的にどのような介護サービスを受けられ、誰が暮らしを支えているか等、本質を正確に、かつシンプルに伝えることにはこだわりました。

## 事業実施一覧

No	事業名	概要	ターゲット層	アプローチ方法	実施時期	目指すアウトカム
1	anan特集「自分を表現できる現場で働く、新しい介護のカタチ。」	ananにて、介護・福祉に関する特集8ページを掲載。anan本誌で制作した記事内容をanan webに転載し、記事化。	若年層（無関心層）	雑誌 WEBページ	令和6年10月9日	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ④福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）
2	POPEYE特集「介護の仕事ってこういうことだったんだ。」	POPEYE（雑誌）にて、介護・福祉に関する特集8ページを掲載。POPEYE本誌で制作した記事内容をPOPEYE webに転載し、記事化。SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施した。	若年層（無関心層）	雑誌 WEBページ SNS	令和5年10月9日	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ②介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える
3	anan×POPEYE オリジナル冊子作成	「ananのタイアップ記事8記事」と「POPEYEのタイアップ記事8記事」を1冊にまとめたオリジナル冊子を作成。展示イベントの参加者に加え、全国の書店で若年層にターゲットインしたサンプリングを実施。	若年層	啓発ツール（冊子） イベント	令和5年11月～	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ④福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）
4	展示会「ケアするしごと展」	anan×POPEYE×こここ共催の展示会イベントを渋谷・下北沢にて開催。イベント開催中にトークイベントも実施。	若年層（無関心層）	イベント	令和6年11月16日～17日(渋谷) 令和6年11月11日～29日(下北沢)	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える
5	こここ連載「自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」	ウェブマガジン「こここ」にて、福祉・介護の現場やそれに関わる人、当事者の連載記事を発信。	若年層	WEB記事	令和6年11月～令和7年3月	②介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える
6	こここ新連載「ケアするしごと、はじめの一步」	ウェブマガジン「こここ」にて、リアルイベントのレポート記事を配信し、より広範な層に対して、介護のしごとの興味喚起と理解促進を行った。	介護・福祉の仕事に関心のある方	WEB記事	令和7年1月～令和7年3月	③介護の仕事への理解を深める人が増える
7	こここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとパー」	日本仕事百貨のイベント「しごとパー」と「こここ」のコラボイベント。リアルとオンラインのハイブリット開催。	若年層（無関心層）	イベント（現地・オンライン）	令和6年11月～令和7年2月	③介護の仕事への理解を深める人が増える
8	小学生向け冊子制作「幸せに生きるってどういこと？知っておきたい「介護」のしくみと仕事」	「介護（職）」の社会的必要性を訴求する小学生向け読本を無料・使用許諾不要で発行。PDFを厚労省サイト、こここ、その他事業関連携先サイトで紹介+リアル本も1000部印刷。	小学生・保護者・教員	啓発ツール（冊子）	令和7年2月	①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える ④福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）
9	ケアするしごとツアー	介護のしごとに興味を持った方、まだ職業選択が未定の若年層、大学生等に向けて、体験、交流イベントとして「ケアするしごとツアー」を実施。全国の地域を盛り上げる介護事業所4施設を見学し、介護職についている方々と交流。	介護・福祉の仕事に関心のある方	現地ツアー	令和6年12月～令和7年1月	③介護の仕事への理解を深める人が増える

## 事業効果測定

No	事業名	当初想定・目標	アウトプット		内容	アウトカム	
			指標	結果		測定方法	主な測定結果
1	anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」	・anan発行部数(2024年10月9日発売号) 134,519部 ・anan web PV合計数 45,000PV	anan発行部数(2023年10月11日発売号)	発行部数 147,000部	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	①企画委員からのコメントの内容 ②読者のSNSでの反応 ※読者を対象としたアンケート調査が困難であるため、定性的情報を収集。	・企画委員、若手企画委員（介護従事者）から、介護のしごとに関する特集記事がananに掲載されたことに対する反響の声を多数取得。
			anan web PV合計数	60,845PV			
	POPEYE特集「介護の仕事ってこういうことだったんだ。」	・POPEYE発行部数(2024年10月9日発売号)86,333部 ・POPEYE web PV合計数 45,000PV	POPEYE発行部数(2023年10月7日発売号)	発行部数 75,667部	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	①企画委員からのコメントの内容 ②読者のSNSでの反応 ※読者を対象としたアンケート調査が困難であるため、定性的情報を収集。	・企画委員、若手企画委員（介護従事者）から、介護のしごとに関する特集記事がPOPEYEに掲載されたことに対する反響の声を多数取得。
			POPEYE web PV合計数	47,039PV			
2	anan×POPEYE×こここオリジナル冊子作成 ※No.1,2の特集を合本としたもの	・展示イベント、参加型イベントでの冊子配布数1,000部 ・全国書店での冊子配布数10,000部	ケアするしごと展、トークイベント、ケアするしごとパーでの冊子配布数	1,170部	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	会場配布数	・介護の日に合わせたイベント会場にて合本1,000部を配布。
			全国書店(31店舗)での冊子配布数	10,000部			
4	展示会「ケアするしごと展」	来場者数 2,000名（渋谷） 11,000（下北沢）	会場への来場者数	来場者数 渋谷：2,020名 下北沢：7,000名	イベントに参加した人が介護の仕事の意義・魅力についての理解を深め、より強い関心を持つようになる	イベント来場者アンケート トークイベント参加者アンケート	・展示会の接触前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。接触後は接触前に比べて、中央値が2.14上昇した。
5	こここ連載「自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」	・こここWeb10記事・新連載5合計 80,000PV～ 100,000PV	こここweb PV合計数	PV172,600	こここの連載記事が広く認知されること	こここweb PV合計数	PV172,600
6	こここ新連載「ケアするしごと、はじめの一步」	・こここWeb10記事・新連載5合計 80,000PV～ 100,000PV	こここweb PV合計数	PV172,600	こここの連載記事が広く認知されること	こここweb PV合計数	PV172,600
7	こここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとパー」	・対面参加者数 100人 ・オンライン参加者数 200人 全5回開催	対面参加者数	55名	イベントに参加した人が介護の仕事の意義・魅力についての理解を深め、より強い関心を持つようになる	イベント参加者アンケート	トークイベントに参加して介護の仕事について興味を持った、又はもっと知りたいと思ったと回答した人の割合：55.3% イベント参加前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。参加後は参加前に比べて、中央値が1.67上昇した。
			オンライン参加者数	75名			
8	小学生向け冊子制作「幸せに生きてどう過ごす？知っておきたい「介護」のしくみと仕事」	PDFデータ連携先	PDFデータ掲載先	・こここ ・厚生労働省HP ・楽天ポータルサイト	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	企画委員からのコメント	企画委員、若手企画委員（介護従事者）から、小学生向け冊子に対する反響の声を多数取得。
9	ケアするしごとツアー	参加者数 全4回：60名	参加者数	全4回：53名	ツアーに参加した人が介護の仕事の意義・魅力についての理解を深め、より強い関心を持つようになる	ツアー参加者アンケート	ツアー参加前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。参加後は参加前に比べて、中央値が2.41上昇した。

## 総括

本年度、マガジンハウス「令和6年度介護のしごと魅力発信等事業」（全国へ向けた情報発信事業）は、昨年度の成果と課題を検証し、また、企画委員会、若手企画委員会からの意見等を得ながら事業を実施しました。

情報発信事業のメインの対象を、20代から30代の介護職無（未）関心層に置き、「興味喚起」から「理解促進」へ、さらに「情報取得」へと広報活動の戦略を設計して、事業を展開。

興味喚起アクションとして、20代から30代の若年層に支持される雑誌メディア「anan」、「POPEYE」での本誌8ページの特集と、ウェブ記事10記事を展開。幅広い層へのアプローチを行いました。「POPEYE」では昨年度記事が日本雑誌広告賞のタイアップ部門銀賞受賞などトピックスもあり、広報活動での活用も行うことができました。

また、興味喚起のアクションとしては、anan×POPEYE×こここ共催「ケアするしごと展」を渋谷さくらステージで2日間開催し約2,000名が来場、下北沢BONUS TRACKで18日間開催し約7,000名が来場。期間中、anan、POPEYE、こここの特集を冊子化して、イベント会場と全国書店1万部配布を実施。立体的な広報活動を展開しました。

興味喚起から理解促進のアクションとしては、福祉をテーマにしたメディア「こここ」で介護のしごとのリアルな姿、そこにある科学的、医学的、人間的アプローチでのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを伝える「自分らしく生きる”を支えるしごと”連載を昨年度に続き、継続。今年度10記事を配信しました。今年度の記事は平均約10,000PV～18,000PV程度が読まれ、また、昨年度制作した15記事もアーカイブしておりこちらも今年度各記事3,000～8,000PV程度のアクセスがあり、ソーシャルな活動に興味を持ちながら介護職への関心にはまだ届いていない無関心若年層への興味喚起に加え、理解促進の役割を担うことができました。この記事は今後もアーカイブしていきます。

また、こここでは介護のしごとの具体的情報等の提供も行うため、新たに「ケアするしごと、はじめの一步」5記事を配信。意義ややりがいというストーリーとは別に、より具体的な情報を提供するアプローチも実施。4,000～6,000PVというスコアで情報提供を行いました。

興味喚起、理解促進、情報取得と態度変容を促しながら、それに応える取り組みとして「ケアするしごと展」では、渋谷会場、下北沢会場でそれぞれ1回ずつのトークイベントを実施。また、昨年度に続き「ケアするしごとバー」全5回の開催、そして新たに「ケアするしごとツアー」全4回を実施しました。リアルに介護職の魅力ややりがい、条件等に触れる機会を作り、広報活動を展開することで、参加者の多くに介護職へのイメージや興味の態度変容が見られ、こうした立体的取り組みによる広報効果の拡大を行うことができました。

事業間連携の取り組みとしては、合同冊子の中に、介護職発信事業のコラム掲載やこここ連載での動画情報の発信等を通して、それぞれの事業の効果拡大を図る取り組みも行いました。

また、今年度、もう一つの新たな取り組みとして、職業選択を行う世代以前の小学生とその保護者、教員に向けた理解促進ツール「幸せに生きるって、どういうこと？ 知っておきたい「介護」のしくみと仕事」（24ページ冊子、PDFで利用可能）を制作しました。これは昨年度の課題として挙げたものを本年度事業に反映させたもので、学校や教育活動プロジェクトからの反響も見られ、来年度には教育の現場での活用を促進していく予定であります。

メディアでの発信、SNSでの記事拡散、イベントの告知やレポート、リリースでの全国発信等、多角的、立体的に広報活動を展開し、事業計画で想定した目標値を全体としては上回る成果を上げることができました。

一方で課題としては、リアルな場での態度変容を促す広報活動を全体的には戦略的に行うことができましたが、その母数の拡大、広報効果の最大化は引き続きの課題と認識しています。

## 総括

興味喚起→理解促進→情報取得→入職行動の促進という広報戦略をより緻密に、そして、より最大化するために、アウトプット、アウトカムの計測方法も検討しながら、事業設計を行なっていく予定です。

私たちマガジンハウスはメディア運営のスキル、クリエイター・著名人とのネットワークを活かし、多くの読者と出会い、共感を軸につながり、一定の影響を持つチームです。私たちが、福祉・介護の現場で優れた実践を行なっている事業者や専門家と連携しながら、福祉・介護のしごとの魅力にこれまで出会っていなかった多くの人々と発信を通して出会い、つながり、福祉・介護のしごとへの理解や従事の第一歩をつくる事業を引き続き展開してまいります。